

第2期みたけ創生!!総合戦略(案)

令和2年 月 日

御嵩町

第2期みたけ創生!!総合戦略 目次

第1章 総合戦略の策定にあたって	1
1. 総合戦略の位置づけ	1
2. 総合戦略の期間	1
3. 戦略の策定体制	1
4. 戦略のフォローアップ	3
第2章 総合戦略の方向性	4
1. 総合戦略の推進の理念	4
2. 総合戦略の新たな4つの視点	5
3. 総合戦略の基本目標	9
4. 施策の体系	11
第3章 総合戦略の施策	12
基本目標1 自然のエネルギー活用を	12
基本目標2 安心してワクワクするきずなを	17
基本目標3 挑戦のバイタリティーを	22
基本目標4 みたけのレガシー創出を	28
参考資料	
1. 人口と産業動向	35
2. 「まちづくり」についてのアンケート調査結果	59

第1章 総合戦略策定にあたって

1 総合戦略の位置づけ

本戦略は、「御嵩町人口ビジョン」とその改訂（2019 年度）で示している御嵩町の人口を取り巻く現状や課題、今後の方向性を踏まえ、「みたけ創生!!総合戦略」（2015 年 10 月策定）を検証・改訂して「第2期みたけ創生!!総合戦略」として策定したものです。また、本戦略は「御嵩町第五次総合計画」に示すまちづくりを具体的に進めるためのアクションプランとしての役割を担います。

「みたけ創生!!総合戦略」においては、御嵩町のポテンシャルを最大限活用して「みたけオリジナル、なまち・ひと・しごと創生のための実現可能な取組みについて示して、施策・事業を推進してきました。

その後、国においては社会変化の動きや今後の予想を整理するとともに、新たな視点を掲げて検討を重ね、「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2019 年 12 月）を策定しました。また、岐阜県においても「第2期『清流の国ぎふ』創生総合戦略」（2019 年 12 月）を策定しており、本総合戦略はこれらの内容を踏まえています。

2 総合戦略の対象期間

【2020 年度（令和 2 年度）～2024 年度（令和 6 年度）】

3 戦略の策定体制

本戦略の策定に際しては、次のような体制により様々な立場からの意見を聴取するとともに、広く住民の意見の把握に努めました。

(1) 策定体制

図表 1-1 総合戦略の策定体制

名 称	目 的	構成等
御嵩町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部	戦略の内容について政策的な判断や決定を行うために、審議・検討を実施	町長、副町長、教育長、部長及び参事
みたけ創生有識者会議	戦略の内容について産官学金労言の各分野から特に専門的知見から意見を得るために、審議・検討を実施	産：東海化成工業(株) ながたに農園 官：岐阜県 学：岐阜大学、名古屋芸術大学 金：十六銀行御嵩支店 労：学校法人荻須学園 言：(株)ケーブルテレビ可児
課長会議、係長会議	総合戦略の個別施策について、部局横断的な検討、議論を実施	係長職以上の職員
御嵩町議会	総合戦略の内容、その推進等について意見交換等を実施	全員協議会等

(2) 住民等の意見の把握

図表 1-2 住民等の意見把握のための調査概要

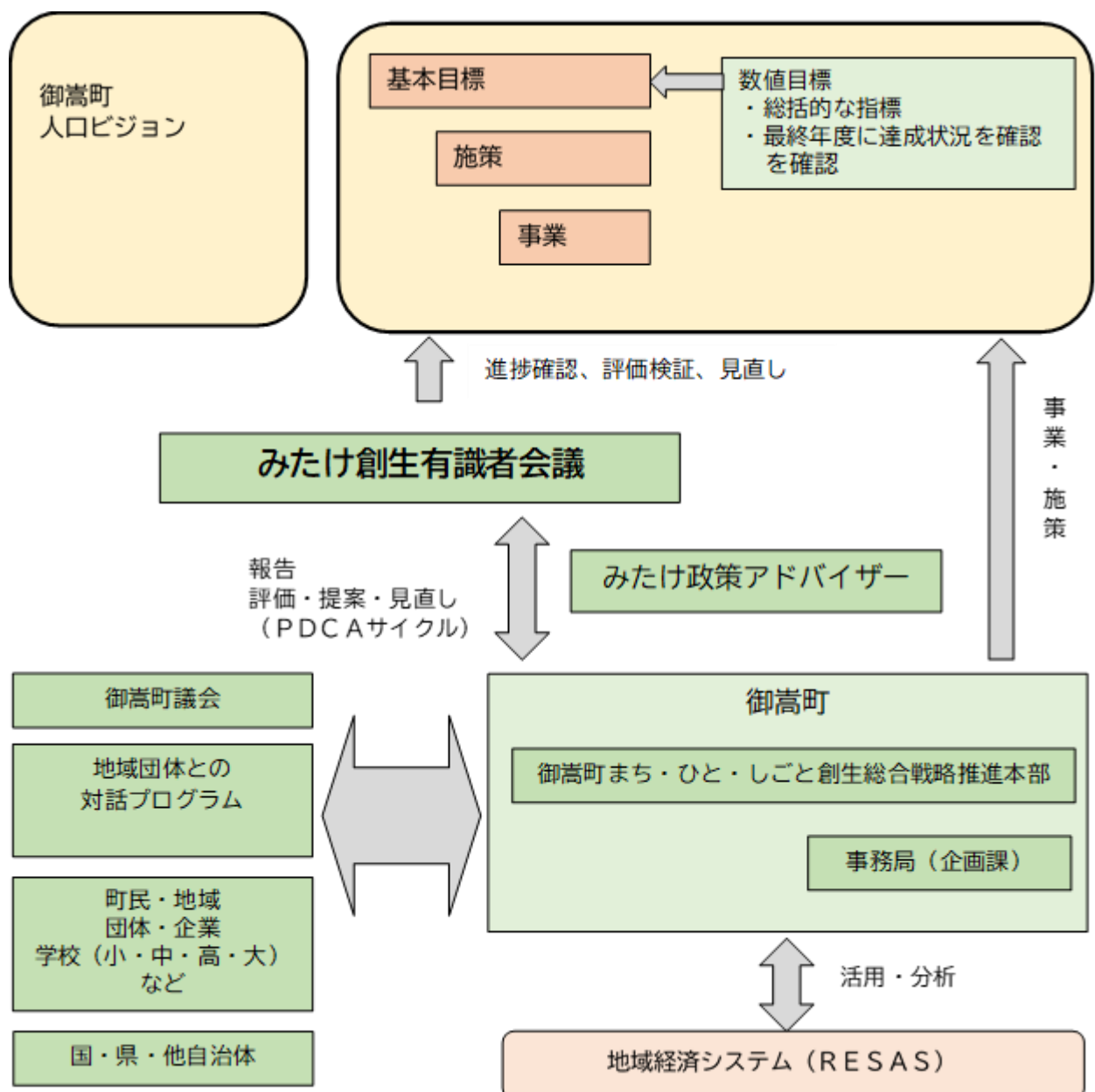
名 称	目 的	概要等
「まちづくり」についてのアンケート調査	町民を対象として、安心して暮らし続けることができ、若者が夢を描くことができるまちづくりを検討するための現状や課題、意見を把握	・ 18 歳以上の町民を無作為抽出 ・ 配布数 1,800／回収数 748 人
中学生アンケート調査	中学生を対象として、若者から見た御嵩町の現状・課題、まちづくりに対する意見を把握	・ 町内 3 中学校 3 年生 ・ 配布数 167／回収数 160 人
東濃高校、東濃実業高校ヒアリング調査	高校生の居住地等のプロフィール、進学・就職の傾向や希望、町内における活動や町とのかかわりの状況や今後について把握	・ 進路担当教諭等
子育てグループヒアリング調査	御嵩町に居住する理由、御嵩町の住みやすさ・子育てしやすさ、子育て環境等についての要望などについて把握	・ 「がんばりママクッキング」の折にクッキング参加者（11 名）

4 戦略のフォローアップ

第1期の総合戦略においては、その着実な推進のために、各施策・事業の達成状況について、毎年度、客観的な評価・検証を行ってきており、引き続き的確な進捗管理を行います。

また、本戦略においても、施策ごとに重要業績評価指標（KPI）を設定しており、またそれらの総括的な指標として、基本目標ごとに数値目標を設定しています。KPIについては毎年度、評価・検証を行い、PDCA（計画、実行、評価、改善）の視点で、達成状況に応じた取り組みの改善を行います。また、計画の最終年度（2024年度）数値目標の達成状況を確認し、戦略の評価を行います。

図表1-3 総合戦略の策定体制



第2章 総合戦略の方向性

1 総合戦略の推進の理念

御嵩町においては第1期の「みたけ創生!!総合戦略」に基づいて、「みたけ創生に向けた“チャレンジ”」という視点を掲げて、個性あるまちづくりとまち・ひと・しごとの魅力を高め、町の内外から「選ばれる」まちづくりを進めてきました。

本戦略においては、第1期のチャレンジの精神を継承するとともに、今まで培い深めてきたひとや取組みのつながりの更なる「深化」を図ります。

つまり、御嵩町の「真価」を見出して、さらに新たな取組みの展開を図り、これらの取組みがつながり、連環して、より効果的に成果を築くことを目指します。

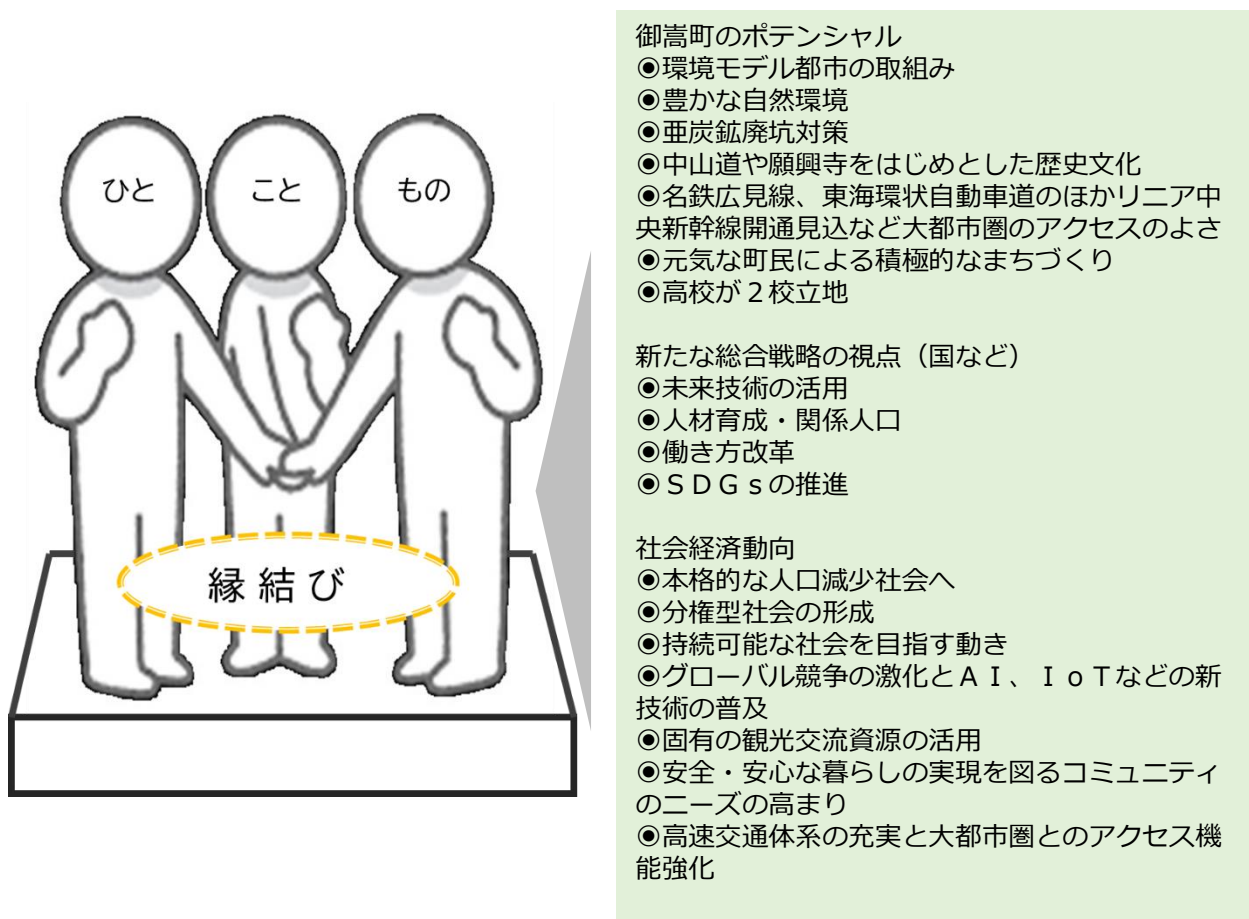
さらに、新たなひとのつながりや取組みを起こして、御嵩町が「出会いと賑わい」の町となり御嵩町に住むことや訪れることはもちろん、御嵩町と多様な関わりを持つ人々が「人が人を呼んで」増える方向として、

「きずな、と つなぎ、でみたけ創生」

を目指します。

このため、森林の緑と清流で彩られ、中山道の歴史文化が根付いている舞台を活かして、御嵩町はまさに、「ひと」「こと」「もの」の縁結びを理念として掲げて総合戦略を進めます。

図表2-1 総合戦略の推進の理念



2 総合戦略の新たな4つの視点

第2期総合戦略の推進に際しては、国が示すように SDGs の推進との関連性や、町内における豊かな生活を維持するための拠点づくりの考え方、御嵩町として創出する関係人口を明らかにします。

(1) SDGsの推進

2015 年 9 月に国連で合意された世界共通の目標である SDGs (Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)) は誰一人として取り残さないことを目指し、先進国と途上国が一丸となって達成すべき目標を示したものです。従来、持続可能性に大きく関わると認識されてきた環境分野のみならず、貧困、飢餓の解消、健康・福祉、教育、ジェンダー平等、平和と公正という目標も掲げられており、世界的に考え方が浸透しつつあります。

こうした国際的な流れの中で、地方創生は「潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会」を目指すために、SDGs のアプローチと同様に、環境のみならず福祉、教育、産業、防災等の地域の安全、都市構造や居住環境の改善など総合性が求められるまちづくりにも必要になっています。

御嵩町は、国（内閣官房）より「環境モデル都市」に選定されて、温室効果ガスの大幅削減など目標を掲げて先駆的な取組みを推進してきた実績があり、優れた自然環境を保全するとともに地球環境へ配慮しながら住民のライフスタイルの変革を進めてきました。また、御嵩町は地方創生の推進、さらに総合計画によるまちづくりにおいては、住民生活や産業活動に必要な行政施策を進めており、その方策としてパートナーシップを形成してきました。

そこで本戦略においては、SDGs に示されている目標の達成について、総合戦略を推進しながら取り組んでいく視点で、それぞれの施策等の SDGs との関連を捉えていくものとします。

図表 2-2 SDGs の 17 の目標



図表 2－3 17の目標とその補足

1. 貧困の撲滅（あらゆる場所で貧困に終止符を打つ）
2. 飢餓撲滅、食料安全保障（食料の安定確保と栄養状態の改善、持続可能な農業）
3. 健康・福祉（すべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進）
4. 万人への質の高い教育、生涯学習（公平で質の高い教育を提供し生涯学習を促進）
5. ジェンダー平等（平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメント）
6. 水・衛生の利用可能性（すべての人に水と衛生へのアクセス）
7. エネルギーへのアクセス（手ごろで信頼でき持続可能、近代的なエネルギーへ）
8. 包摂的で持続可能な経済成長、雇用（生産的な完全雇用、働きがいのある人間らしい仕事）
9. 強靱なインフラ、工業化・イノベーション（持続可能な産業化、技術革新）
10. 国内と国家間の不平等の是正
11. 持続可能な都市（都市を住み続けられるように）
12. 持続可能な消費と生産
13. 気候変動への対処（気候変動の影響に立ち向かうため、緊急対策）
14. 海洋と海洋資源の保全・持続可能な利用（海の豊かさを守る）
15. 陸域生態系、森林管理、砂漠化への対処、生物多様性（陸の豊かさを守る）
16. 平和で包摂的な社会の促進（平和な社会、全ての人に司法へのアクセス）
17. 実施手段の強化と持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップの活性化（持続可能な開発に向けて実施手段を強化）

（２）「興味を惹く」地域の形成

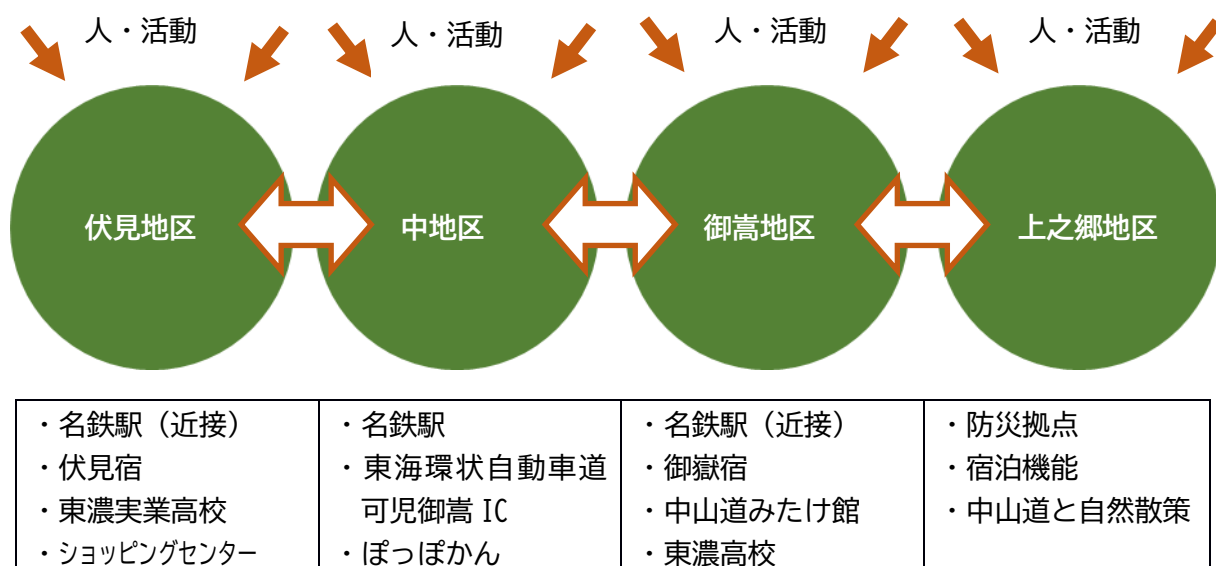
総合戦略は、御嵩町が住民、企業とともに一体的になって「出会いと賑わい」を創出するものです。

人口対策とともに、人口減少社会への対応が求められる中では、新たな都市構造を展望しながら、コミュニティの維持と新たな「生業（しごと、社会的活動）」が創出できる、興味を惹き活力を創出する地域の形成が求められます。

たとえば、高齢になっても歩いて生活することができる徒歩圏での生活サービスを充実することや、コンパクトでエネルギー消費が少ない地区の形成などスマートなまちを目指すことなどです。

上之郷、御嵩、中、伏見の各地区においては人口減少社会の中においてコミュニティを維持して快適で豊かな生活を営み続けることができ、さらに特色ある「出会いと賑わい」の創出を目指します。各地区における公民館や既存の都市機能などを活用しながら、特色ある取り組みを進めるとともに、地区相互が連携して取り組みのレベルアップを図ります。

図表 2 - 4 4つの地区における「元気で面白い」拠点づくりのイメージ



（３）「関係人口」創出の方針

全国的に人口減少が進む中では、移住する「定住人口」の確保や、観光に來訪するなどの「交流人口」のほかに、地域と御嵩町について興味を感じてくれて、町民と継続的に交流や活動によって“きずな”や“つながり”を深め、「面白い」考え方や活動、生き方を実現する人々を創出して地域の持続性を高める必要があります。

人々の目的と滞在期間で人口の種類について整理すると、特に御嵩町にルーツがある人や、御嵩町を行き来する人、関わりを持っていた人々のうちから、ターゲットを絞って「関係人口」を創出します。

図表 2 - 5 目的・滞在期間と「関係人口」 （※：関係人口、関係人口を含むもの）

	通 年	滞 在	来 訪
住む人	住民 近居※	別荘※ 実家※ 二地域居住※	帰省※ 空き家管理※ お試し居住※
働く人	常住就業者 通勤流入就業者※	セカンドオフィス※ サテライトオフィス※ シェアオフィス※ ワーキングホリデー※ 農林業サポーター※ 職業訓練※ CSR 活動※	コワーキング※ 展示会※ 会議※ 研修※ CSR 活動※
学ぶ人	常住学生・生徒等 通学学生・生徒等※ 塾・予備校※	サマースクール※ サテライト研究室※	サマーキャンプ 合宿
楽しむ人	自然公園、運動公園※ スポーツクラブ※ 趣味の集い※	滞在型観光プログラム	交流イベント等 インバウンド

御嵩町においては、下記のようなターゲットの「関係人口」を創出して、御嵩町に「面白く」関わりを持ってもらい、それを通じて町民との交流を深めて、お互いの楽しみや生きがいを高めて、“きずな”と“つなぎ”を継続的に深めていきます。

図表 2－6 御嵩町が創出を目指す「関係人口」のイメージ

- 御嵩町にルーツがある人々などとの関係を深める
 - ・本人や親などの親族が御嵩町出身者の人々を掘り起こして、今の御嵩町や取組みについて情報発信
 - ・御嵩町に関心を持ちファンになった人々を人づてやSNSなどで関係性を持ち、情報発信等を通じて第二の故郷として愛着を醸成
- 御嵩町で学ぶ・学んだ人々との関係を深める：高等学校、教える人の確保
 - ・伝統のある東濃高校、東濃実業高校との連携を深めるとともに、OBとのつながりを再生
 - ・子どもや若者同士が教え合うような教育・生涯学習を展開することや、OBとともに町民が御嵩をフィールドに活躍
 - ・夏季などの大学の研究室・ゼミのサテライトの確保など
- 新たなワーク・ライフスタイルの場をつくる：御嵩町で可能な仕事の持ち込み・御嵩を稼ぐ拠点にしてもらう
 - ・御嵩町で可能な仕事を持ち込みながら、しごとのための滞在
 - ・二地域居住が可能なワーク・ライフスタイルの場を創出と将来的なオフィスの移転促進
- SDGs推進への企業活動促進：企業と学び合い行動する機会の創出
 - ・町内外から参加している「企業の森」の成果を活かして、世界的に関心が高まっているSDGsにかかわる町や企業の取組みについて学び合い、活動を展開
- 御嵩町の多彩な情報発信の展開：縁のある人による情報発信、インフルエンサーの確保
 - ・御嵩町出身者や御嵩町の魅力・「面白さ」を感じる人々による御嵩町の情報を発信促進
 - ・御嵩町に訪れて御嵩ファンのつながりの拡大
- 御嵩町を環境教育のフィールド、舞台とする
 - ・豊かな自然をフィールドとして自然の循環、生態系などを学習
 - ・芸術系大学などの学生、アーティストなど幅広い層が環境アートを滞在して製作

（４）ダイバーシティ（多様性のある社会づくり）の推進

人口減少社会においては地域が開放的、積極的に世代間、国際間の交流を進めることで相互理解を深め、心と心のつながりをつくり深めることが必要です。このため、御嵩町の資源を再評価して活かし、誰もが活躍することができるように、お互いに尊重し合い助け合う社会を形成します。

御嵩町においては、日本への定住・永住希望する外国人や来訪する外国人も増えていることから、相互理解による多文化共生のほか、企業におけるテレワークなどの働き方の多様化など、多様な人材による多様な働き方を推進します。

それぞれの町民や御嵩町にかかわりたい人材に活躍の機会を提供することや、提案してもらう機会を創出して、活躍する人材を拡大していきます。

3 総合戦略の基本目標

御嵩町に住み関わる次代を担う人づくりを目指して4つの目標を掲げて、それぞれの目指すべき方向性に即して具体的な施策・事業を展開します。

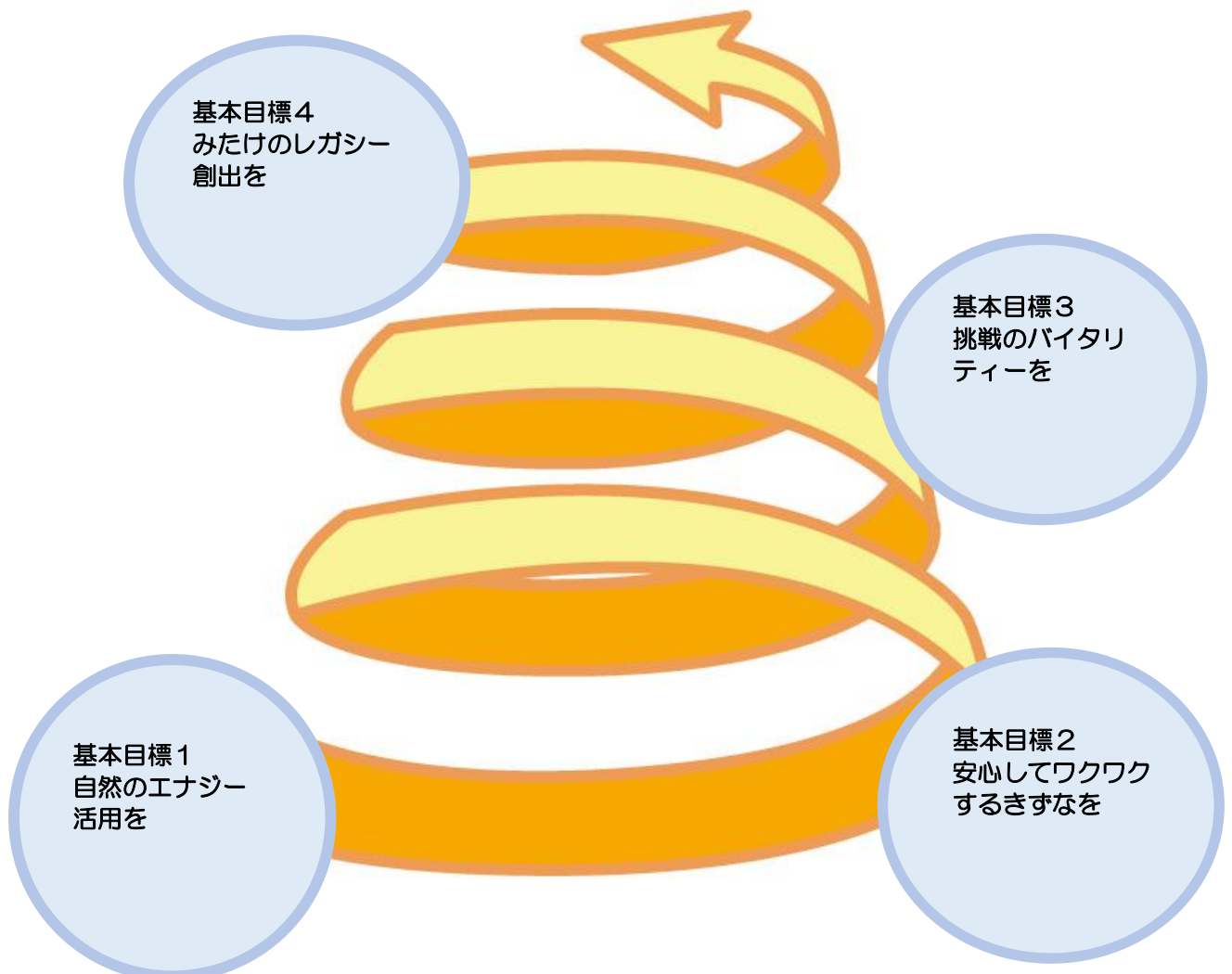
自然のエネルギーを活かした「環境のみたけ」の創造（目標1 自然のエネルギー活用を）、地域における安心して楽しいきずなづくり（目標2 安心してワクワクするきずなを）を進めることによって、御嵩町の資源を活かして舞台を整えます。

さらに、この舞台を活かして稼ぐ人が躍動する挑戦の機会を増やし（目標3 挑戦のバイタリティーを）、他地域からも注目される興味深い取組みを進め（目標4 御嵩のレガシー創出を）、これらにより御嵩町の真価を高め、定住人口、交流人口、関係人口を創出します。

総合戦略をより効果的・効率的に推進するためには、「ひと」「こと」「もの」の「縁結び」という推進の理念を念頭に置きながら、取組み相互の連携を図り、より効果的に施策・事業を進め、スパイラル（螺旋）を描くようにその内容が発展するようにします。

図2-6 総合戦略推進の理念と基本目標

“きずな”と“つなぎ”



【基本目標１】自然のエネルギー活用を

大都市圏に近く自然にも恵まれている御嵩町の特性を一層高めてＳＤＧｓの取組みを先導します。環境モデル都市としての取組みを一層推進して、ＣＯ２の排出抑制や自然環境の保全を進めるとともに、環境意識が高く行動に移すことができる人づくりを推進します。

【基本目標２】安心してワクワクするきずなを

地域社会が持続して新たな定住人口や交流を創出するために、御嵩町に住み続けやすく住みたくくなるような子育てしやすい環境を一層充実します。

【基本目標３】挑戦のバイタリティーを

雇用の場を創出するとともに人材確保ができるように、町内の事業者・立地企業などによる新産業創出や地域ブランド開発、事業者や住民による観光交流を支援するとともに、産業人材を育成するための教育を充実します。

【基本目標４】みたけのレガシー創出を

御嵩町の魅力を高めながら御嵩町の関係人口を開拓するために、興味深い「こと」をつくり関心を持ってくれる層を掘り起こすことができる情報発信を強化します。

4 施策の体系

第2期総合戦略においては4つの基本目標ごとに施策を掲げて、施策を推進するものとします。

図表2-8 基本目標と施策

基本目標	施 策
【基本目標1】 自然のエネルギー 活用を	施策1 エネルギーの需給と循環利用
	施策2 自然環境の保全と活用
	施策3 環境意識の向上と環境教育の一層の推進
【基本目標2】 安心してワクワクする きずなを	施策1 安心して子育て・子育てしやすい環境づくり
	施策2 移住促進、2地域居住等による定住・関係人口の創出
	施策3 暮らしの安全・安心の確保
【基本目標3】 挑戦のバイタリティー を	施策1 IoT、AI等を活用した新産業創出
	施策2 農林産品等の資源を活かしたブランド開発・販路拡大
	施策3 新産業分野の人材育成のためのキャリア教育
	施策4 着地型・体験型の観光交流の推進
【基本目標4】 みたけのレガシー 創出を	施策1 興味深い取組みへの支援
	施策2 みたけの興味深い「こと」づくりを情報発信
	施策3 地域を担う人材の育成と活用
	施策4 外部人材の登用で興味を惹くまちに

第3章 総合戦略の施策

基本目標 1 自然のエネルギー活用を

目指す将来の姿

- 住民や企業の実践により、CO₂ 排出の削減が進み、地球環境にやさしいまちを形成しています。
- 「環境モデル都市」の実践が発展し、環境、社会、経済の真価が創造されて、まちの活力が高まっています。
- 御嵩町の一大産業を支えた鉄道が住民の足として維持され、関連する公共交通の利用促進が進むとともに、環境に配慮して自動車に頼りすぎずに自転車や徒歩で移動している住民が増えています。

※環境モデル都市

- ・「環境未来都市」構想の基盤を支える低炭素都市
- ・温室効果ガス排出の大幅な削減など低炭素社会の実現に向け、高い目標を掲げて先駆的な取り組みにチャレンジする都市・地域

※環境未来都市

- ・環境、社会、経済の三側面に優れた、より高いレベルの持続可能な都市
- ・環境・超高齢化対応等に向けた、人間中心に新たな価値を創造する都市

◇数値目標

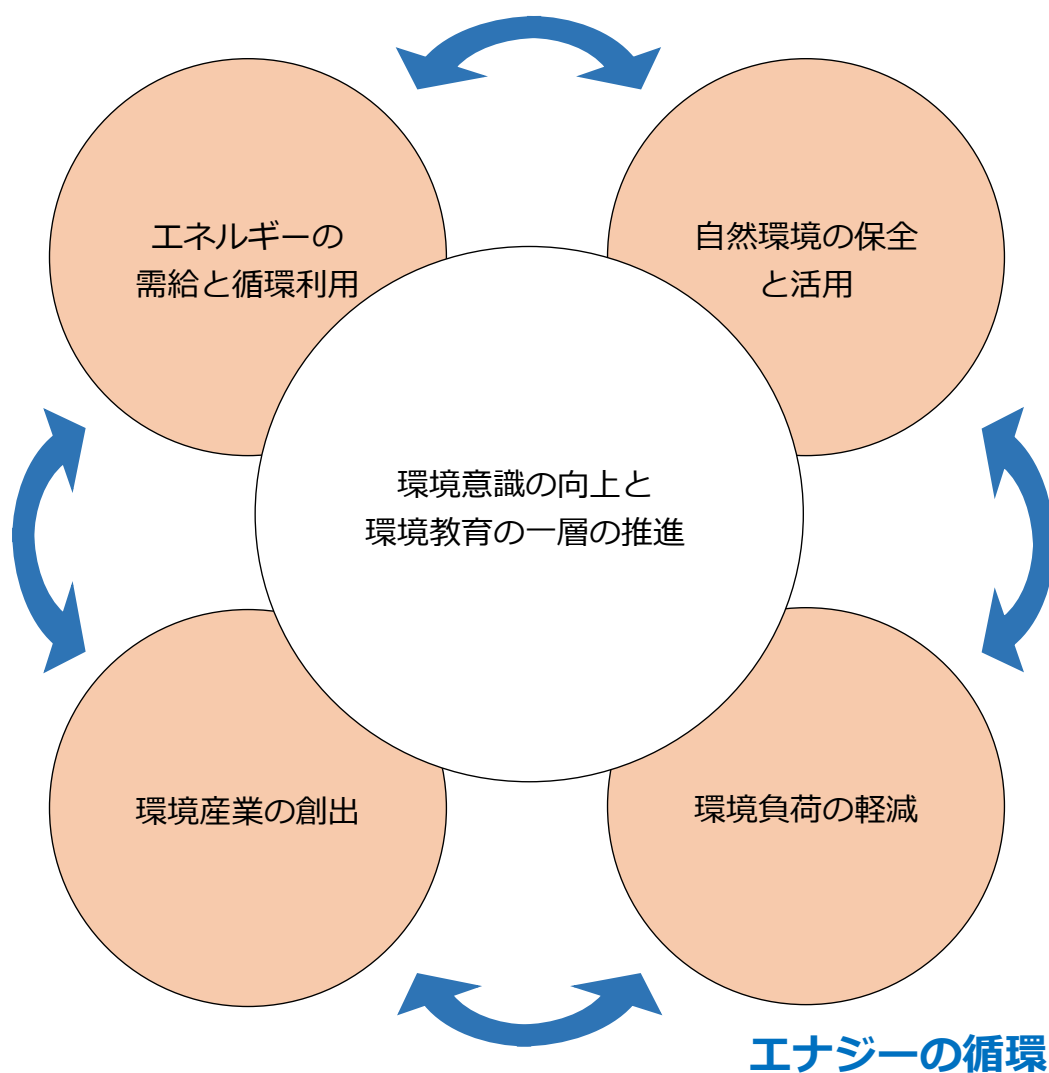
	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期基準値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
CO ₂ の削減量	－	－	20,217 t	38,881 t
環境モデル都市の認知度	－	－	65.9%	65.9%

◇SDGsの推進



- ◎持続可能な開発のための教育を推進します。
- ◎再生可能エネルギーの導入を促進します。
- ◎環境産業の展開により持続可能な産業化を促進します。
- ◎森林を保全して温室効果ガスの吸収力を高めます。
- ◎森林と山地生態系の保全と、持続可能な森林経営を進めます。

推進イメージ



施策1 エネルギーの需給と循環利用

◇K P I

	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期基準値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
太陽光発電設置世帯数	350 世帯	650 世帯	480 世帯	780 世帯
名鉄広見線（新可児～御嵩間）延べ利用者数	—	—	896,043 カウント	898,000 カウント
公共交通（自主運行バス）の利用者数	25,923 人	26,000 人	24,069 人	25,000 人
レンタサイクル利用者数	279 人	418 人	142 人	213 人

◇施策の方向

エネルギーの「地産地消」の取組みを進めるために公共施設や住宅への太陽光発電、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーの導入を進め、災害時においてもエネルギー確保が可能になるようにしくみづくりを進めます。

また、住民の移動手段として環境にやさしい公共交通や自転車、徒歩での移動の促進を図り、観光客など来訪者にも利用を促します。

◇主な施策

施策1 再生可能エネルギーを活用した拠点づくりと支え合いのしくみづくり		
事業1	公共施設等への再生可能エネルギー等導入事業	公共施設や住宅への太陽光発電や燃料電池など、再生可能エネルギーの導入を推進します。
事業2	災害時における地域支援条件付き太陽光発電設備設置支援事業	災害時における近隣への電気の融通という「共助」の約束を条件に、太陽光発電設備の設置を支援します。
施策2 木材を活用した再生可能エネルギーの普及促進		
事業	薪ストーブ推進事業	薪ストーブの導入により「木材の地産地消」による利用を推進します。
施策3 過度に自動車に頼らないための移動の利便性の向上		
事業1	公共交通ネットワークの形成、利用促進事業	町内各地と周辺都市を結ぶ公共交通ネットワーク形成による利便性の向上のほか、各種利用促進施策を展開します。
事業2	ノーマイカーデー運動推進事業	自動車の利用を控える日を設けて、自動車による CO2 排出の削減を促進します。

その他主な事業

- ・次世代自動車等の普及促進事業
- ・レンタサイクル活用事業

施策2 自然環境の保全と活用

◇K P I

	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期基準値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
地域住民等による里山保全活動参加者数	－	－	560 人	610 人
企業との協働による森林づくり協定を締結した森林面積	20.0ha	40ha	40.4ha	40.4ha
森林経営計画樹立面積	－	－	462.0ha	562.0ha

◇施策の方向

民間企業や住民ボランティアなど、多様な主体と連携・協働して、さまざまな資源の供給源たる森林の保全を進めます。

森林ボランティア「水土里隊」や中学生、高校生との協働による森林保全の取組みを充実するとともに、まちぐるみで森林の持続性を高めます。

◇主な施策

施策1 地域住民等による森林保全活動の推進と普及啓発		
事業	企業や森林ボランティアによる森づくり事業	企業や森林ボランティアと協働して、森林の持つ機能の発揮を促進させるとともに、林業体験や間伐材を利用した環境教育などを通じて多様な主体に森林保全の大切さを伝えます。
施策2 森林の適正な維持管理の推進		
事業	森林活用に関する意向調査事業	森林所有者に森林の管理に関する調査を行い、森林管理の集約化を図ります。
施策3 持続可能な森林経営の強化と拡大		
事業	森林経営信託拡張事業	森林経営信託による森林整備面積の拡大と、周辺の民有林における森林整備の促進を図ります。
その他主な事業 ・学校と連携した多様な実験林形成事業 ・不適正開発防止事業 ・御嵩町名木等認定事業		

施策3 環境意識の向上と環境教育の一層の推進

◇ K P I

	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期基準値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
環境学習講座の参加人数	－	500 人以上	663 人	1,000 人
一般廃棄物生活系可燃物に占めるプラスチック製容器包装収集量の割合	－	－	3.1 %	4.0 %

◇ 施策の方向

豊かな森林環境などを活かしてまちぐるみでの環境保全活動を促進するため、子どもや高齢者を含め幅広い世代において環境モデル都市を進める人づくりを進めます。

森林をフィールドとし、木育や環境教育を展開するとともに、家庭や地域での取り組みや他地域との取り組みを進めながら、環境保全について学び行動することを促します。

◇ 主な施策

施策1 豊かな自然環境やごみの減量に対する理解の促進		
事業1	ぎふ・みたけの木育推進事業	木材を使用したおもちゃや遊具づくりなどを通じて、木や森林の大切さなどの「学び」を推進します。
事業2	地域におけるごみの減量啓発事業	学校や地域の交流施設などにおいてごみの減量やリサイクルの方法等について幅広い世代に対し啓発します。
施策2 地域が主体となった環境教育活動の推進		
事業	環境教育推進事業	環境講座のプログラム・教材やコンテンツ等を活用し各種イベントや講座を展開することで、地域ぐるみの環境教育を推進します。
その他主な事業 ・生ごみたい肥化促進事業 ・ICT 活用による環境教育推進事業 ・向こう三軒両隣節電チャレンジ省エネ活動推進事業 ・SDGs 未来都市・環境未来都市、環境モデル都市間の森林を主体とした循環型エネルギー学習推進事業 ・環境アートの創作展開事業		

基本目標 2 安心してワクワクするきずなを

目指す将来の姿

- ◎妊娠、出産からの子育て支援や教育が切れ目なく提供されており、子育て世代が安心して定住しています。
- ◎防災対策が進むとともに、地域における自助、共助が進み、住民が支え合い、安心して暮らし続けています。

◇数値目標

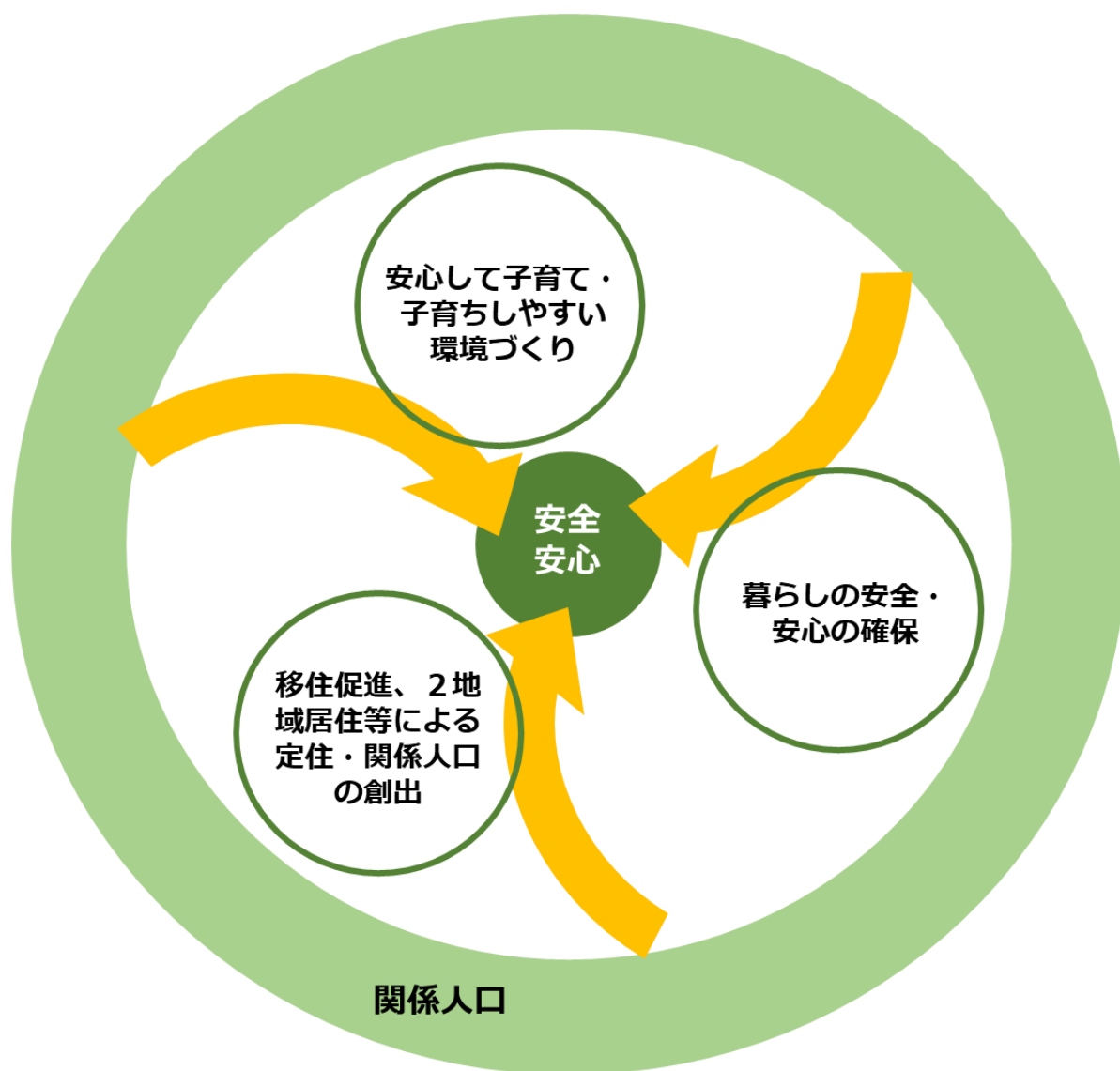
	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期基準値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
御嵩町は「住みよい」と感じる市民の割合	58.5%	60.0%	55.6%	60.0%
子育て環境や支援への満足度	未就学児 3.1 点 小学生保護者 2.9 点	3.5 点	未就学児 3.2 点 小学生保護者 3.0 点	3.5 点
防災体制への満足度	12.3%	15.0%	20.4%	23.0%

◇SDGs の推進



- ◎ワーク・ライフ・バランスを促進して、家庭や地域における子育て支援を進めます。
- ◎人々に安全で包括的かつ利用が可能な公共スペース等を提供します。
- ◎自然災害に対する強靱性や能力を適応強化します。

推進イメージ



施策1 安心して子育て・子育てしやすい環境づくり

◇K P I

	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期基準値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
保育園待機児童数	0 人	0 人	0 人	0 人
1 歳 6 か月～3 歳の子どもの朝食欠食者の割合	－	－	4.3%	0 %

◇施策の方向

御嵩町で子どもを安心して生み育てることができ、住み続けられるように、妊娠・出産・子育てにわたる切れ目ない支援と、多様な子育て支援ニーズへ対応することができるサービスや環境を整えます。

また、子どもを持つ家庭が定住地として御嵩町を選択し、子どもがたくましく生き、豊かな人間性を養うことができるような教育を地域とともに進めます。

◇主な施策

施策1 「切れ目ない支援」の充実		
事業	子育て世代包括支援事業	保健師、保育士等の専門スタッフによる相談対応や関係機関との連絡調整など、妊娠期から子育て期及びその先を見据えた支援を行うため、子育て世代包括支援センターを設置します。
施策2 多様な保育の充実		
事業	保育の充実促進事業	一時預かり保育や休日保育、病児保育など、ニーズに応じた多様な保育を進めます。
施策3 子どもや子育て家庭をみんなで見守り育む環境づくり		
事業	青少年の健全育成事業	「青少年育成町民会議」において可児警察署等と連携し、青少年健全育成や非行防止活動を展開します。
施策4 「食」の大切さを広める食育の推進		
事業	地域ぐるみの食育推進事業	保育園や幼稚園、学校、企業などとの連携、情報共有を通じて、全町的に食育を推進します。
その他主な事業		
・（仮称）中保育園・中児童館整備事業 ・ファミリー・サポート・センター充実事業 ・家庭教育学級事業 ・IoT を活用した教育推進事業 ・子育て短期支援事業 ・ワーク・ライフ・バランス推進事業		

施策2 移住促進、2地域居住等による定住・関係人口の創出

◇K P I

	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
移住交流・子育て支援ポータルサイトアクセス数	－	月3,000人以上	3,618人	月4,000人以上
東京圏からの移住就業者数	－	1人	－	5人
空き家バンク登録物件の成約数	－	－	15件	35件

◇施策の方向

良質で健康的な住まい確保を支援して、御嵩町の自然豊かな暮らしや人々の暖かい“きずな”の中でライフスタイルの実現を目指す人々の移住・定住を図ります。

このため、住民が誇りと愛着（シビック・プライド）を高めるとともに、都市部の人々や御嵩町に縁がある人々などに対し、住まいや居住環境、雇用機会、生活サービス、可能なライフスタイル等について十分に情報を提供しながらシティ・プロモーションを展開します。

◇主な施策

施策1 移住・定住の促進		
事業	移住交流・子育て支援ポータルサイトブラッシュアップ事業	空き家バンクや移住交流に関する情報、子育て支援に関する情報、仕事、町内企業についての情報などを包括しているポータルサイトのよりいっそうの充実を図ります。
施策2 空き家対策の推進		
事業	空き家家財道具等処分費補助事業	空き家に残存する家財道具の処分にかかる費用を補助し、空き家の利活用を進めます。
施策3 「みたけを愛する人」「みたけに関わりたい人」の創出		
事業	みたけの魅力発信事業	御嵩町の歴史文化や自然、近況、取組みなどについて積極的に情報発信するとともに、情報発信の輪を広げて、来訪や活躍の機会を提供します。
その他主な事業 ・東京圏からの移住就業支援事業 ・クラウドファンディング支援事業 ・クラウドファンディング型ふるさと納税実施事業		

施策3 暮らしの安全・安心の確保

◇K P I

	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期基準値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
防災リーダー数	93 人	200 人	193 人	250 人
人口当たりの認知症サポーターの割合	－	－	6.3 %	9.0 %
みたけ健康ポイント応募者の 20 歳以上の人口に占める割合	－	－	7.7 %	10.0 %

◇施策の方向

大規模地震や水害にも安全な強靱なまちづくりを進めるために、亜炭鉱廃坑対策を着実に進めるとともに、防災拠点・交流拠点となる新庁舎の整備、地域における防災体制を充実します。

また、高齢者や障がい者、子育て世代など、誰もが安心して暮らし続けることができるよう、地域における支え合いの充実と、健康づくり、高齢者などの活躍の場づくりを進めます。

◇主な施策

施策1 安心・安全な庁舎建設の推進		
事業	新庁舎等整備事業	災害時に指令機能を十分に発揮し、防災情報ネットワークが充実した安心で安全な庁舎を整備します。
施策2 亜炭鉱廃坑対策・防災対策の推進		
事業	南海トラフ巨大地震亜炭鉱跡防災対策事業	国により措置された本事業に基づき、計画的に防災工事を進めます。
施策3 地域防災人材の育成		
事業	地域における防災人材の育成推進事業	消防団員の確保を図るとともに、防災リーダーの養成講座や地域住民主体の防災訓練の実施等により、防災人材の育成に努めます。
施策4 医療・福祉の連携と町民の健康増進		
事業	みたけ健康ポイント事業	各種健診や健康づくりのための教室への参加に応じてポイントを付与することで、町民の健康増進活動への参加を促します。
その他主な事業 ・ 特定鉱害復旧事業 ・ 耐震化推進事業 ・ 公共施設等適正維持管理事業		

基本目標3 挑戦のバイタリティーを

目指す将来の姿

- ◎新産業・新分野に挑戦する企業や若者の起業が盛んになっており、農業、工業、商業・サービス業や観光業等が雇用の機会を増やしています。
- ◎高等学校においてキャリア教育が充実し、御嵩町で働くことの魅力が高校生や若者に理解されて、町内に就職する学生が増加しています。

◇数値目標

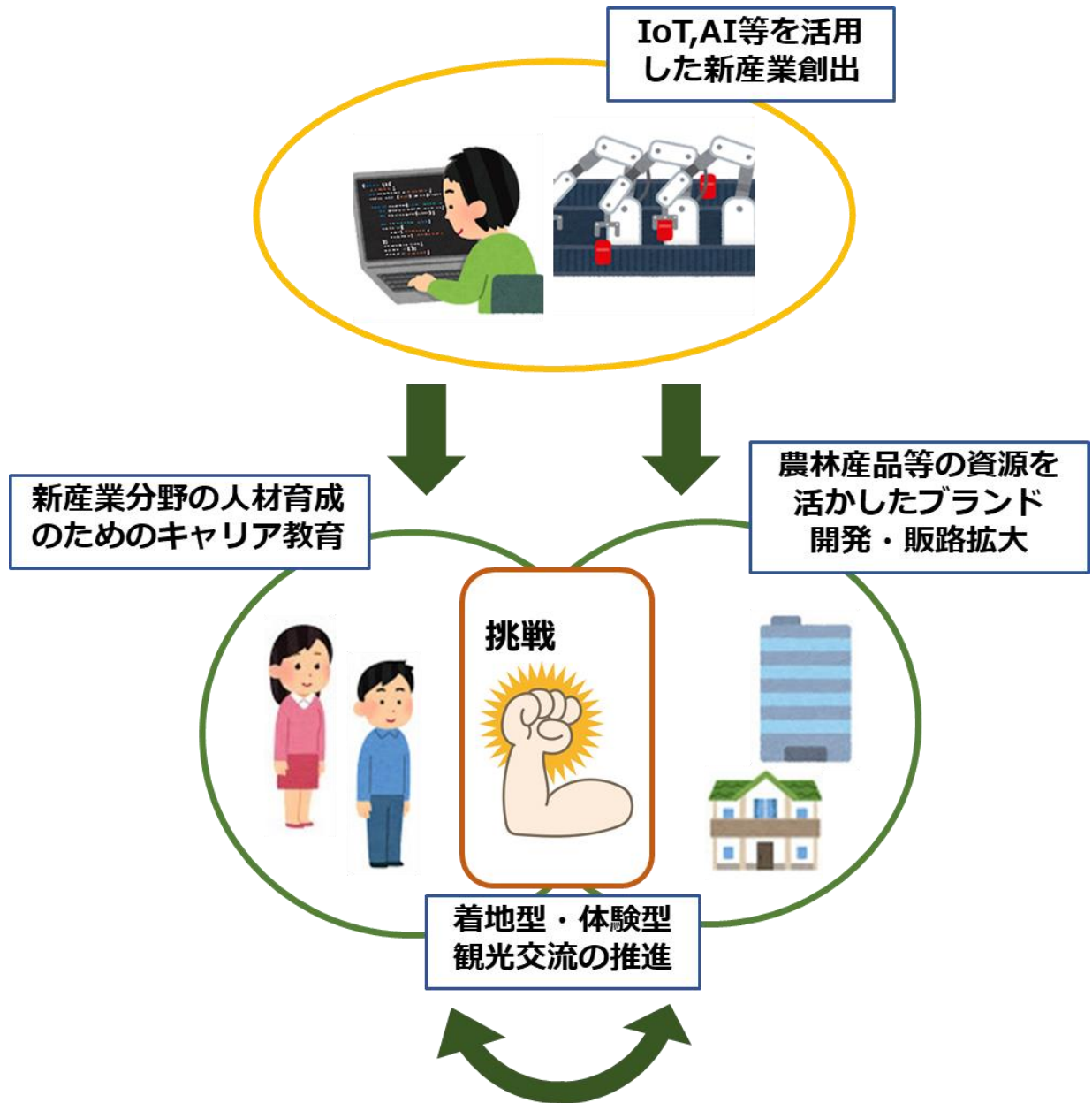
	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期基準値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
町内従業者数（事業所単位）	7,202 人	8,000 人	7,284 人	8,000 人
観光入込客数	51 万人	53 万人	47 万人	51 万人

◇SDGsの推進



- ◎技術向上及びイノベーションの推進、生産活動や適切な雇用創出、起業を促します。
- ◎若者の就労促進、女性が働きやすい環境を創出します。
- ◎持続可能な産業化を促進するとともに、環境に配慮した技術等の導入を進めます。
- ◎雇用創出、文化振興・商品販促につながる持続可能な観光を振興します。

推進イメージ



施策1 IoT、AI等を活用した新産業創出

◇KPI

	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
IoT、AI等を導入している企業数	－	－	－	2社
支援事業を通じた起業者数	－	－	0人	3人
本社機能を移転した企業数 (スモールビジネスを含む)	－	1社	0社	1社

◇施策の方向

グリーンテクノみたけなど工業団地を中心とした企業誘致により製造業の拠点を形成してきた御嵩町に若者が移住・定住したくなるように、工業団地に限らず全町的に、多様な雇用の場を充実します。

◇主な施策

施策1 新産業を担う人材の育成		
事業	IT人材育成事業	プログラミング教室やオリジナルアプリ開発の支援のほか、学校の授業において外部講師による授業展開など、ICT、IoT等を最大限に活用することができる人材を育成します。
施策2 企業と起業支援の強化		
事業	企業誘致・企業支援等事業、起業者応援事業	成長産業の立地、企業誘致に対する奨励金制度や、移住就業者等に対する支援制度の充実を図ります。
その他主な事業 ・工業用地の開発可能性調査 ・中小企業資金融資制度あっせん事業 ・商工会補助事業		

施策2 農林産品等の資源を活かしたブランド開発・販路拡大

◇K P I

	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期基準値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
新規就農者数	0 人	1 人	1 人	2 人
御嵩町特産品開発普及協議会の販売額	－	－	674 千円	1,348 千円

◇施策の方向

農産物等の資源を活かし、その付加価値を高める 6 次産業化と販売促進を進めることにより、新規就農の促進や農地の保全を図ります。

◇主な施策

施策 1 地域の農業を支える人材の確保と育成			
事業	農業担い手育成推進事業	就農相談から営農定着、ドローン活用を含む機械化等、農業の担い手を総合的に支援します。	
施策 2 農業 6 次産業化の推進			
事業	農業 6 次産業化推進事業	継続的な事業運営を図るため、経営やマーケティング等の専門家による人材育成を促進します。	
施策 3 「みたけのええもん」をはじめとする特産品の販路拡大			
事業	特産品のインターネット販売導入事業	特産品の知名度向上と販路拡大を促進するため、インターネット網を活用した新たな販売手段を開拓します。	
その他主な事業			
・農地中間管理事業 ・みたけのええもん等販売促進事業			

施策3 新産業分野の人材育成のためのキャリア教育

◇K P I

	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期基準値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
東濃高校生、東濃実業高校生の町内就職者数	—	—	13 人	20 人
工業団地における町内居住従業員率	21.0%	23.0%	22.2%	25.0%

◇施策の方向

高校生や大学生などの若者が御嵩町で就労することができ、企業側としても優れた人材を円滑に確保することができる環境を整えて、地域経済の活性化を図ります。

◇主な施策

施策1 「みたけ」で就労する人材の確保と育成			
事業	地域課題解決型キャリア教育事業	高校における地域を学び場とした地域課題解決型のキャリア教育事業を展開し、高校生の地元就職に繋がります。	
施策2 ICT 教育の推進			
事業	ICT を活用した教育支援事業	各学校にタブレット端末等の導入を進めるとともに、先生への研修等を進めることで、より効果的に ICT の活用が進むよう支援します。	
その他主な事業 ・ IT 人材育成事業			

施策4 着地型・体験型観光交流の推進

◇K P I

	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期基準値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
御嶽宿わいわい館の入館者数	9,991 人	12,000 人	8,058 人	12,000 人
滞在型農業体験施設の宿泊者数	－	－	－	3,600 人

◇施策の方向

御嵩町の資源を掘り起こしながら着地型・体験型の観光プログラムを開発するとともに、積極的な観光 P R と誘客を強化します。

◇主な施策

施策1 大河ドラマ「麒麟がくる」を契機とした観光誘客			
事業	「麒麟がくる」ゆかりの 武将可児才蔵魅力発見事業	可児才蔵にまつわる秘話や魅力について情報 発信する拠点整備やイベントを開催するなど、 大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会等と相互 に連携した観光誘客を進めます。	
施策2 御嵩町史の語り部の育成			
事業	戦国武将の語り部育成事業	御嵩町に縁のある可児才蔵や関わりの深い武 将などについて学び、観光客に紹介することが できる語り部の育成を推進します。	
施策3 中山道の宿場町等の再生			
事業	宿場町のにぎわい創出事 業	中山道御嶽宿・伏見宿界限において、歴史文 化を活用した観光のほか、商業等を組み合わせ た新しい宿場町の形成を図ります。	
施策4 滞在型農業体験の推進			
事業	滞在型農業体験施設活用 事業	古民家を改修した滞在型農業体験施設を活用 して、多様な農業体験や里山体験等の事業を展 開します。	
その他主な事業			
・観光プロモーション促進事業		・街並み保全事業	
・鬼岩公園環境整備事業			

基本目標4 みたけのレガシー創出を

目指す将来の姿

- ◎御嵩町の公式 SNS において注目される取組みが増えるとともに、多様な来訪者や関係人口が増えています。
- ◎地域と連携した学校教育、高等学校教育が充実して高校生等子ども達がいきいきと育っており、地域において若者も高齢者も積極的に社会参加しています。
- ◎多様な関係人口が増え、町民ときずなを深めたり一緒に活動しており、それぞれの地域が町民や関係人口により賑わっています。

◇数値目標

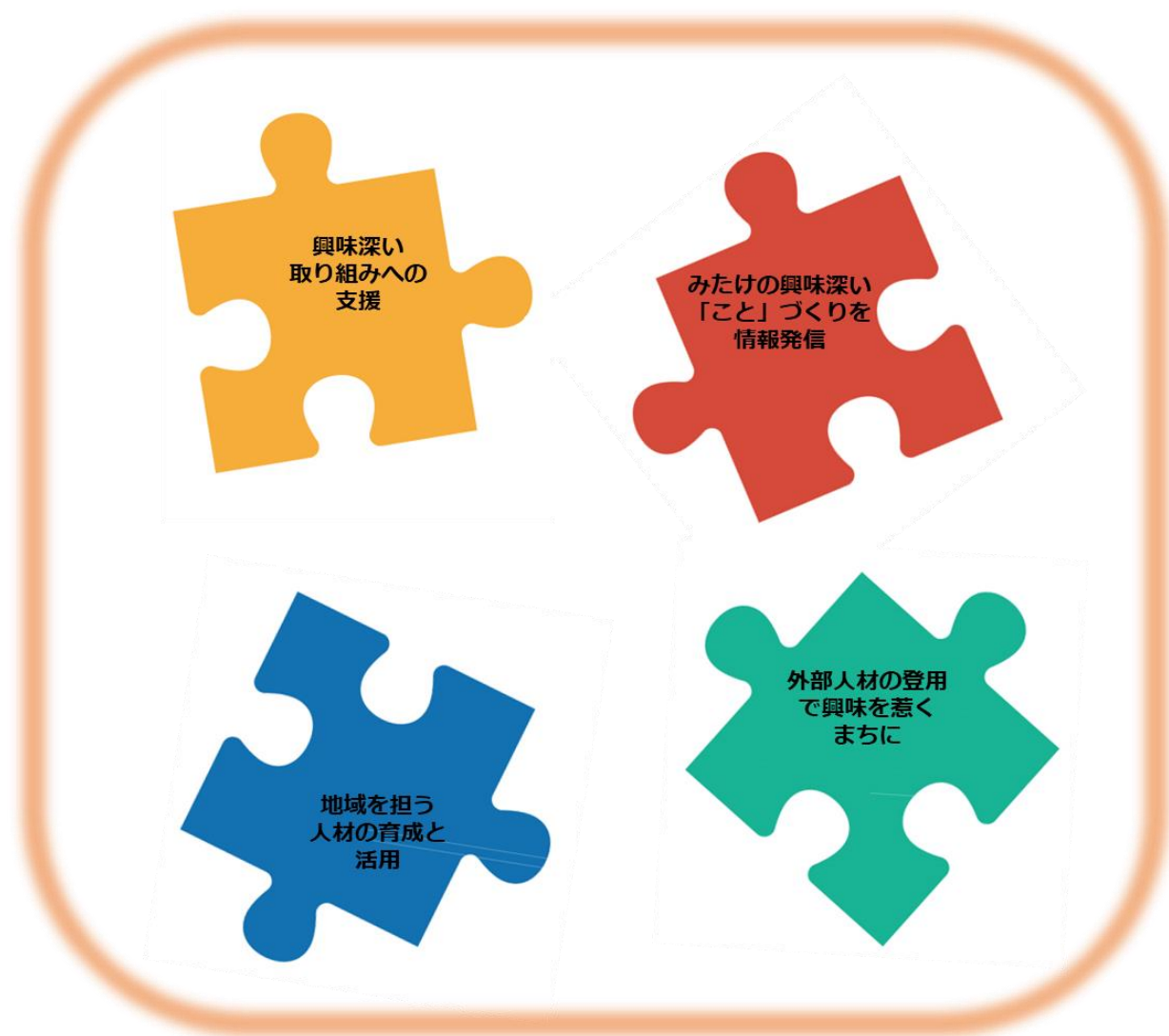
	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期基準値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
郷土を誇れると思う人の割合	18.9%	23.3%以上	25.7%	30.0%

◇SDGs の推進



- ◎多文化共生を進めるとともに、各種団体や、外国人材や他地域の人材が活躍できる環境を整えます。
- ◎各種団体や他地域の人材が町内でいきいきと活動できるような場づくりを行います。
- ◎行政と地域住民、企業、外部人材など様々な主体が協働してまちづくりに取り組んでいます。

推進イメージ



みたけのレガシー

施策1 興味深い取組みへの支援

◇K P I

	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期基準値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
支援事業によるクラウドファンディング案件公開件数	－	－	3 件	9 件

◇施策の方向

ユニークな発想に基づく活用やビジネスを支援する場として、御嵩町のイメージアップや情報発信力を強化して、交流人口や関係人口を創出します。

◇主な施策

施策1 夢の実現を目指す、活力ある団体活動への支援		
事業	クラウドファンディング支援事業	クラウドファンディングのノウハウを活かし、専用サイトへ申請する前段階で意思の伝え方などのレクチャーを行うことで、地域の皆様の夢を形にするお手伝いをします。
その他主な事業		
・まちづくり推進支援事業 ・ドローン活用人材育成事業		

施策 2 みたけの興味深い「こと」づくりを情報発信

◇ K P I

	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期実績値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
町 SNS のフォロワー数	—	—	3,020 カウント	4,000 カウント
町が導入したアプリのダウンロード数	—	—	9,624 件	13,000 件

◇ 施策の方向

新庁舎を交流の場とするとともに、外国人材との交流や多文化共生を進め、みたけを情報発信する人々の拡大を図り、“きずな”づくりを進めます。

◇ 主な施策

施策 1 みたけの「シンボル」の形成		
事 業	多世代交流の場としての 新庁舎整備	安心・安全な庁舎はもちろんのこと、多様な 住民活動、多世代交流などのまちづくりに貢献 する庁舎整備を推進します。
施策 2 外国人材との積極的な交流の推進		
事 業	多文化共生のまちづくり 推進事業	外国人の居住者や観光客等との食や街道をテ ーマとした交流を推進することで、外国人材の 地域への参加を促進し、外国人材との相互理解 を深めます。
施策 3 みたけの情報発信者の“つなぎ”		
事 業	みんなでみたけのインフ ルエンサー事業	行政情報の発信とともに、住民や「みたけに 興味のある人」が自ら積極的に御嵩町の情報発 信する「みたフルエンサー」の拡大を図りま す。
その他主な事業		
・ ゴルフ場を経由した情報発信事業		

施策 3 地域を担う人材の育成と活用

◇ K P I

	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期実績値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
学校教育施策に対する満足率	14.5 %	20.0 %	17.3 %	20.0 %
「げんきボランティア 65」登録者数	—	—	306 人	380 人

◇ 施策の方向

学校と地域が連携して「ふるさと教育」やキャリア教育、外国語教育等を充実して若い人材を育成するとともに、高齢者の活躍を促進して地域の持続性を高めます。

◇ 主な施策

施策 1 地域に根差したふるさと教育の充実		
事業	地域学校協働活動事業	地域で学校行事や施設管理、教育等に主体的に携わるとともに、児童生徒の地域活動への参加の拡大を図ります。
施策 2 グローバル社会に対応した教育の充実		
事業	外国語教育等推進事業	外国語指導助手（ALT）、地元高校や企業等との連携により、外国語でのコミュニケーション能力の向上に主眼を置いた外国語教育を展開します。
施策 3 高齢者の経験や知識を活かした地域活力の創出		
事業	地域の支え合いボランティアポイント事業	介護予防、日常生活の支援のボランティアを行った高齢者に対してポイントを付与する制度「げんきボランティア 65」をより一層推進し、高齢者の地域での活躍を促進します。
その他主な事業		
・コミュニティスクール推進事業		
・大学のサテライト研究室・ゼミの誘致		

施策4 外部人材の登用で興味を惹くまちに

◇K P I

	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期実績値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
外部人材による講座の参加者数 (5 年間累計)	—	—	—	2,000 人

◇施策の方向

御嵩町において「ひと・もの・ことの縁結び」を進めるために、外部人材と町民を結び、新たな活動やビジネスを創出していく関係人口を創出します。

◇主な施策

施策 1 外部人材が持つスキル・ノウハウの町民への伝達			
事業	外部人材招聘事業	あらゆる分野において、外部の人材による講座・研修、体験機会を設けて、町民がスキルやノウハウを習得する機会を提供します。	
施策 2 外部人材を関係人口に			
事業	外部人材の自主事業支援事業	講師やインストラクターとして招聘した外部人材による御嵩町における新たな活動やビジネスに際して、その試行や推進を支援します。	

<参考資料>

I

人口と産業の動向

1 近年の人口の動きと人口フレーム

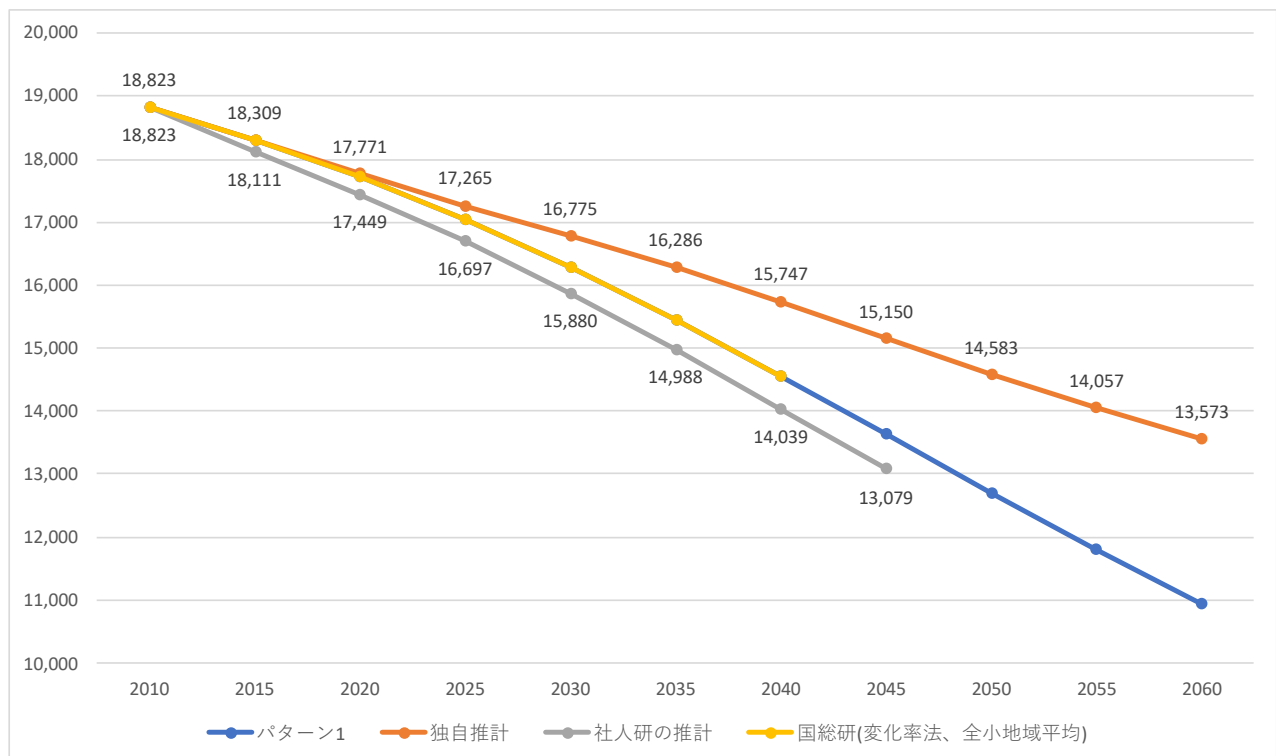
(1) 国等の人口推計と御嵩町人口ビジョン

○国等による人口推計としては、2018 年（平成 30 年）に「国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）」が全国市町村の将来人口推計を公表しています。また、「国土交通省 国土技術政策総合研究所(以下、国総研)」も、2015 年（平成 27 年）の国勢調査を踏まえた各種人口推計を行えるようにしています。

○これらの新しい推計を御嵩町人口ビジョンの人口フレームと比較すると、国総研の人口フレームは、概ね人口ビジョンのパターン 1 と同様ですが、社人研の推計は、パターン 1 よりかなり低い値となっています。

図表 1-1-1 人口フレームの比較（人）

	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
パターン1	18,823	18,309	17,727	17,052	16,288	15,454	14,563	13,630	12,711	11,815	10,944
独自推計	18,823	18,309	17,771	17,265	16,775	16,286	15,747	15,150	14,583	14,057	13,573
社人研の推計	18,823	18,111	17,449	16,697	15,880	14,988	14,039	13,079			
国総研(変化率法、全小地域平均)	18,823	18,312	17,728	17,050	16,288	15,457	14,562				



(2) 近年の人口の動きと推計

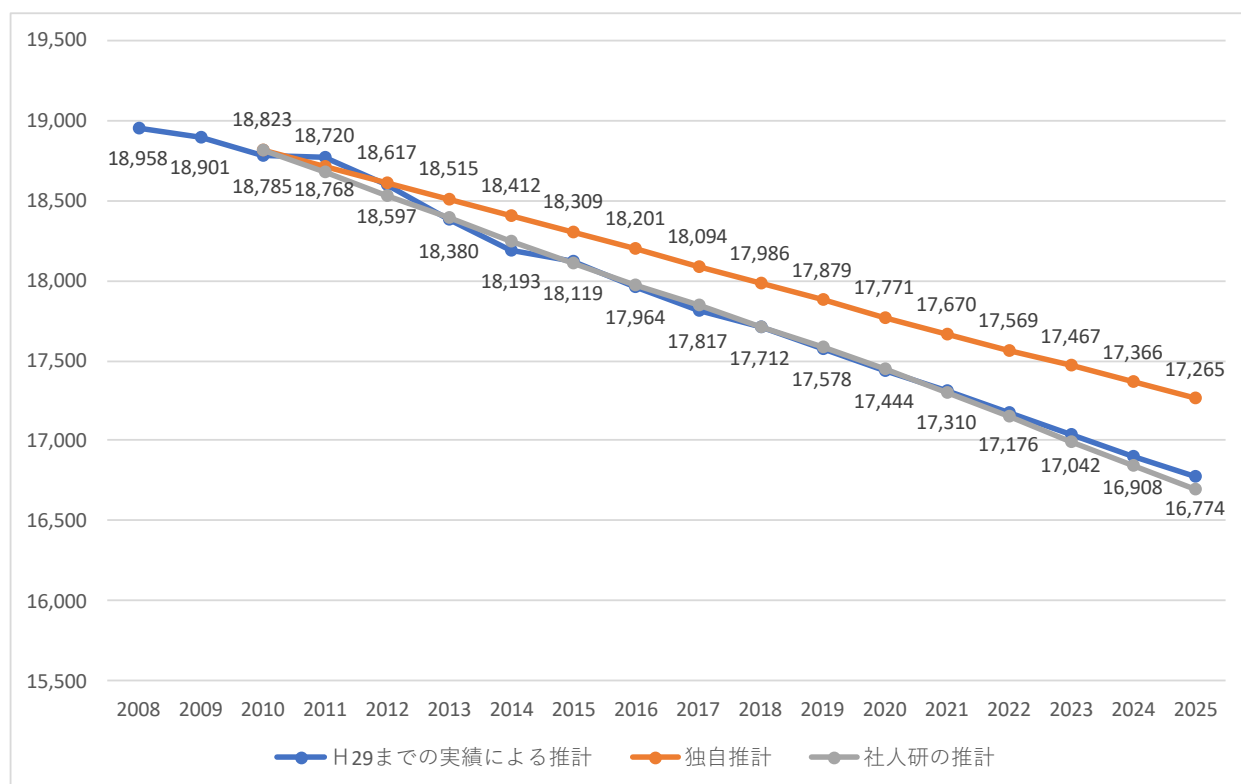
○2008 年(平成 20 年)から 2017 年(平成 29 年)の御嵩町の住民基本台帳人口に基づいて 2020 年(平成 32 年)、2025 年(平成 37 年)の人口を回帰分析・一次式で求めたものを、人口推計の最も高位である独自推計と最も低位である社人研の推計と比較すると以下の通りとなります。

○現状の人口推移は、社人研による低位の推計値に非常に近い動きをしています。

図表 1-1-2 近年の人口動向と推計(人)

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
H29までの実績	18,958	18,901	18,785	18,768	18,597	18,380	18,193	18,119	17,964	17,817
独自推計			18,823	18,720	18,617	18,515	18,412	18,309	18,201	18,094
社人研の推計			18,823	18,681	18,538	18,396	18,253	18,111	17,979	17,846

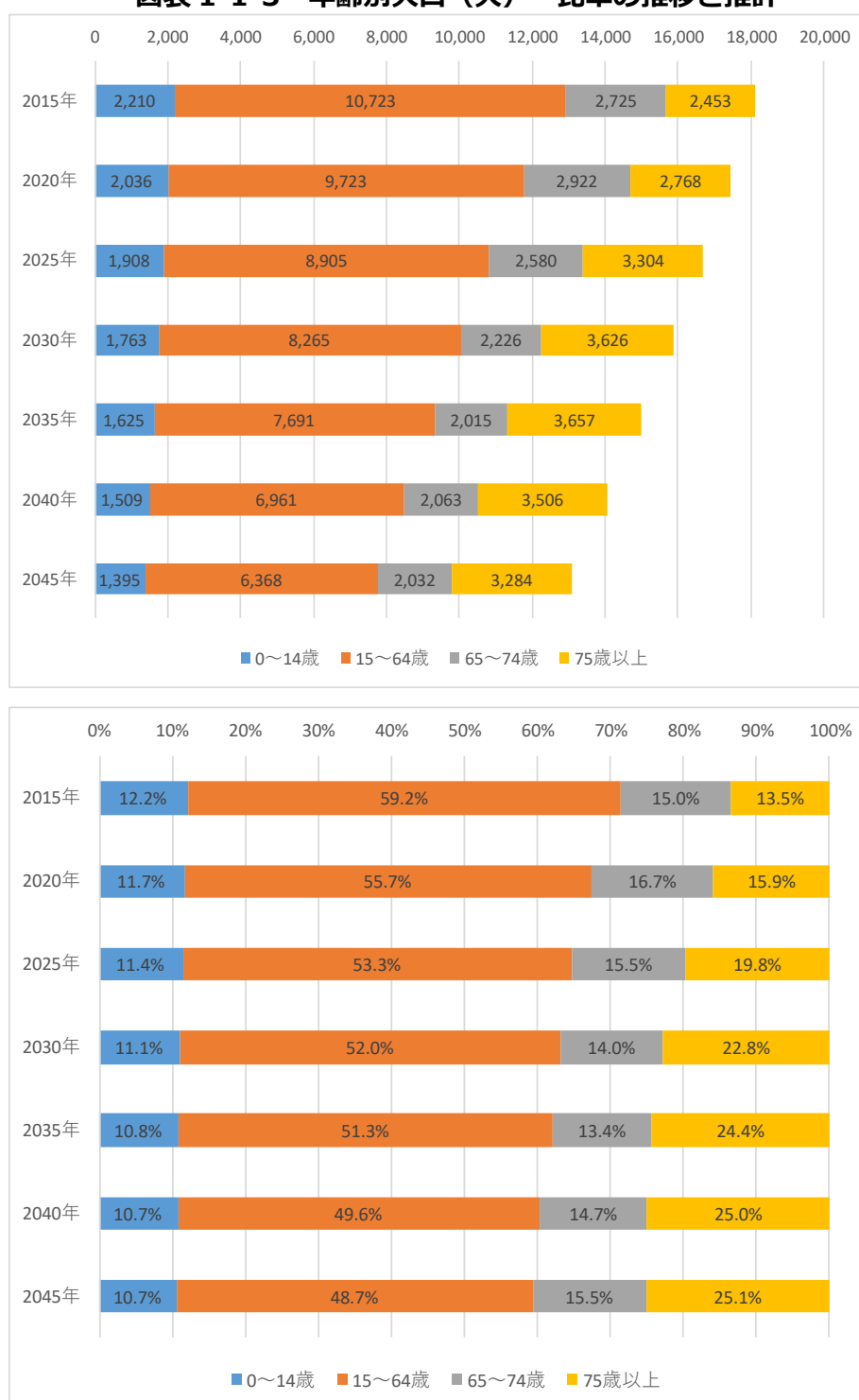
	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
H29までの実績による推計	17,712	17,578	17,444	17,310	17,176	17,042	16,908	16,774
独自推計	17,986	17,879	17,771	17,670	17,569	17,467	17,366	17,265
社人研の推計	17,714	17,581	17,449	17,299	17,148	16,998	16,847	16,697



(3) 年齢別人口の動き

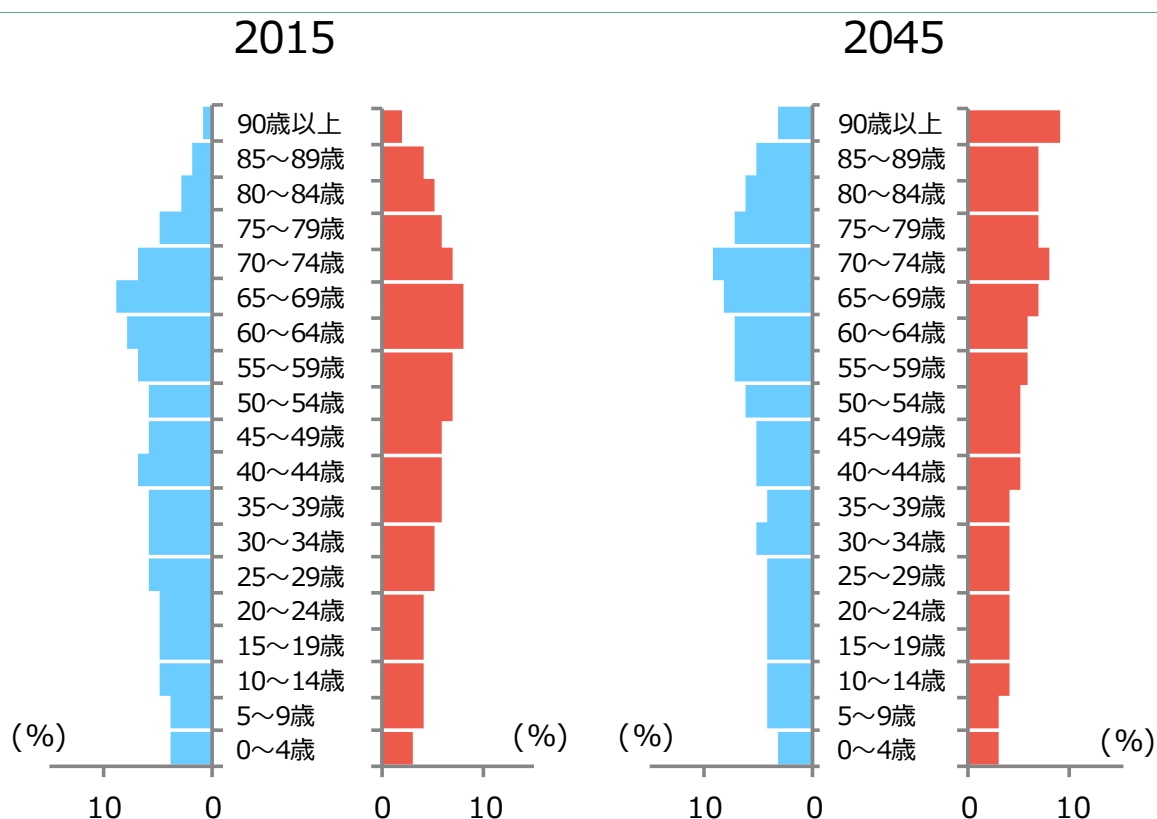
- 社人研の推計における年齢別人口構成は以下のとおりに算出されており、年少人口と生産年齢人口は減少を続け、特に生産年齢人口の減少が顕著となる見込みです。
- 高齢者人口は 2025 年まで増加した後に減少に向かいますが、年少人口と生産年齢人口の減少が大きいいため、割合は継続して増加していきます。
- 高齢者人口の中でも 75 歳以上の後期高齢者人口は 2035 年まで増加を続ける見込みです。後期高齢者層では介助・介護率も前期高齢者に比べかなり高くなるため、この対策が重要となります。

図表 1-1-3 年齢別人口（人）・比率の推移と推計



- 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所の人口推計に基づき、2015 年と 2045 年の人口ピラミッドを比較すると、男女ともに年少人口及び生産年齢人口が減少し、高齢人口が大きく増加することが分かります。
- 高齢者人口の中でも、90 歳以上の女性の割合が極めて多くなるなど後期高齢者の人口増加が大きく、介護等の問題が現在以上に深刻になることが予測されます。

図表 1-1-4 5 歳階級別人口の推計による総人口に対する割合



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

2 人口増減要因の整理

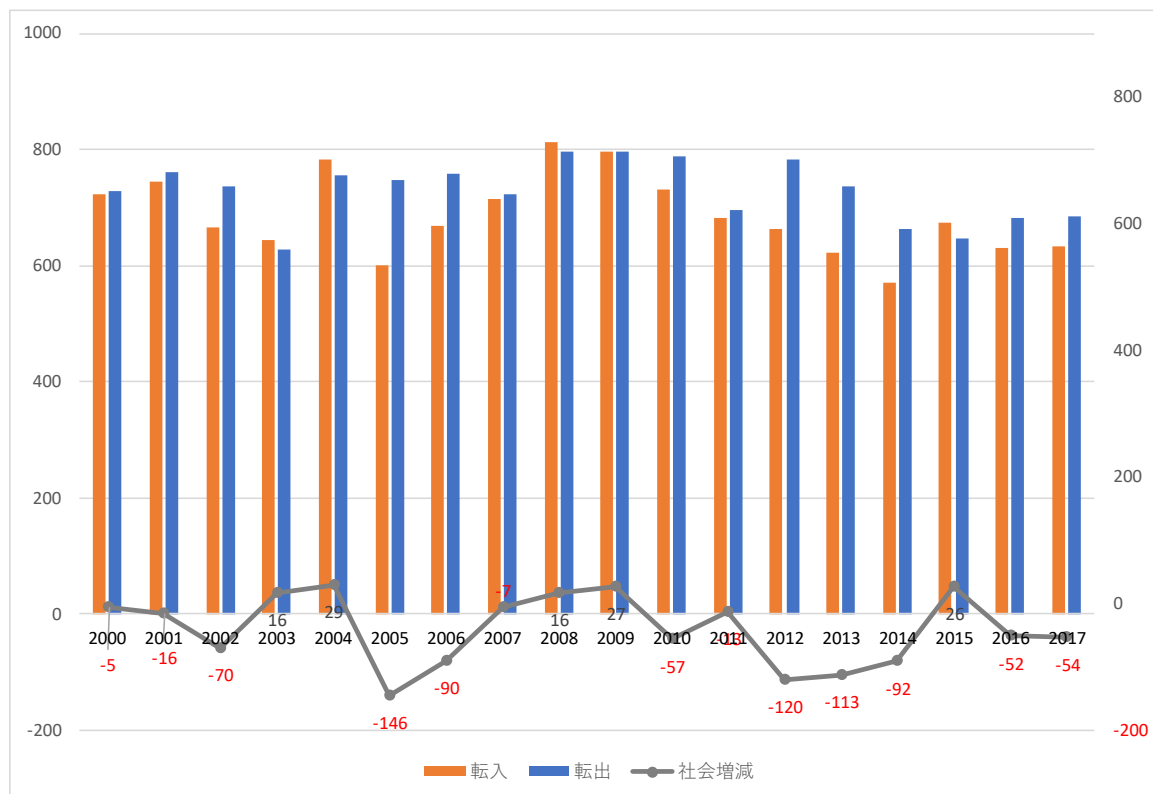
(1) 社会増減の状況

① 転出入数

○2000 年(平成 12 年)以降の、御嵩町の社会増減を見ると、転入、転出ともに 600～800 人／年の状況であり、18 年間で社会増の年が 5 年、社会減の年が 13 年であり、18 年間で 721 人の社会減でした。

図表 1-2-1 社会増減の推移 (人)

	転入	転出	社会増減
2000	724	729	-5
2001	746	762	-16
2002	667	737	-70
2003	643	627	16
2004	784	755	29
2005	601	747	-146
2006	669	759	-90
2007	715	722	-7
2008	812	796	16
2009	796	796	27
2010	732	789	-57
2011	683	696	-13
2012	663	783	-120
2013	623	736	-113
2014	570	662	-92
2015	673	647	26
2016	631	683	-52
2017	632	686	-54
通算	12,364	13,112	-721



料: 住民基本台帳人口移動報告(総務省)

②転出入先

○転入元は、5 年合計で、岐阜県が約 61%、愛知県が約 20%、その他の県が約 20%となっています。市町村ベースでは、可児市が全数の約 27%と非常に高く、次いで多治見市、美濃加茂市、名古屋市が 6 %前後で続いています。

○転出先は、岐阜県内が約 57%、愛知県が約 23%、その他の県が約 20%となっており、転入元より愛知県の割合が高くなっています。可児市が全数の約 25%と非常に高く、次いで名古屋市が約 8%、多治見市、美濃加茂市が 6 %前後であり、構造的には転入元とほぼ同様となっています。

図表 1-2-2 転出入先（人）

転入元	2014	2015	2016	2017	2018	5年合計	占有率
総 数	487	564	498	482	635	2,666	100.0%
21 岐 阜 県	311	310	317	313	385	1,636	61.4%
201 岐 阜 市	19	11	12	20	29	91	3.4%
204 多 治 見 市	33	33	33	20	34	153	5.7%
208 瑞 浪 市	13	14		10		37	1.4%
211 美 濃 加 茂 市	29	25	39	30	39	162	6.1%
212 土 岐 市	27	13	19	23	11	93	3.5%
214 可 児 市	127	140	138	139	175	719	27.0%
505 八 百 津 町		14			10	24	0.9%
501 坂 祝 町			10			10	0.4%
503 川 辺 町			15			15	0.6%
206 中 津 川 市					10	10	0.4%
209 羽 島 市					14	14	0.5%
その他の市町村	63	60	51	71	63	308	11.6%
23 愛 知 県	89	126	89	98	126	528	19.8%
100 名 古 屋 市	26	46	21	22	38	153	5.7%
206 春 日 井 市		10			18	28	1.1%
219 小 牧 市		11		13		24	0.9%
その他の市町村	63	59	68	63	70	323	12.1%
24 三 重 県	12				15	27	1.0%
12 千 葉 県		10	12			22	0.8%
13 東 京 都		15	15			30	1.1%
100 東京都特別区部		10				10	0.4%
その他の市町村		5				5	0.2%
14 神 奈 川 県		13				13	0.5%
40 福 岡 県	11					11	0.4%
27 大 阪 府		14				14	0.5%
47 沖 縄 県		10				10	0.4%
22 静 岡 県			10	18		28	1.1%
11 埼 玉 県				10		10	0.4%
16 富 山 県				10		10	0.4%
その他の県	64	66	55	71	71	327	12.3%

転出先	2014	2015	2016	2017	2018	5年合計	占有率
総 数	499	611	592	593	594	2,889	100.0%
21 岐 阜 県	298	355	334	317	350	1,654	57.3%
201 岐 阜 市	17	12		19	10	58	2.0%
204 多 治 見 市	32	39	29	26	31	157	5.4%
208 瑞 浪 市		13				13	0.4%
211 美 濃 加 茂 市	33	27	44	45	37	186	6.4%
212 土 岐 市	14	22	16	24	16	92	3.2%
214 可 児 市	126	170	141	120	154	711	24.6%
505 八 百 津 町	12		14	15		41	1.4%
503 川 辺 町	10					10	0.3%
213 各 務 原 市	18	13	12	10	25	78	2.7%
205 関 市		11				11	0.4%
その他の市町村	36	48	78	58	77	297	10.3%
23 愛 知 県	110	148	125	156	127	666	23.1%
100 名 古 屋 市	39	46	41	64	43	233	8.1%
206 春 日 井 市	12		11	15		38	1.3%
219 小 牧 市			11			11	0.4%
215 犬 山 市		13		10		23	0.8%
その他の市町村	59	89	62	67	84	361	12.5%
24 三 重 県			15	11		26	0.9%
13 東 京 都	14	20	16	23	16	89	3.1%
100 東京都特別区部	10	13	13	15		51	1.8%
その他の市町村	4	7	3	8		22	0.8%
14 神 奈 川 県		15	14			29	1.0%
22 静 岡 県	11					11	0.4%
その他の県	66	73	88	86	101	414	14.3%

資料：住民基本台帳人口移動報告（総務省） 注：空欄は公表数値なし

③転出入の理由

○2017 年（平成 29 年）の転出、転入理由は以下の通りであり、「職業上の理由」が転出入ともに約 30%と多く、次いで「住宅事情」、「結婚等」が多くなっています。

○転出では「結婚等」、「生活環境の利便性」を理由とするものが転入より多いのに対し、転入では「住宅事情」を理由とするものが転入より多いという特徴があります。

図表 1-2-3 転出入の理由（人）

区分	転 入 者 数	転 入 理 由								
		職 業 上	学 業 上	結 婚 ・ 離 婚 ・ 縁 組	生 活 環 境 の 利 便 性	自 然 環 境 上	交 通 の 利 便 性	住 宅 事 情	そ の 他	不 詳
転入	633	184	13	91	32	-	4	141	30	138
	100.0%	29.1%	2.1%	14.4%	5.1%	0.0%	0.6%	22.3%	4.7%	21.8%
転出	670	187	27	143	59	1	6	104	42	101
	100.0%	27.9%	4.0%	21.3%	8.8%	0.1%	0.9%	15.5%	6.3%	15.1%

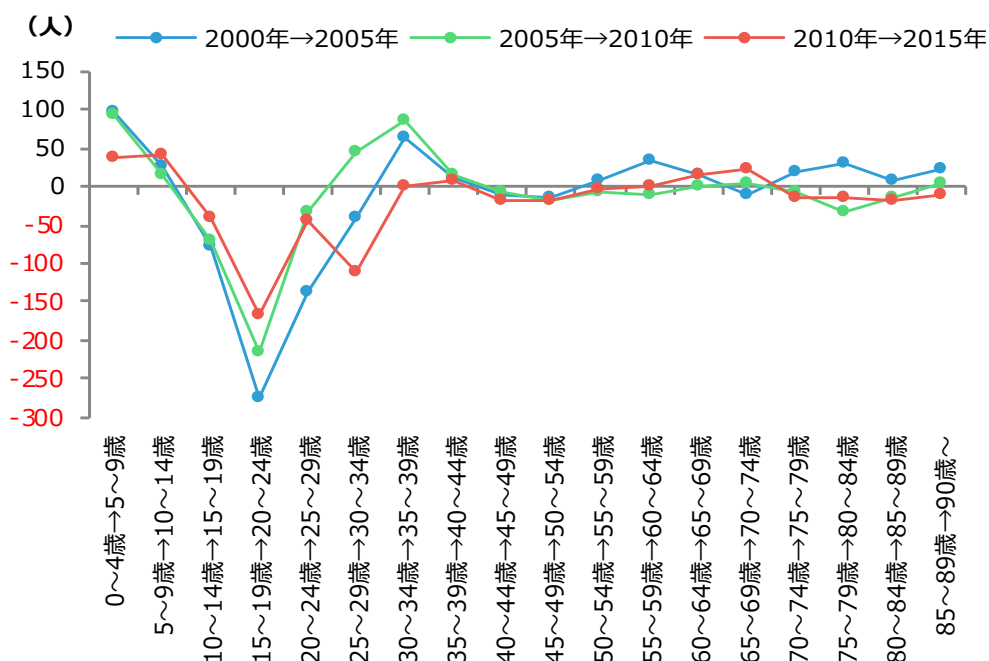
資料：岐阜県人口動態統計調査

④年齢階級別純移動数の推移

○年齢階級別純移動数をみると、若い世代は 20 歳前後をピークとして 2000 年～2015 年まで継続的に流出超過となっています。

○30～40 歳前後では 2010 年までは流入超過傾向でしたが、2010 年以降は流出超過の傾向がみられます。

図表 1-2-4 5 歳階級別人口移動数



資料：国勢調査、地域経済分析システム（リーサス）経済産業省

※5 歳階級別人口移動の算出方法

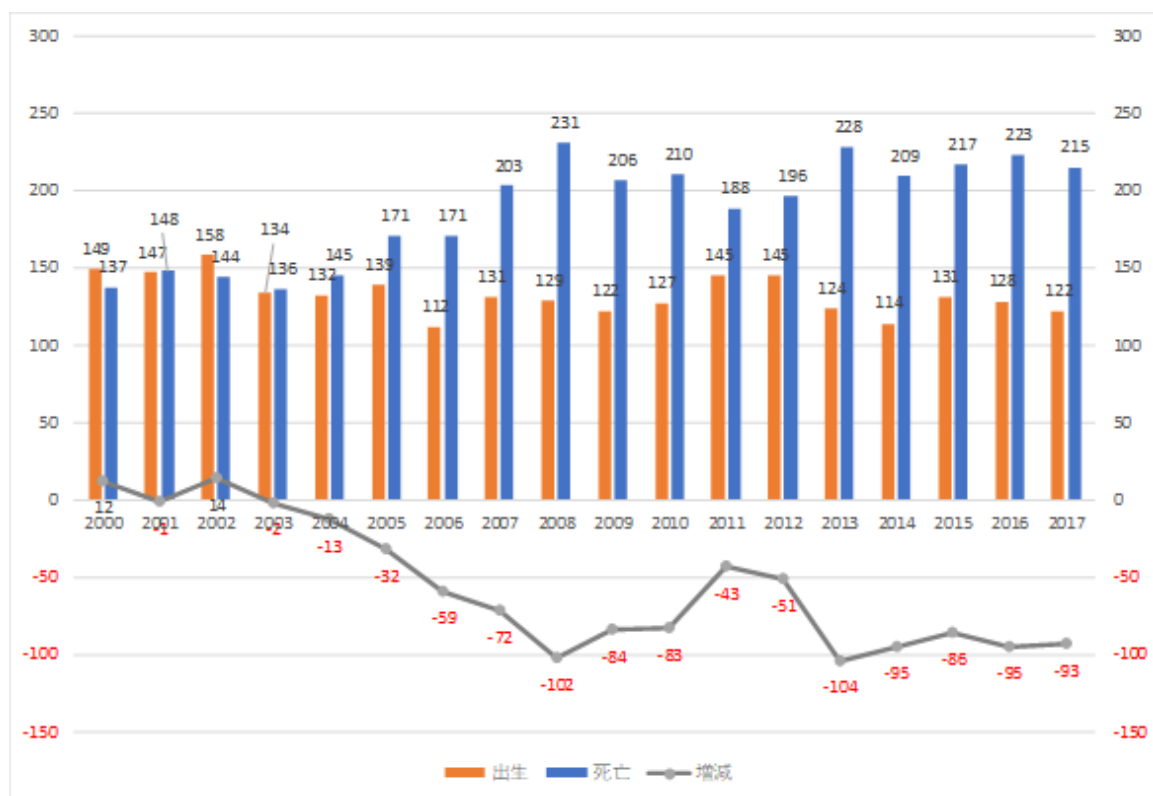
H22～H27 における 5～9 歳の人口移動を算出する場合、H22 時点で 0～4 歳だった人口に生残率を乗じた後、H27 時点における 5～9 歳の人口を差し引くことで算出します。これにより、H 22 時点で 0～4 歳だった人口が、5 年後にどれだけ増減したかを確認できます。

(2) 自然増減の状況

○2000 年以降は、出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向にあり、2003 年に自然減に転じて以降、減少状態が続いていますが、減少数は 2008 年以降大きく変わっていません。

図表 1-2-5 自然増減の推移（人）

	出生	死亡	増減
2000	149	137	12
2001	147	148	-1
2002	158	144	14
2003	134	136	-2
2004	132	145	-13
2005	139	171	-32
2006	112	171	-59
2007	131	203	-72
2008	129	231	-102
2009	122	206	-84
2010	127	210	-83
2011	145	188	-43
2012	145	196	-51
2013	124	228	-104
2014	114	209	-95
2015	131	217	-86
2016	128	223	-95
2017	122	215	-93
通算	2,389	3,378	-989

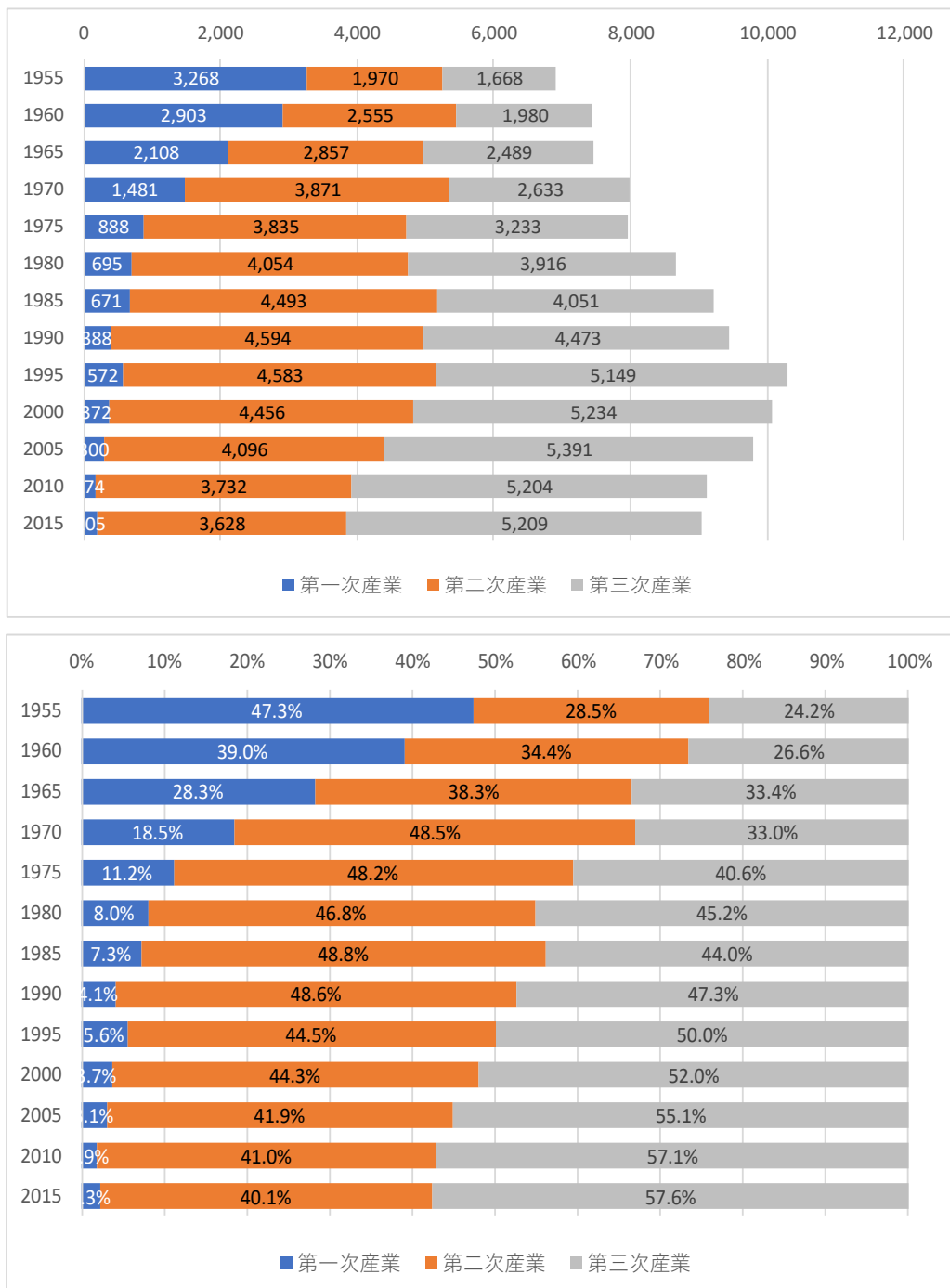


資料：住民基本台帳（御嵩町）

(3) 産業別就業者数の推移

- 1955 年(昭和 30 年)には最も数が多かった第一次産業就業者は 1980 年(昭和 55 年)にかけて急速に減少し、2015 年(平成 27 年)には 205 人と非常に少数になっています。
- 第二次産業は、1955 年(昭和 30 年)以降増加し、1985 年(昭和 60 年)には 4,594 人にまで増加しましたが、その後減少を続けています。
- 第三次産業は、1955 年(昭和 30 年)以降増加し、2005 年(平成 17 年)には 5,391 人にまで増加しましたが、その後わずかに減少する傾向にあります。
- 1995 年(平成 7 年)に第二次産業就業者数より第三次産業就業者数が多くなり、第三次産業就業者の割合が 50%を超え、その後も比率は上昇しています。

図表 1-2-6 産業別就業者数(人)・比率の推移



資料：国勢調査

（４）通勤通学流動

①昼夜間人口

○御嵩町の昼夜間人口比率(昼間人口/夜間人口)は、2015 年（平成 27 年）に 92.7%であり、周辺市町と比べて中間的な位置にあり、可児市、土岐市、瑞浪市、八百津町と概ね並んでいます。

図表 1-2-7 昼夜間人口（2015 年）

	夜間人口 (人)	昼間人口 (人)	昼間/夜間
御嵩町	18,111	16,794	92.7%
可児市	98,695	91,820	93.0%
美濃加茂市	55,384	54,682	98.7%
多治見市	110,441	97,949	88.7%
土岐市	57,827	54,434	94.1%
瑞浪市	38,730	35,681	92.1%
八百津町	11,027	10,257	93.0%
川辺町	10,197	8,501	83.4%

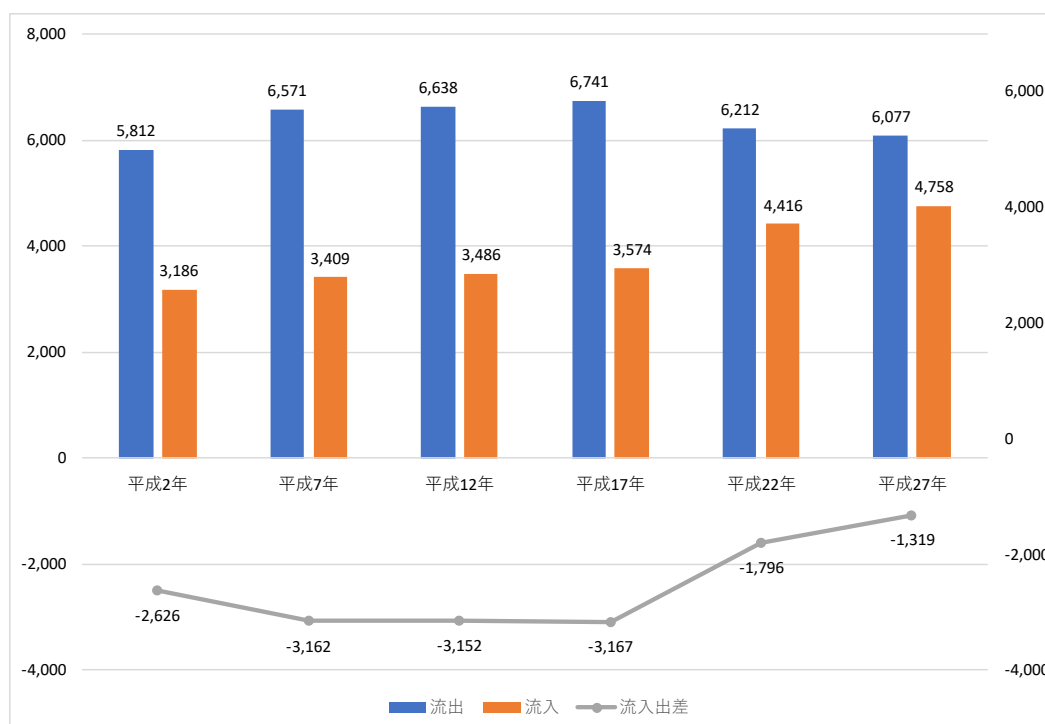
資料：国勢調査

②通勤・通学流動

○1990 年(平成 2 年)以降の通勤・通学流動は、一貫して流出超過となっています。

○1995 年(平成 7 年)から 2005 年(平成 17 年)にかけては 3,000 人以上の流出超過となっていました。2005 年から 2015 年にかけて流出が減り流入が増えて、流出超過数が減少しています。

図表 1-2-8 通勤通学流動（人）



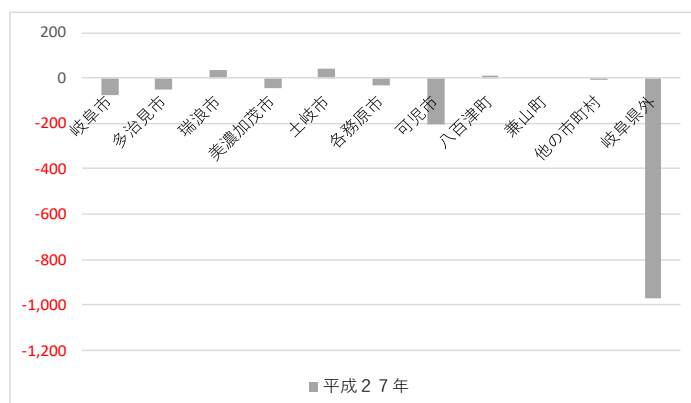
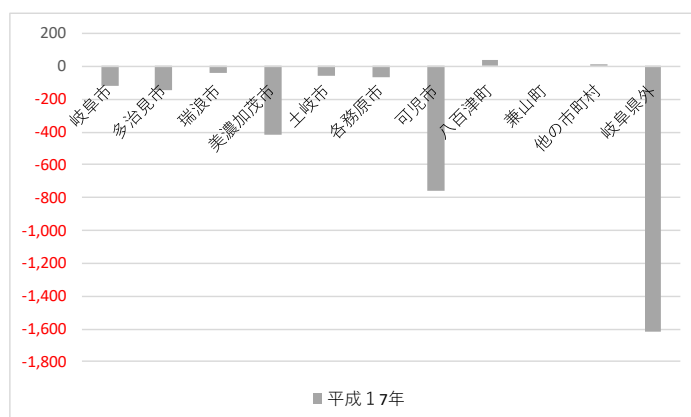
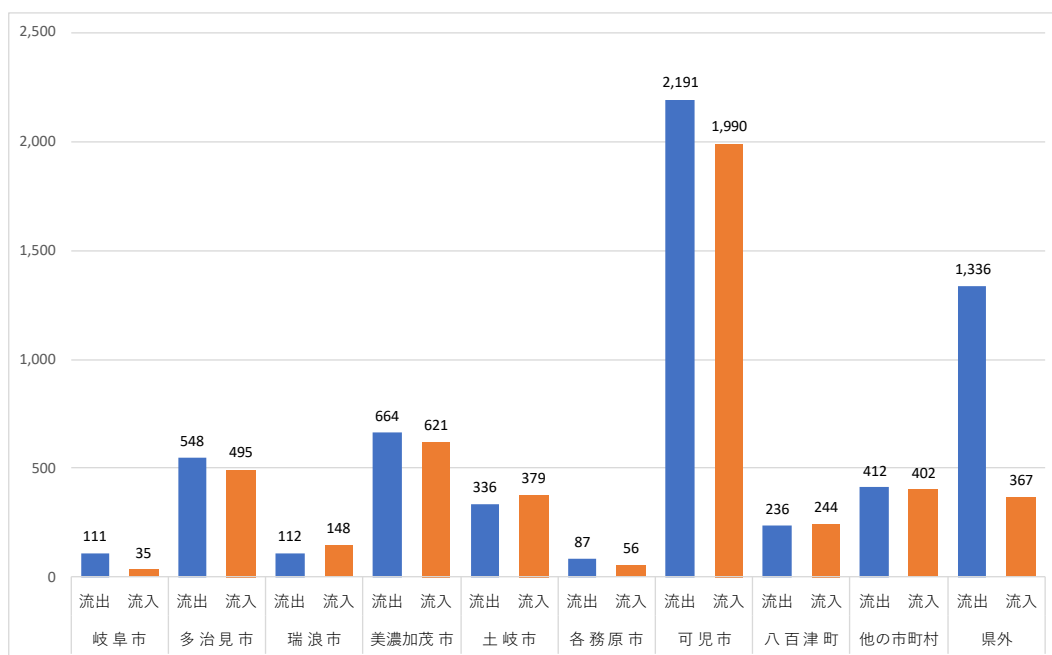
資料：国勢調査

③主な流出入先

○主な流出入先は、可児市、多治見市、美濃加茂市、県外(名古屋市、春日井市、犬山市、小牧市)です。県外に関しては大きく流出超過であり、周辺市町に対しても土岐市、瑞浪市、八百津町を除き流出超過です。

○平成 17 年と 27 年の流出入状況を比較すると、全体的に市町村間の流出超過数が減少してきていることが分かります。

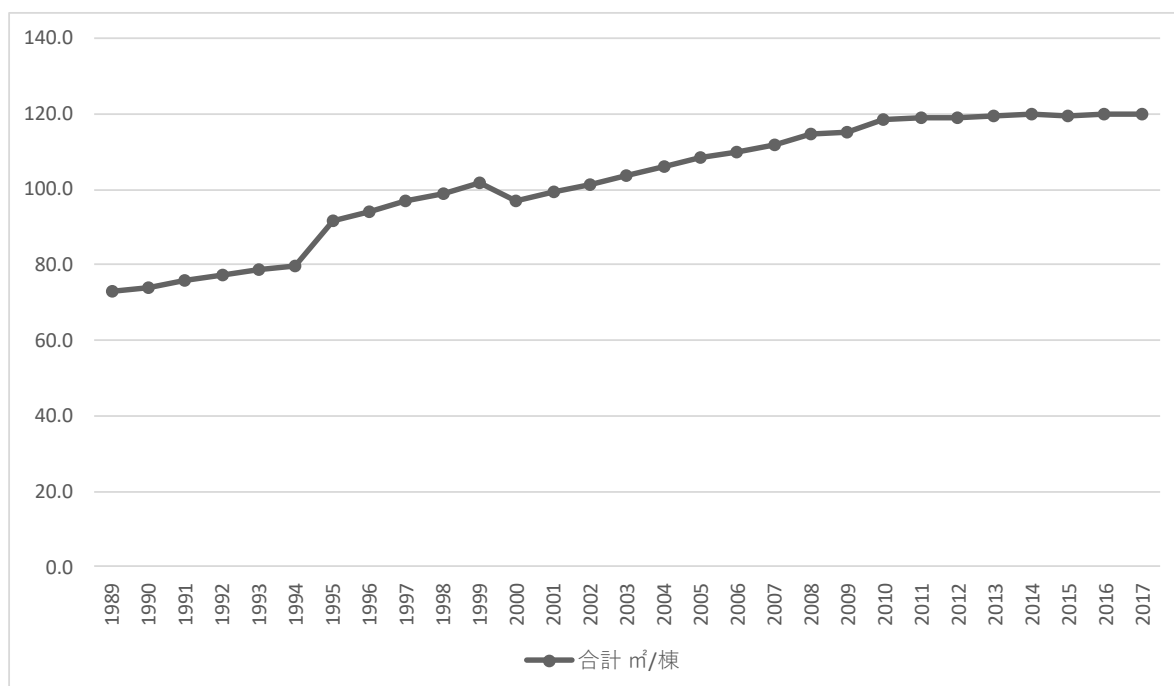
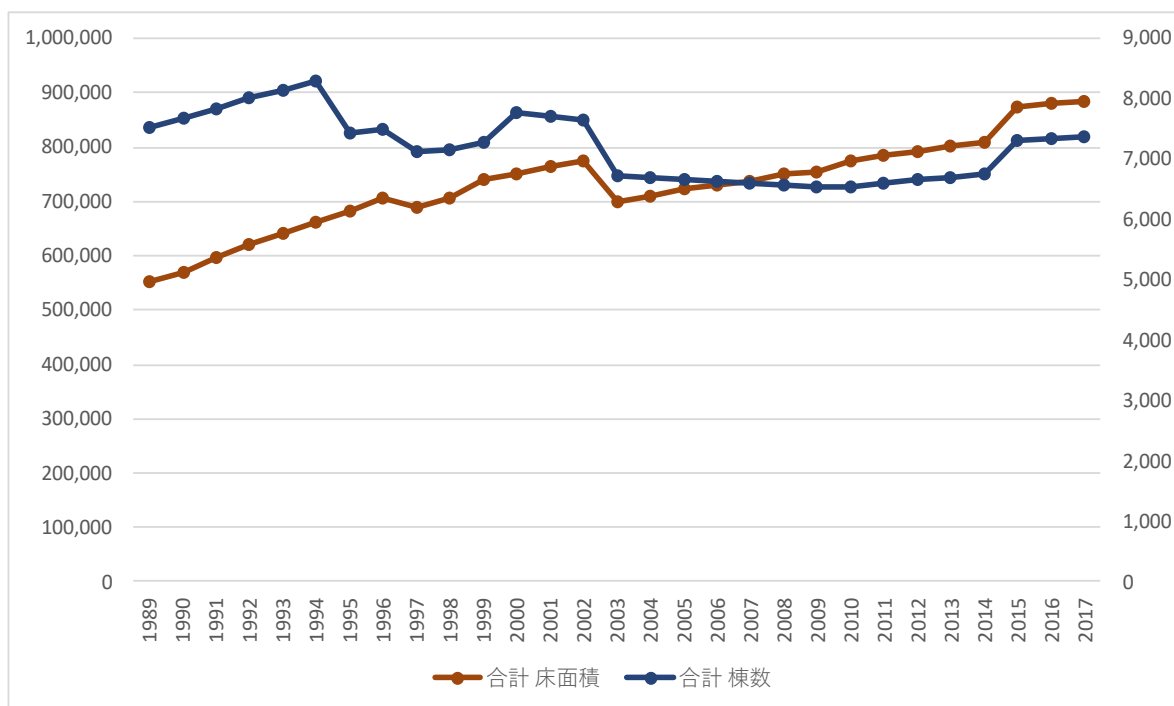
図表 1-2-9 主な流出先（上：平成 27 年、中・下：平成 17 年と 27 年の流入出差。人）



(5) 住宅数

- 住宅棟数は、1994 年に 8,283 棟でピークを迎えたのち、2010 年まで減少しましたが、その後再び増加に転じています。合計床面積については、2003 年以降増加傾向です。
- 棟数が減少傾向で、床面積は増加傾向であるため、1 棟当たりの面積は増加を続けており、1989 年に 73.2 m²/棟であったものが、2017 年には 120.0 m²/棟と大きく増加しています。

図 2-10 住宅棟数・床面積（棟・㎡、上図）・1 棟当たり床面積の推移（下図）



資料：税務課・概要調査書

○木造住宅は 6,393 棟、非木造住宅は 974 棟で、木造住宅は約 87%を占めています（2017 年）。

○1 棟当たりの床面積は木造が 115.2 m²/棟、非木造が 151.4 m²/棟（2017 年）と、増加してきています。

図 2-11 構造別の住宅棟数・床面積（棟・㎡）・1 棟当たり床面積の推移

	木造住宅			非木造住宅			合計		
	棟数	床面積	㎡/棟	棟数	床面積	㎡/棟	棟数	床面積	㎡/棟
1989	6,715	493,045	73.4	824	58,799	71.4	7,539	551,844	73.2
1990	6,820	506,866	74.3	847	61,689	72.8	7,667	568,555	74.2
1991	6,975	528,461	75.8	875	67,149	76.7	7,850	595,610	75.9
1992	7,094	544,538	76.8	922	76,488	83.0	8,016	621,026	77.5
1993	7,217	562,133	77.9	932	79,526	85.3	8,149	641,659	78.7
1994	7,322	576,418	78.7	961	84,586	88.0	8,283	661,004	79.8
1995	6,521	592,065	90.8	914	90,387	98.9	7,435	682,452	91.8
1996	6,545	606,385	92.6	937	99,290	106.0	7,482	705,675	94.3
1997	6,173	585,330	94.8	945	105,434	111.6	7,118	690,764	97.0
1998	6,216	599,292	96.4	945	108,642	115.0	7,161	707,934	98.9
1999	6,308	624,679	99.0	963	116,348	120.8	7,271	741,027	101.9
2000	6,746	634,075	94.0	1,013	118,120	116.6	7,759	752,195	96.9
2001	6,703	644,337	96.1	1,005	121,019	120.4	7,708	765,356	99.3
2002	6,646	652,371	98.2	1,000	122,283	122.3	7,646	774,654	101.3
2003	5,759	573,199	99.5	977	125,250	128.2	6,736	698,449	103.7
2004	5,724	582,345	101.7	973	128,244	131.8	6,697	710,589	106.1
2005	5,702	593,277	104.0	967	129,847	134.3	6,669	723,124	108.4
2006	5,672	599,466	105.7	959	130,143	135.7	6,631	729,609	110.0
2007	5,643	606,107	107.4	952	130,713	137.3	6,595	736,820	111.7
2008	5,605	618,168	110.3	953	133,640	140.2	6,558	751,808	114.6
2009	5,580	618,212	110.8	950	135,304	142.4	6,530	753,516	115.4
2010	5,605	639,427	114.1	950	136,102	143.3	6,555	775,529	118.3
2011	5,650	647,566	114.6	945	135,992	143.9	6,595	783,558	118.8
2012	5,706	655,673	114.9	953	136,884	143.6	6,659	792,557	119.0
2013	5,737	660,810	115.2	952	139,631	146.7	6,689	800,441	119.7
2014	5,783	668,498	115.6	959	140,593	146.6	6,742	809,091	120.0
2015	6,357	727,976	114.5	964	146,088	151.5	7,321	874,064	119.4
2016	6,374	732,565	114.9	970	146,895	151.4	7,344	879,460	119.8
2017	6,393	736,594	115.2	974	147,445	151.4	7,367	884,039	120.0

資料：税務課・概要調書

3 産業の状況

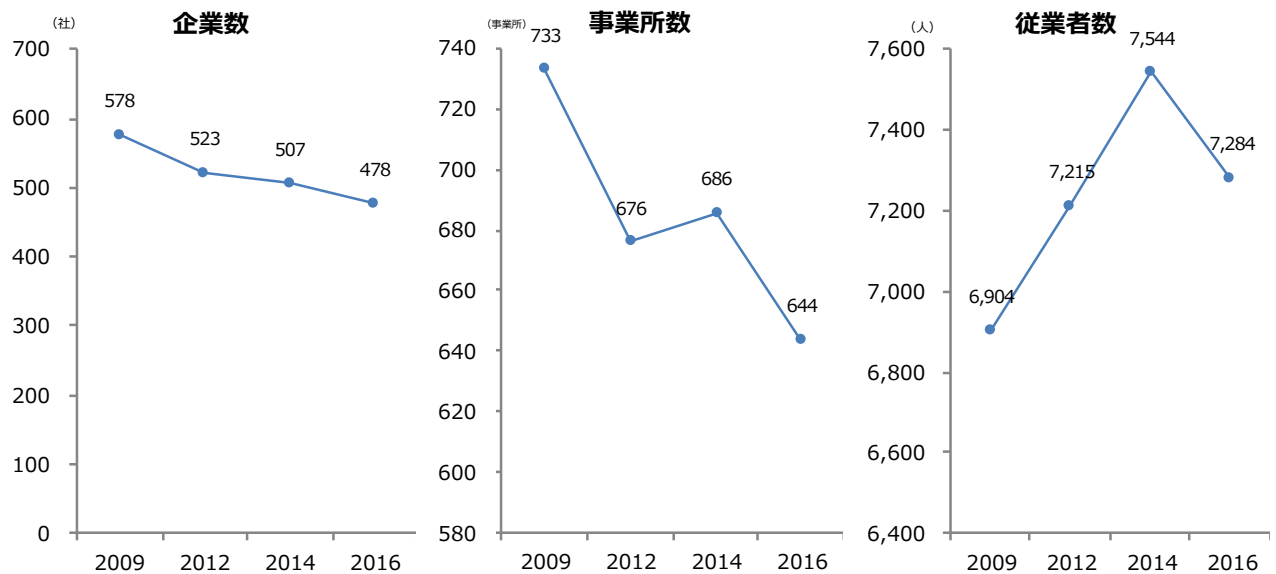
(1) 事業所数の推移

①企業数・事業所数、従業者数

○企業数、事業所数は減少傾向にありますが、従業者数は 2014 年にかけて増加した後減少に転じています。

○企業、事業所当たりの従業員数は増加傾向にあります。

図表 1-3-1 事業所の推移



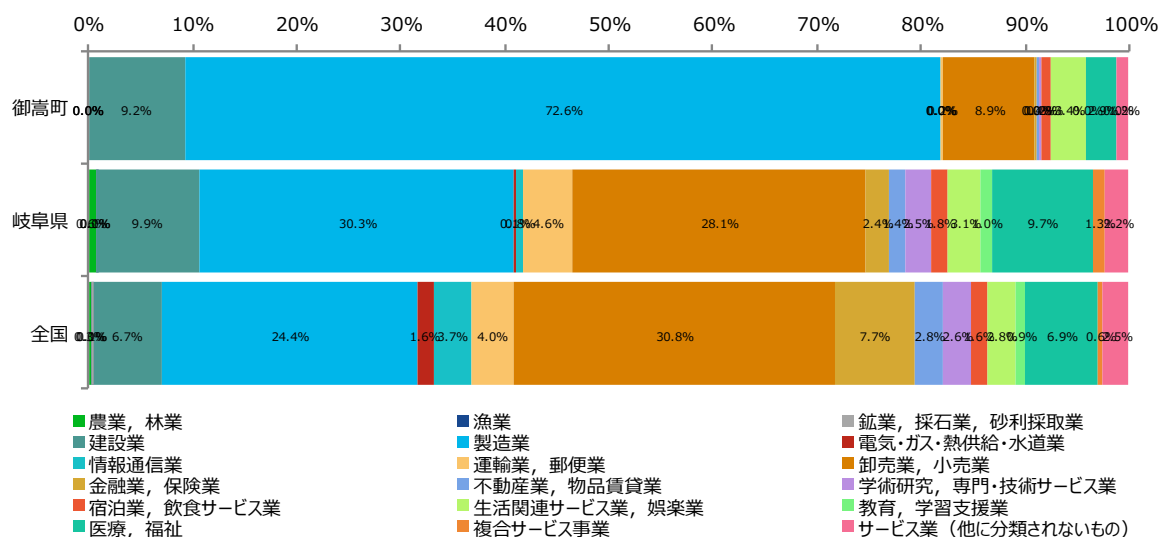
資料：経済センサス

②産業大分類別の売上高の構成比

○御嵩町は、岐阜県や全国の構成と比較すると「製造業」の構成比が 72.6%と製造業に特化しています。

○また、「卸売業、小売業」、「金融業、保険業」、「医療、福祉」をはじめとして、その他の産業の構成比が岐阜県、全国と比較して低い状況です。

図表 1-3-2 産業大分類別の売上高の構成比

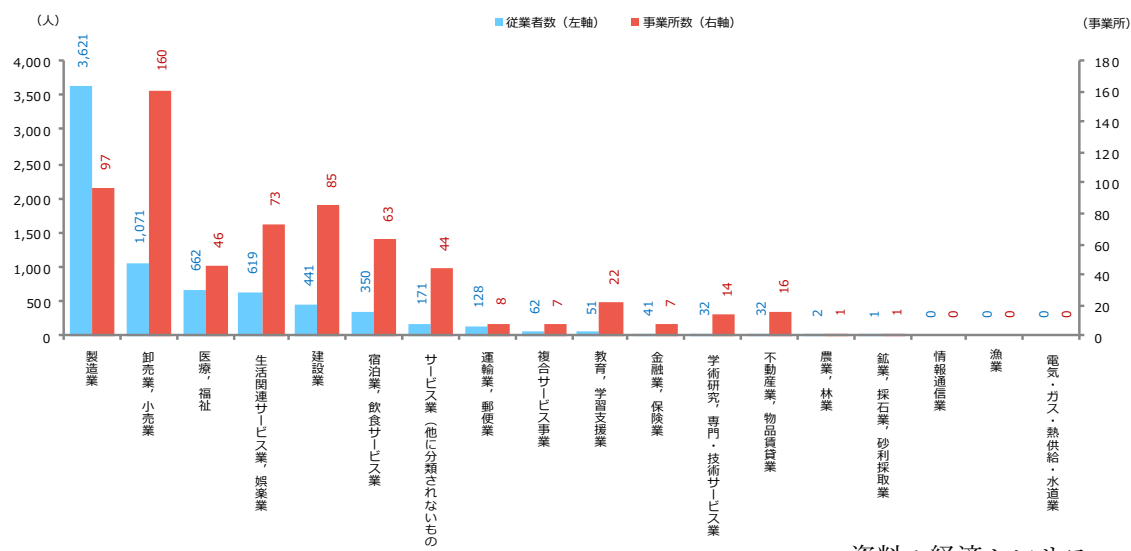


資料：経済センサス

③産業大分類別事業所数、従業者数

- 事業所数は、「卸売業、小売業」、「製造業」、「建設業」の順で多くなっています。
- 従業者数では「製造業」が群を抜いて多く、事業所当たりの従業員数は「製造業」で約 37 人であるのに対して、「卸売、小売業」、「建設業」では、それぞれ約 7 人、約 5 人であり、企業の規模が格段に異なることが分かります（2016 年）。

図表 1-3-3 産業大分類別事業所数、従業員数（2016 年）

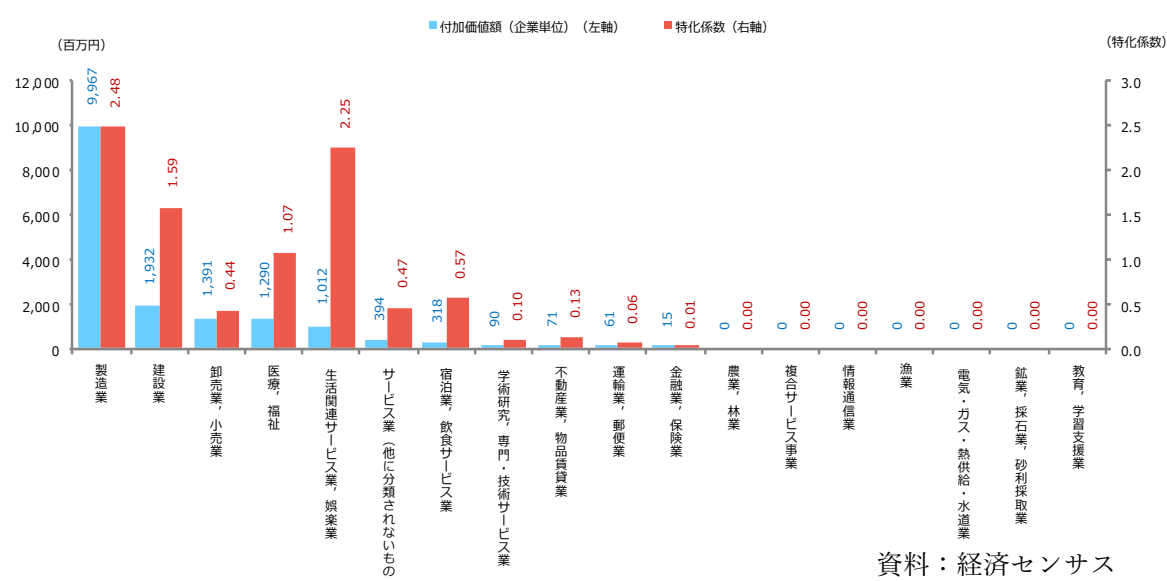


資料：経済センサス

④産業大分類別付加価値額

- 付加価値額は、「製造業」が約 100 億円で群を抜いて高く、次いで「建設業」が約 19 億円、「卸売業、小売業」が約 14 億円となっています。
- 特化係数が 1 以上の業種は「製造業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「建設業」、「医療、福祉」の 4 業種であり、特に「製造業」（2.48）、「生活関連サービス業、娯楽業」（2.25）が高くなっています（2016 年）。

図表 1-3-4 産業大分類別付加価値額（2016 年）



資料：経済センサス

特化係数

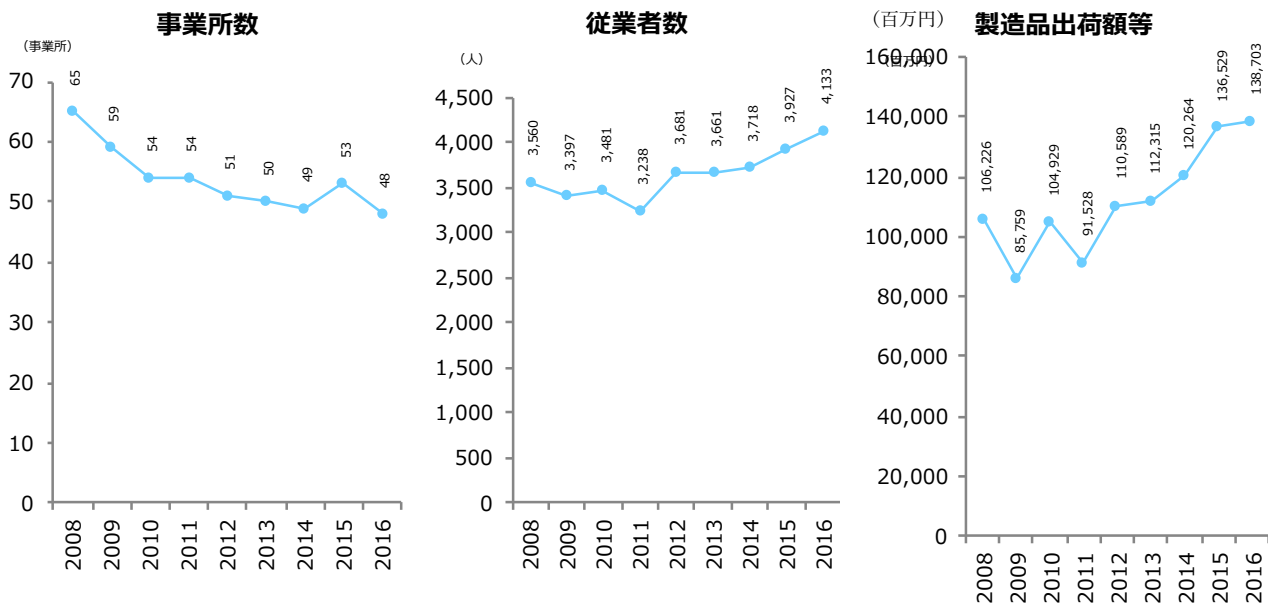
全国平均を 1 としたときの構成比の高低を示したものであり、特化係数が 1 よりも大きな産業は、全国傾向よりも構成比が大きくなっており、特徴的な産業といえます。

(2) 製造業の特色

①事業所数、従業者数、製造品出荷額等

- 事業所数は減少傾向にありますが、従業者数は増加傾向にあり、1 事業者当たりの従業者数は増加傾向にあります。
- 製造品出荷額等は増加傾向にあり、従業者一人当たりの製造品出荷額等の額も増加傾向となっています。

図表 1-3-5 製造業の事業所数、従業者数、製造品出荷額等

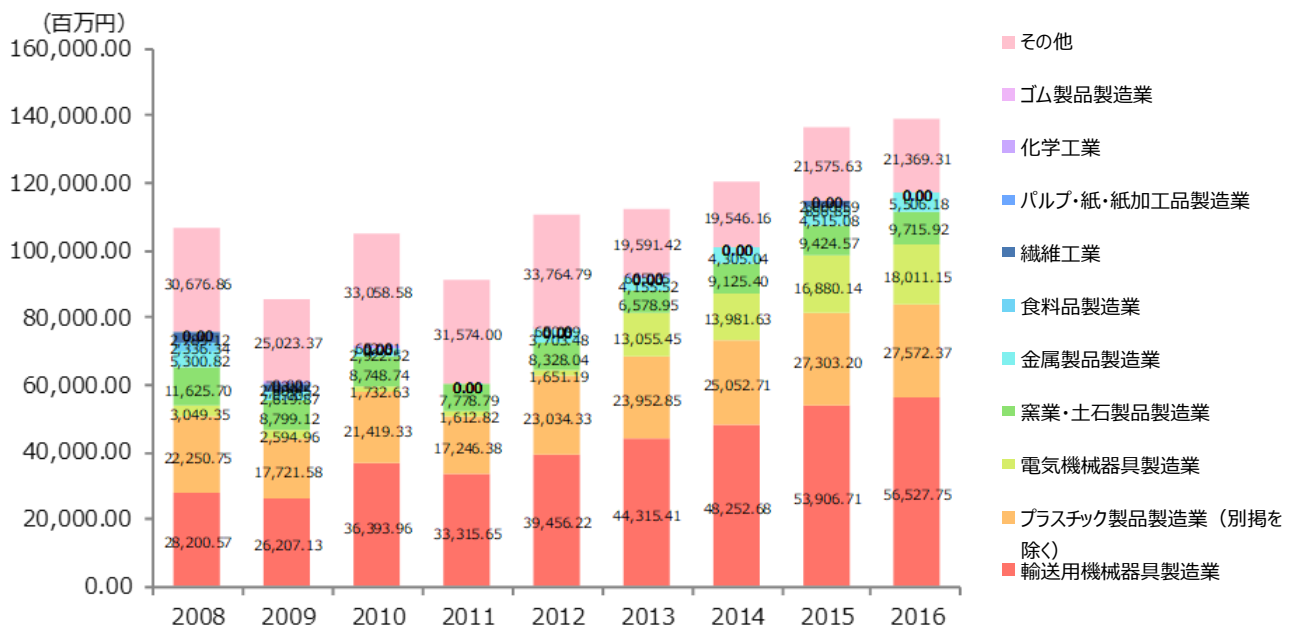


②業種別製造品出荷額等の変化

資料：経済センサス、工業統計調査

- 製造品出荷額等の額が大きい業種は、上位から「輸送用機械器具製造業」、「プラスチック製品製造業」、「電気機械器具製造業」の順となっています。
- 上位の2業種で全体の約60%、上位3業種で全体の70%以上を占めています。

図表 1-3-6 業種別製造品出荷額等の変化 (2016 年)



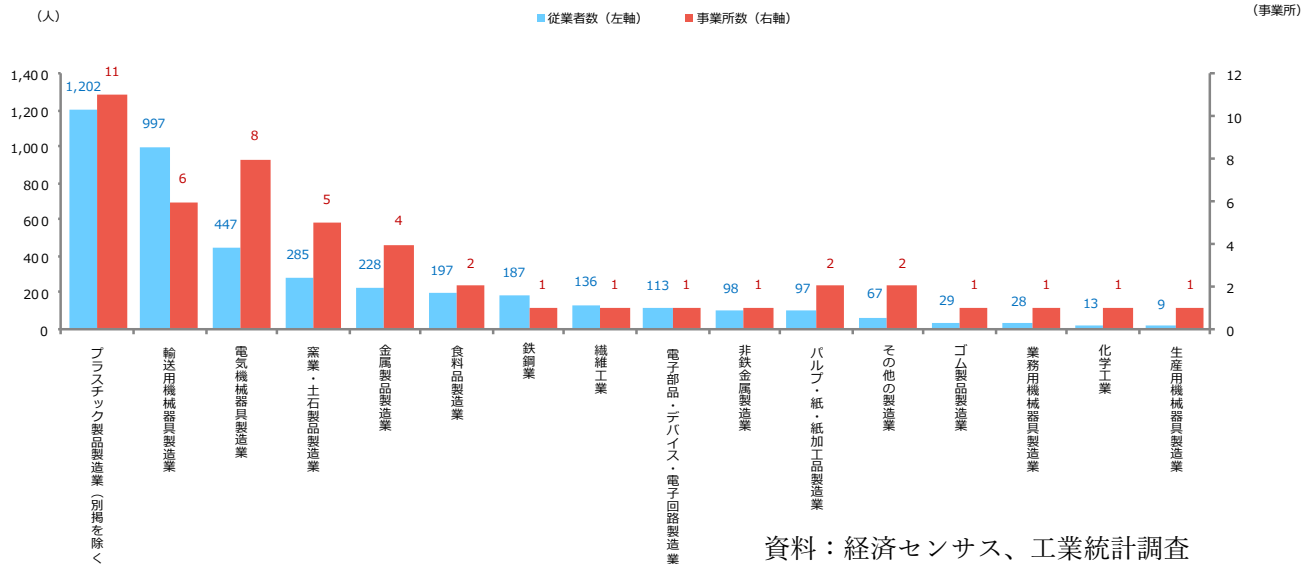
資料：経済センサス、工業統計調査

③産業中分類別事業所数・従業者数

○事業所数は、「プラスチック製品製造業」、「電気機械器具製造業」、「輸送用機械器具製造業」の順で多くなっていますが、従業者数は、「プラスチック製品製造業」、「輸送用機械器具製造業」、「電気機械器具製造業」の順で多くなっています。

○1 事業所当たりの従業者数は、「輸送用機械器具製造業」が約 166 人、「プラスチック製品製造業」が約 109 人、「電気機械器具製造業」が約 56 人です。

図表 1-3-7 産業中分類別事業所数・従業者数（2016 年）

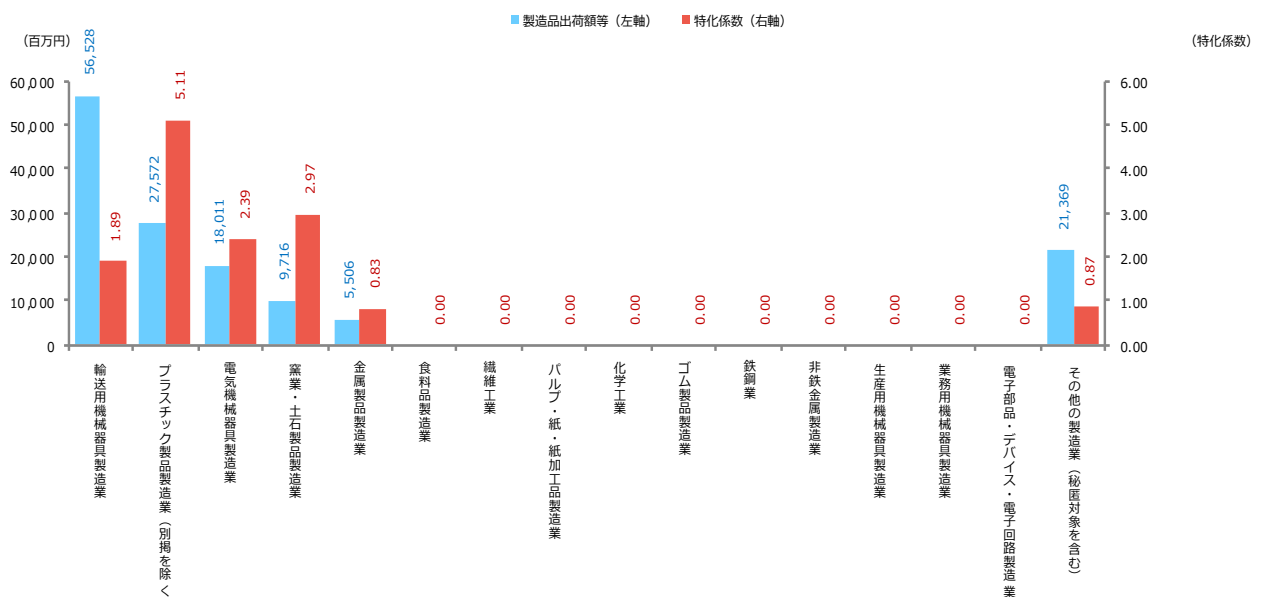


④産業中分類別製造品出荷額等

○製造品出荷額等は、「輸送用機械器具製造業」、「プラスチック製品製造業」、「電気機械器具製造業」、「窯業・土石製品製造業」の順で多くなっています（ただし、数字が秘匿されている業種があります）。

○特化係数を見ると、この 4 業種はいずれも 1 以上となっており、「プラスチック製品製造業」が 5.11 と最も高く、次いで「窯業・土石製品製造業」が 2.97、「電気機械器具製造業」が 2.39、「輸送用機械器具製造業」が 1.89 となっています。

図表 1-3-8 産業中分類別製造品出荷額等（2016 年）

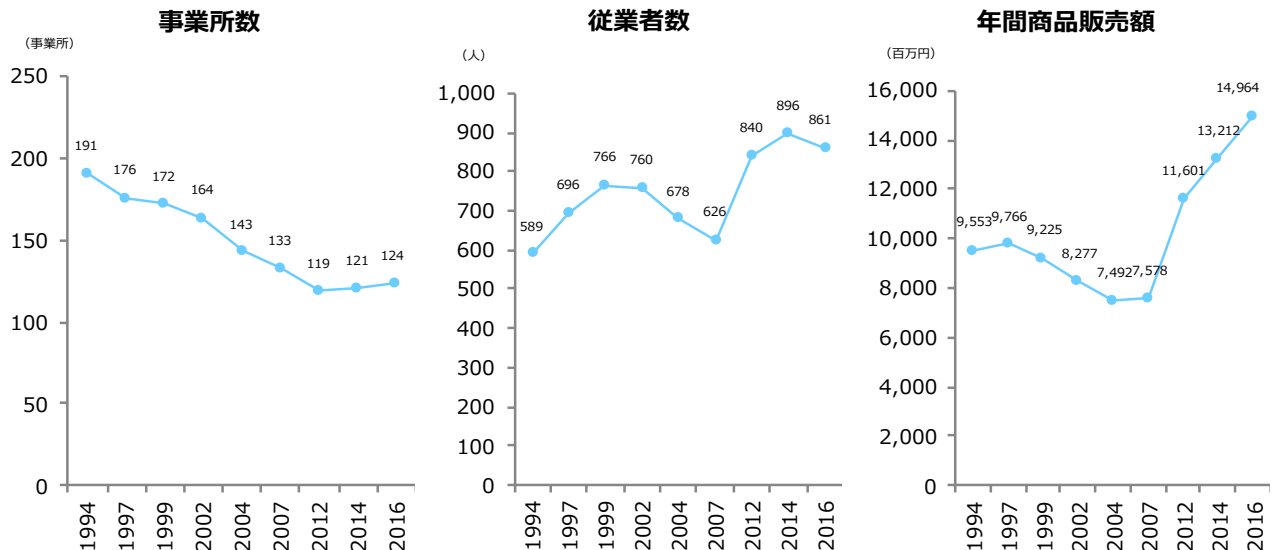


(3) 小売業の特色

①事業所数、従業者数、年間商品販売額

- 事業所数は減少傾向ですが、従業者数は増加傾向にあり、事業所当たりの従業者数も増加傾向にあります。
- 年間商品販売額は、2004 年にかけて低下しましたが、その後大きく増加しています。従業者当たりの商品販売額は 2002 年に約 1,089 万円まで減少しましたが、その後増加に転じ 2016 年では約 1,738 万円と大きく回復しています。

図表 1-3-9 小売業の事業所数、従業者数、年間商品販売額

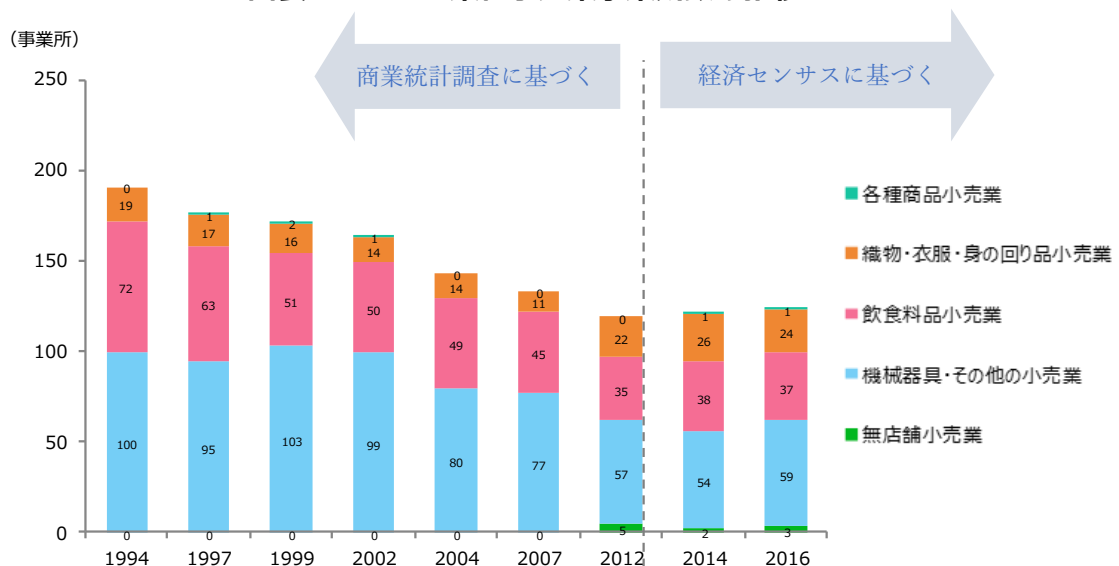


資料：経済センサス、商業統計調査

②業種別小売業事業所数の推移

- 「機械器具、その他の小売業」、「飲食料品小売業」、「織物・衣服・身の回り品小売業」の順で事業所数が多くなっています。
- 「織物・衣服・身の回り品小売業」は増加傾向ですが、「機械器具、その他の小売業」、「飲食料品小売業」は減少傾向にあります。

図表 1-3-10 業種小売業事業所数の推移



資料：経済センサス、商業統計調査

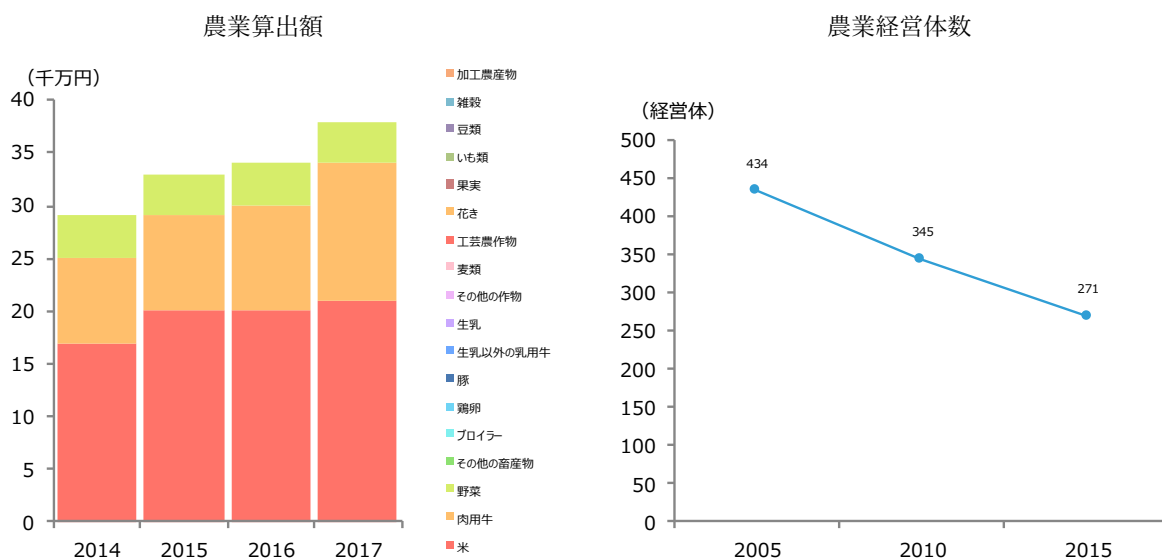
(4) 農業の特色

① 農業産出額、農業経営体数の推移

○本町の農業生産品として計上されているものは、米、肉用牛、野菜の3品目で、産出額は米が約55%、肉用牛が約34%、野菜が約11%となっています。

○農業経営体数は、2005年から大きく減少しています。

図表 1-3-11 農業算出数、農業経営体数



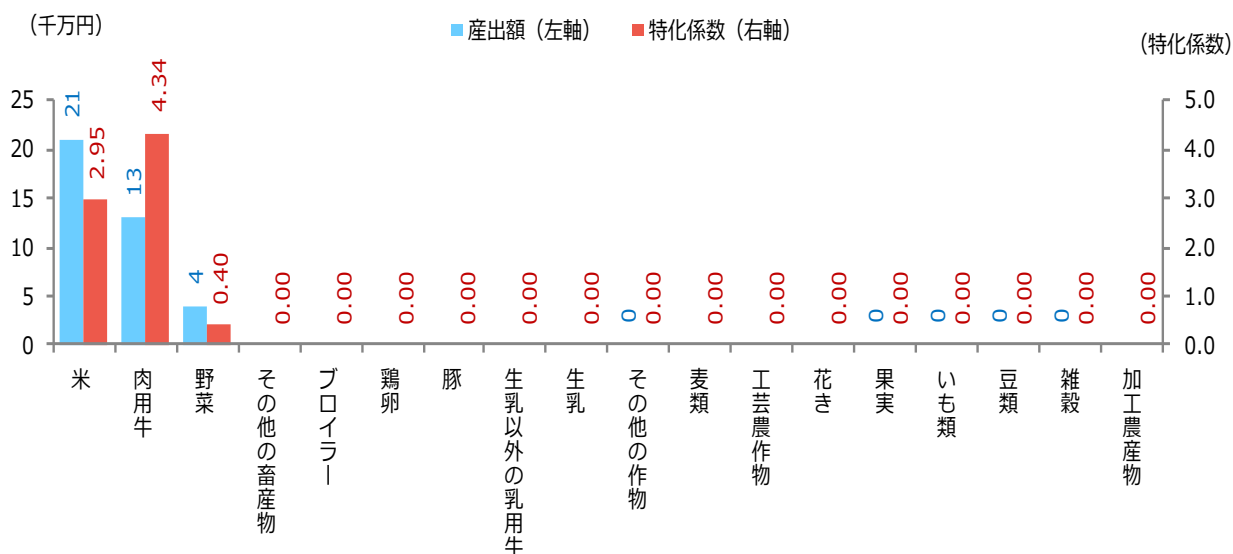
【出典】 農業産出額(都道府県単位) 農林水産省「都道府県別農業産出額及び生産農業所得」
 農業産出額(市区町村単位) 農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」
 農業経営体数 農林水産省「農林業センサス」再編加工

② 品目別農業産出額

○農業産出額の特化係数は肉用牛が4.34と非常に高く、米も2.95と高くなっています。

○野菜は0.40にとどまっており、上位2品目に大きく偏った品目構成となっています。

図表 1-3-12 品目別農業産出額 (2017年)



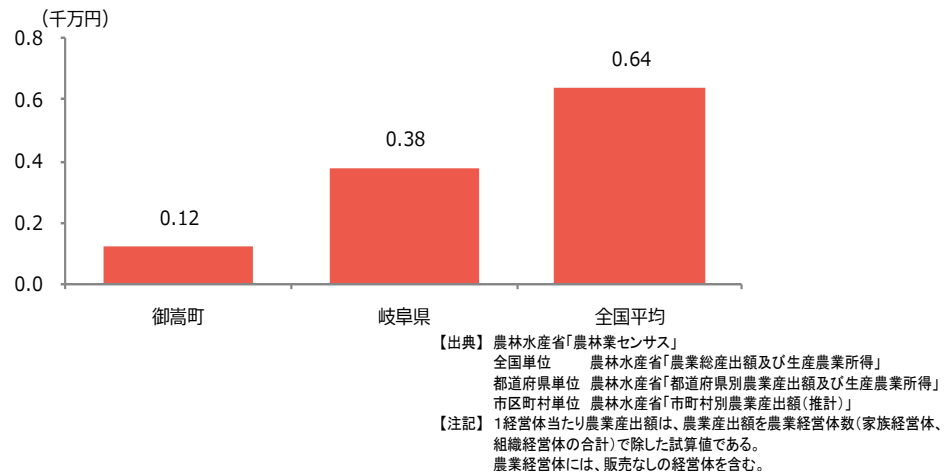
【出典】 都道府県単位 農林水産省「都道府県別農業産出額及び生産農業所得」
 市区町村単位 農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」

【注記】 「その他の畜産物」には、農林水産省「都道府県別農業産出額及び生産農業所得」及び「市町村別農業産出額(推計)」で示される「鶏」から「鶏卵」と「ブロイラー」を減じた値を含む。

③経営体当たり農業産出額

○経営体当たりの農業産出額は 120 万円であり、岐阜県平均の 380 万円、全国平均の 640 万円と比べ、かなり低くなっています。

図表 1-3-13 経営体当たり農業産出額(2015 年)

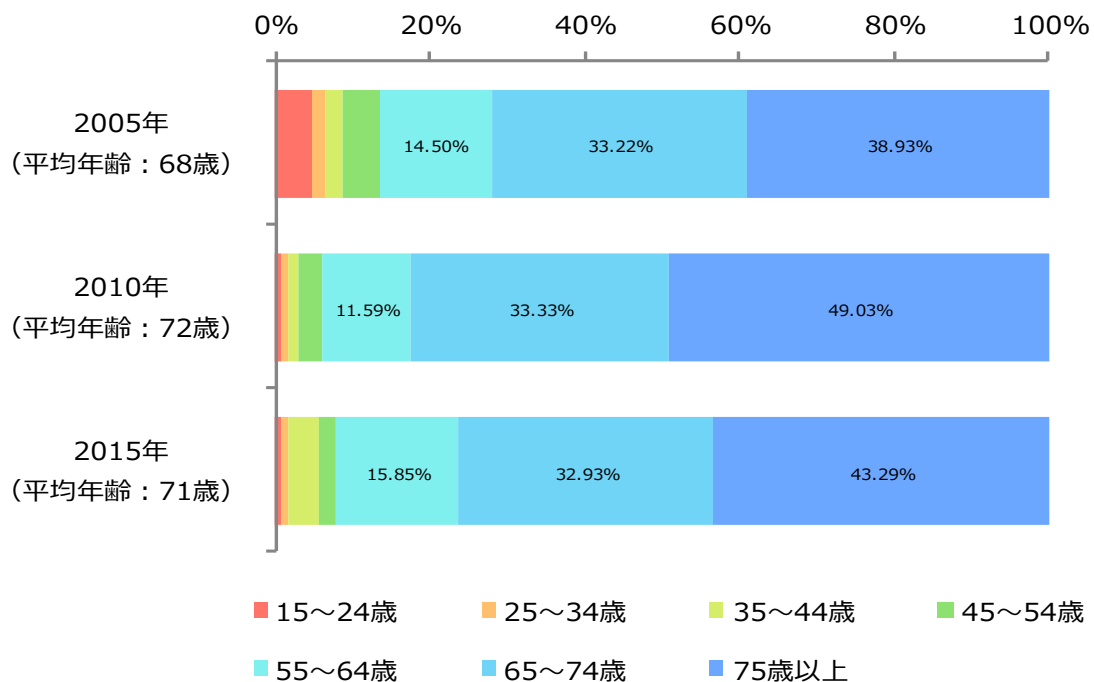


④年齢階級別農業就業者比率と平均年齢

○農業就業者の年齢構成は、2010 年にほぼ半数が 75 歳以上となり、平均年齢も 72 歳と非常に高くなりましたが、2015 年には 75 歳以上の割合が低下し 55～64 歳の割合が増加しました。

○この結果、平均年齢も 71 歳と低下したものの、農業人口の減少と高齢化は依然として続いています。

図表 1-3-14 年齢別農業就業者の比率の推移



【出典】農林水産省「農林業センサス」再編加工

【注記】農業就業人口:農業従事者のうち、農業を主として従事した世帯員

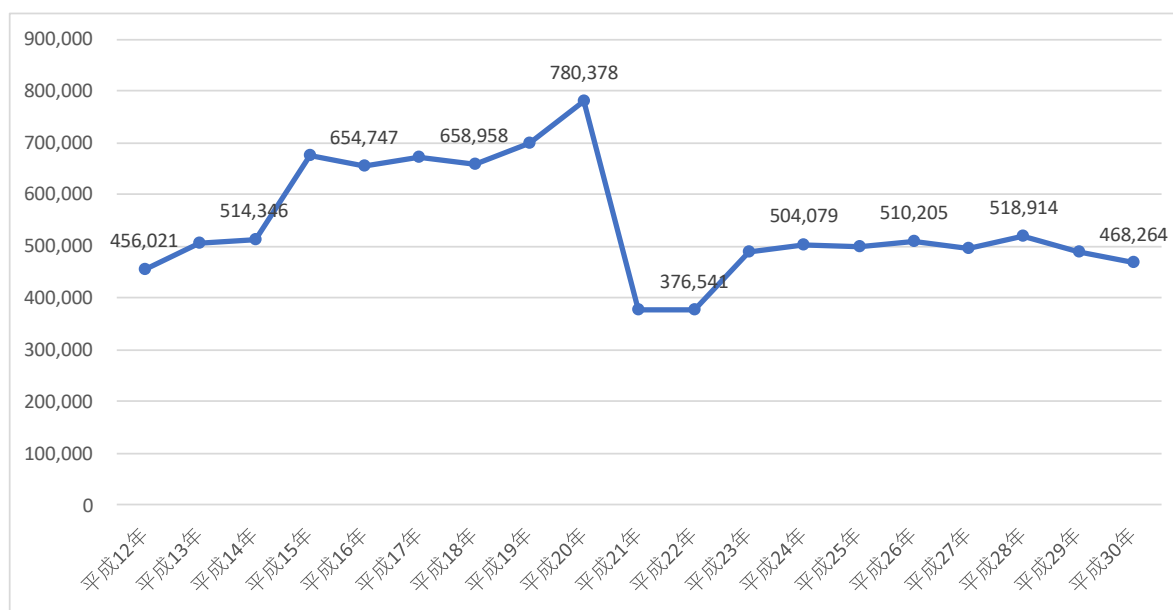
（５）観光動向

①観光客数

○御嵩町の観光客数は、2018 年（平成 30 年）で 468,264 人であり、平成 20 年に調査対象が客数 5 万人以上の施設に限定されたことから急減していますが、平成 21 年以降は平成 23 年にかけて増加した後、ほぼ横ばいとなっています。

○2017 年（平成 29 年）の岐阜県観光入込客統計調査によると、御嵩町の観光地分類別観光入込客数は周辺市町に比べかなり少なく、目的としては、「スポーツ・レクリエーション」（ゴルフなど）、「歴史・観光」、「自然」の 3 項目となっています。また、「スポーツ・レクリエーション」の多くはゴルフ場利用者です。

図 1-3-15 観光客数の推移（人）



市町村名	自然	歴史・文化	温泉・健康	スポーツ・レクリエーション	都市型観光（買物・食等）	道の駅等	計
御嵩町	50,791	64,288	0	358,390	0	0	473,469
美濃加茂市	0	289,456	0	509,073	0	90,344	888,873
可児市	0	0	1,945,308	865,143	578,810	274,164	3,663,425
八百津町	0	0	0	35,002	0	0	35,002
関市	230,300	227,029	538,600	1,192,363	260,219	606,185	3,054,696
多治見市	0	806,326	0	109,384	26,320	0	942,030
瑞浪市	24,692	68,386	0	521,312	545,474	104,410	1,264,274
土岐市	0	33,380	681,607	129,845	7,284,637	1,042,621	9,172,090
中津川市	210,450	1,325,337	304,432	357,888	643,501	1,190,707	4,032,315
恵那市	545,104	575,303	87,535	450,102	42,831	1,781,082	3,481,957

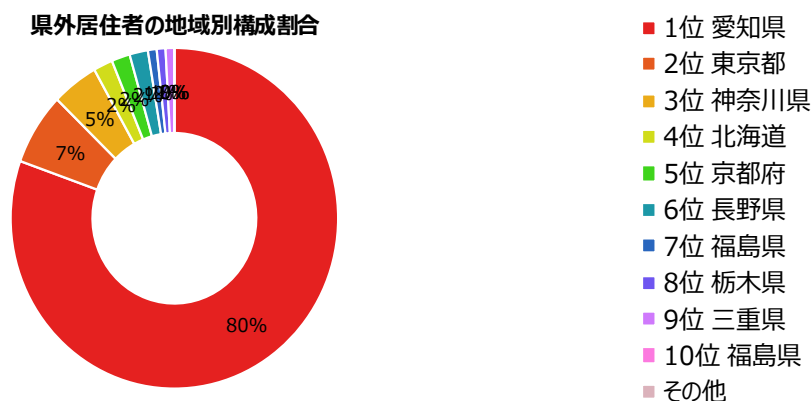
出典：岐阜県観光入込客統計調査

②滞在した県外居住者の居住都道府県別構成比

○休日 14 時に御嵩町に滞在した人口のうちの県外居住者は 1,156 人(8.8%)であり、その 80%は愛知県に居住しています。

○愛知県以外では、東京都、神奈川県、北海道など遠方が多くなっています(2019 年 1 月)。

**図表 1-3-16 休日 14 時に自地域に滞在した県外居住者の
居住都道府県別構成比(2019 年 1 月)**



【出典】株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」

【注記】滞在人口とは、指定地域の指定時間（4時、10時、14時、20時）に滞在していた人数の月間平均値（平日・休日別）を表している。

滞在人口には観光客以外の来訪者も含んでいる。

政令市については、市役所の位置する行政区のデータを表示している。

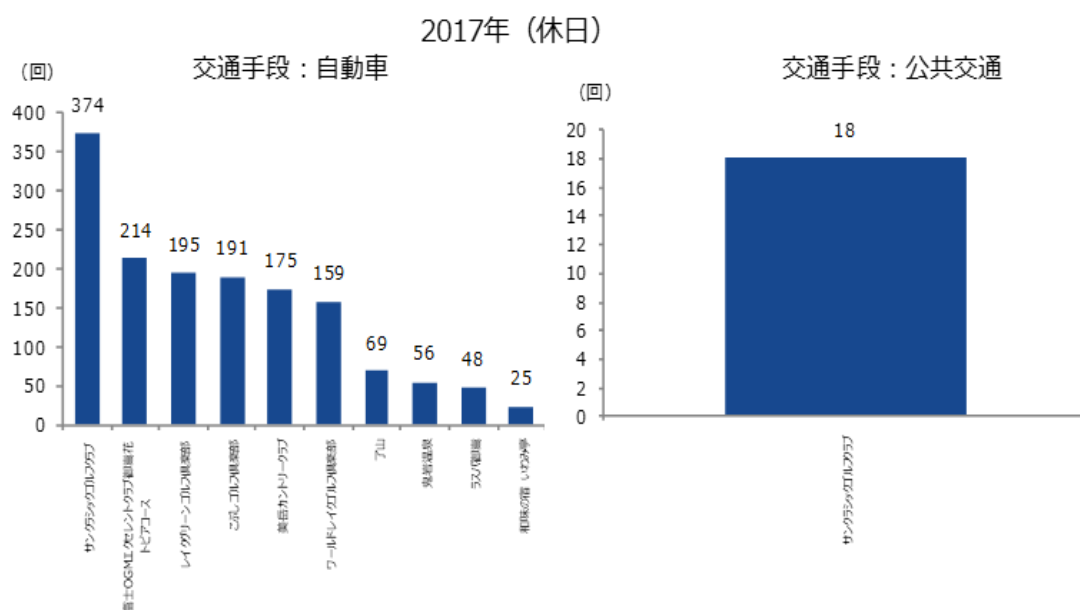
※滞在人口合計：13,502 人、うち県外居住者 1,156 人（8.6%）

③観光施設等を目的とした検索回数ランキング

○交通手段が自動車系の検索はほとんどがゴルフ場であり、ゴルフ場以外では鬼岩温泉と大型ショッピングセンターがわずかに検索されているのみです。

○公共交通を手段とする検索は、ゴルフ場 1 箇所のみでした(2017 年・休日)。

図表 1-3-17 観光施設等を目的とした検索回数ランキング

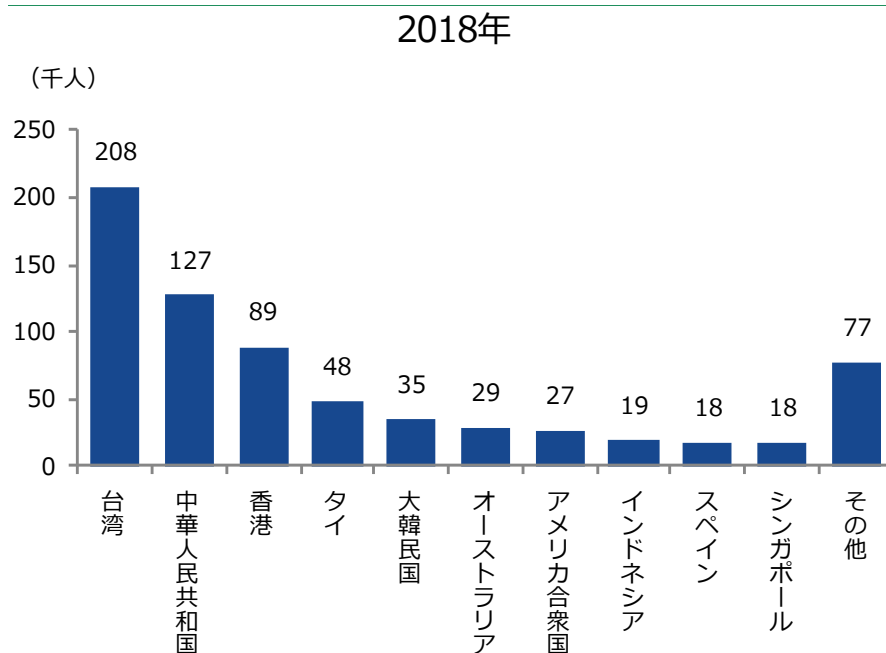


【出典】株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

④国、地域別外国人訪問客数「都道府県単位」

○岐阜県に来訪した外国人は、台湾が最も多く、以下中華人民共和国、香港、タイ、大韓民国が多く、ほとんどはアジアからの来訪者です（2018年）。

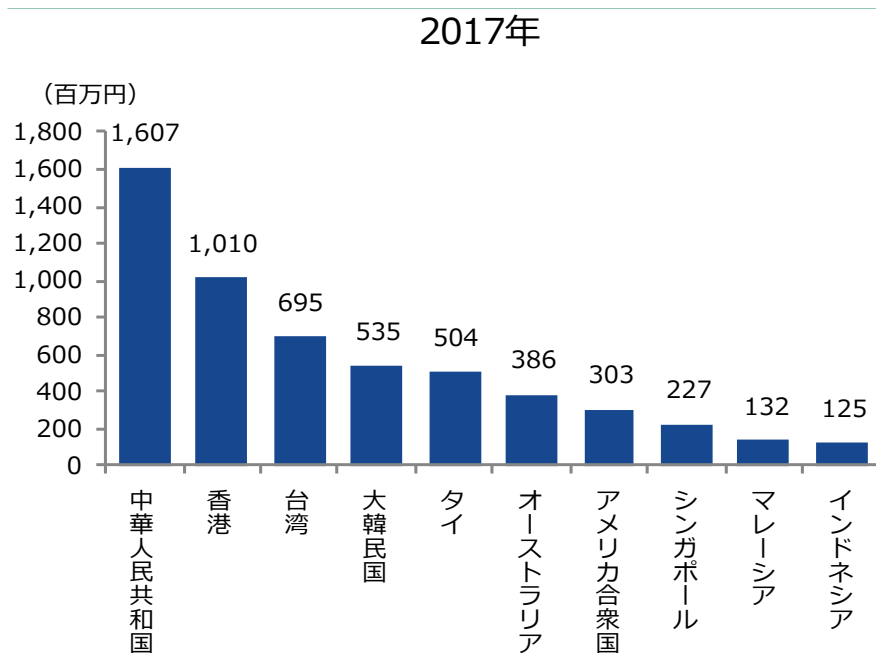
図表 1-3-18 国、地域別外国人訪問客数【都道府県単位】



【出典】 観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」

【注記】 「地域別の訪日外客数＝地域別の訪問率【観光・レジャー目的】×訪日外客数×旅行目的別構成比【観光・レジャー目的】」により推計している。

図表 1-3-19 指定地域内での国・地域別消費額【都道府県単位】



【出典】 ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社のカードデータを再編加工

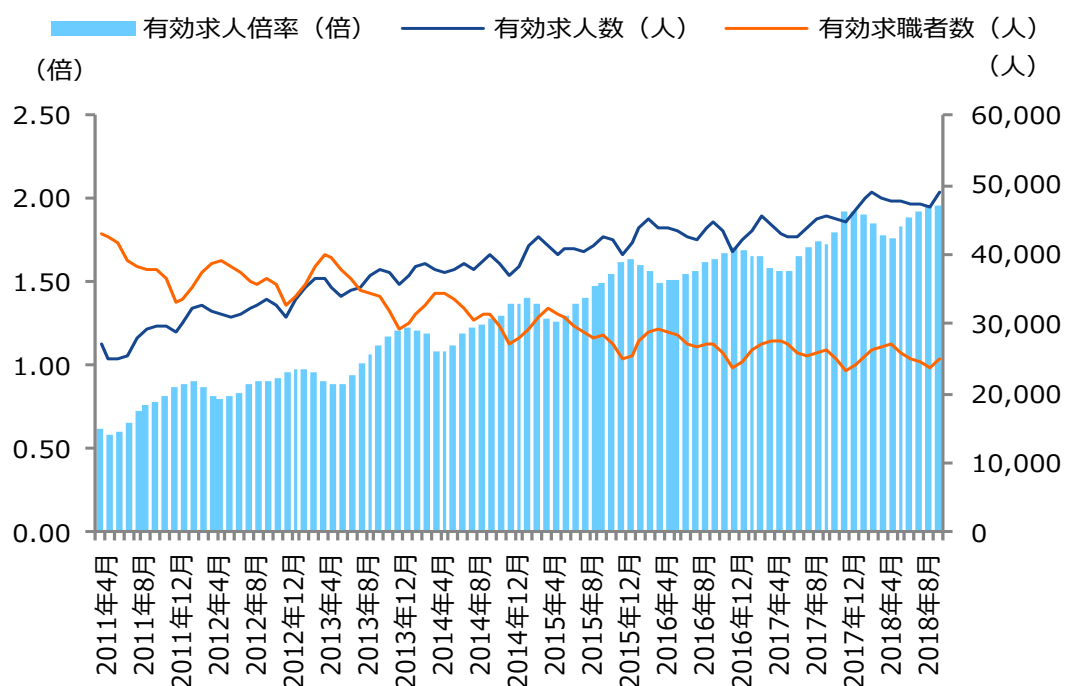
【注記】 消費額は、外国人訪問客がクレジットカードを使用した消費額を地域別のシェア率等から算出した金額。
国・地域は、カード所有者の居住地であるため、観光客以外の永住者・定住者による消費額も含まれる。

(6) 雇用

- 岐阜県の有効求人倍率は、2013 年 8 月に 1 を超えて以来、おおむね上昇傾向にあり、2018 年 10 月には 1.96 倍と高い値となっています。
- 有効求人数は 2018 年 10 月に約 49,000 人であり、増加傾向にあります。一方、有効求職者数は 2018 年 10 月時点で約 25,000 人と減少傾向にあることから、今後は人手不足が懸念されます。
- 有効求人倍率を全国と比較すると、岐阜県は全国よりかなり高い値で推移しています。

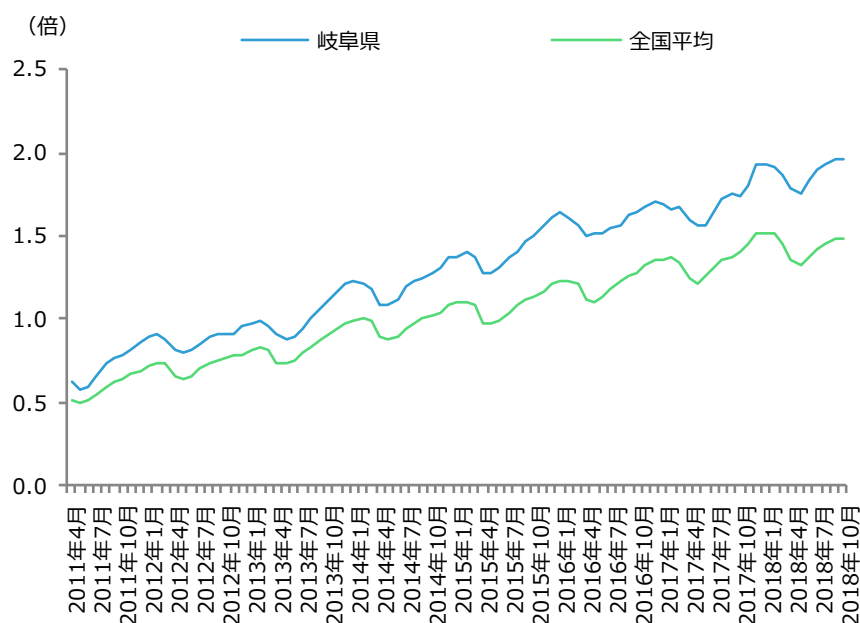
図表 1-3-20 有効求人倍率の動向

有効求人倍率（岐阜県）



出典：厚生労働省「職業安定業務統計」

図表 1-3-21 有効求人倍率（岐阜県と全国）



出典：厚生労働省「職業安定業務統計」

Ⅱ

『まちづくり』について のアンケート調査結果

◆調査の概要

1 調査の目的

御嵩町では、「御嵩町第五次総合計画」（平成 28（2016）年 3 月策定）に基づいて、まちづくりを進めてきましたが、同計画の計画期間である令和 7（2025）年度までの折り返しの時期となりました。また、地方創生をより効果的に進めるために策定した「みたけ創生!!総合戦略」の計画期間が令和元（2020）年度に終了します。

このため、本町では「後期基本計画」の策定へ向け点検・見直しを行うとともに、「第 2 期総合戦略」の策定を進めます。

これらの計画は町民の皆様との協働で、安心して暮らし続けることができ、若者が夢を描くことができるまちづくりを目指すものであり、町民の意見を把握するためにアンケート調査を実施しました。

2 調査方法と回収結果

【調査対象】

18 歳以上の町民から 1,800 人を無作為抽出しました。

【調査方法】

郵送配布・郵送回収方式で実施しました。

【調査項目】

下記の項目について、設問を設定しました。

- ①回答者のプロフィール
- ②御嵩町のイメージについて
- ③町の施策全般について
- ④まちづくりを進めてきた成果について
- ⑤日ごろの生活や活動について
- ⑥まちづくりの進め方や方向について

【調査期間】

令和元年 9 月 5 日～9 月 26 日

【回収結果】

配布数	有効配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
1,800 人	1,797 人	748	748	41.6%

3 結果の表示方法

- ①図中の構成比（％）は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100.0%にはなりません。
- ②複数回答の場合の構成比（％）は回答者数を母数としており、合計は100%を超えます。
- ③選択肢についての文中の記述は調査票の記述をそのまま用いていますが、図表中や一部の文章については略している場合があります。

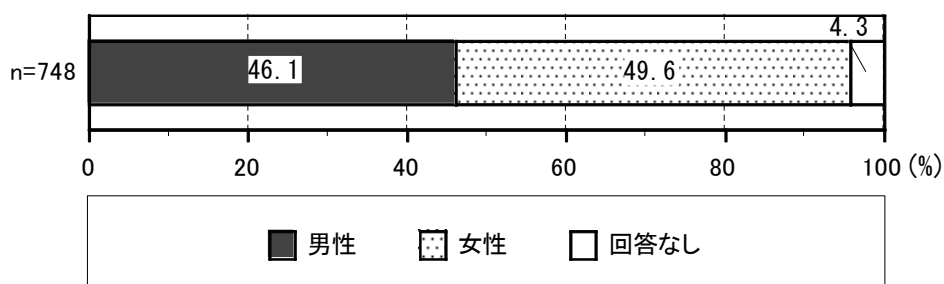
◆調査結果

1 回答者のプロフィール

(1) 性別

○「女性」が49.6%、「男性」が46.1%で、女性が多くなっています。

図表 2-1-1 性別

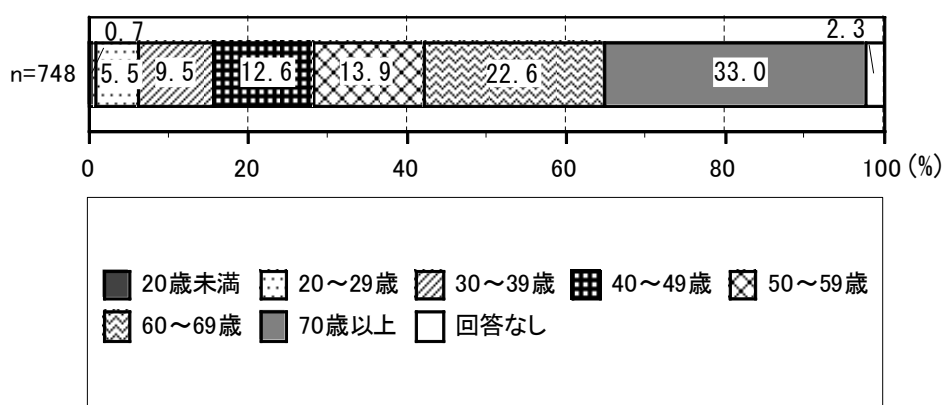


(2) 年齢

○「70 歳以上」が 33.0%と最も多く、次いで「60～69 歳」が 22.6%となっており、高い年齢層が 55%以上を占めています。

○「20 歳未満」は 5 人で 0.7%とわずかであり、「20～29 歳」が 5.5%にとどまっています。

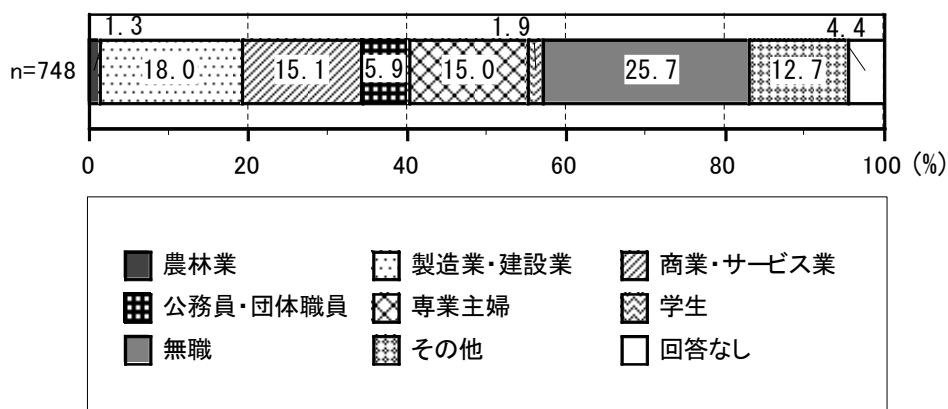
図表 2-1-2 年齢



(3) 職業

○「無職」が 25.7%と最も多く、次いで「製造業・建設業」が 18.0%、「商業・サービス業」が 15.1%、「専業主婦」が 15.0%となっています。

図表 2-1-3 職業

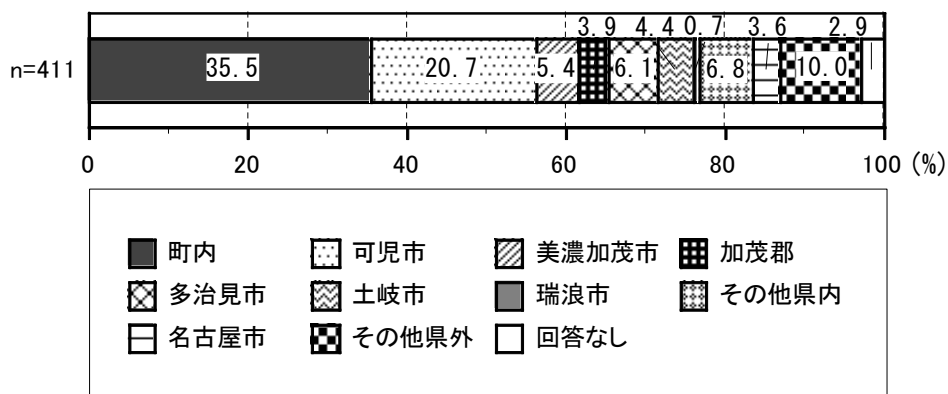


(4) 勤務(通学)先所在地

○「町内」が 35.5%と最も多く、次いで「可児市」が 20.7%となっています。

○『多治見市・土岐市・瑞浪市』が約 11%、「その他県外（名古屋市を除く）」が 10.0%、『美濃加茂市・加茂郡』が約 9%となっています。

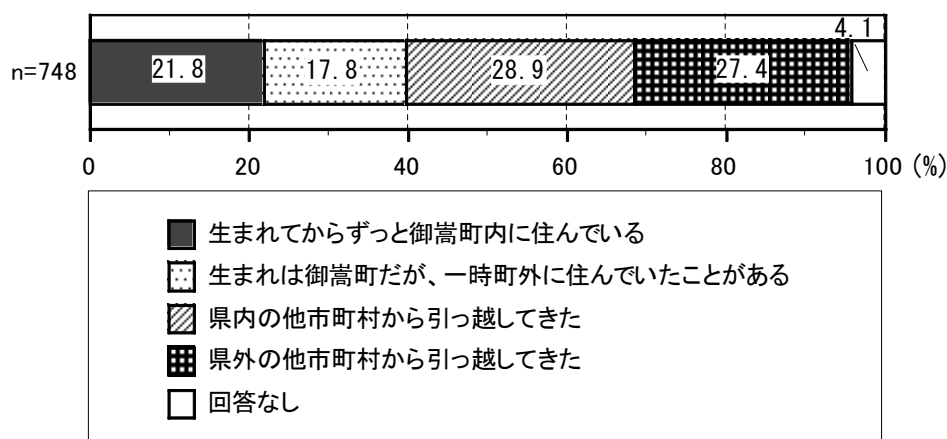
図表 2-1-4 勤務先



(5) 居住状況

- 「県内の他市町村から引っ越してきた」と「県外の手市町村から引っ越してきた」が、それぞれ30%弱と多くなっており、引っ越してきた人は合わせて60%弱を占めます。
- 「生まれてからずっと御嵩町内に住んでいる」が21.8%、「生まれは御嵩町だが、一時町外に住んでいたことがある」が17.8%となっており今後のUターンの可能性もうかがえます。

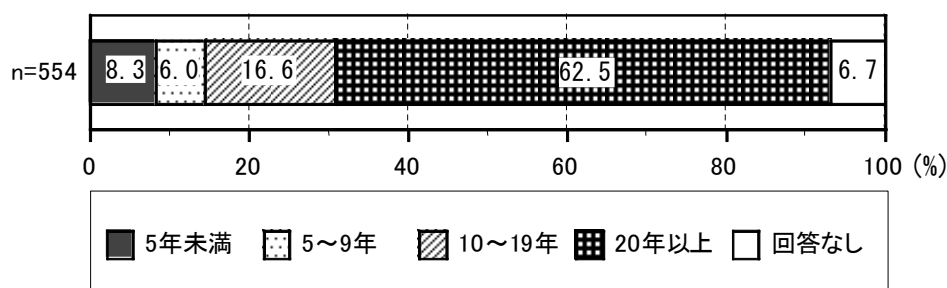
図表 2-1-5 居住状況



(6) 引っ越して来てからの年数

- 「20年以上」が62.5%を占めており、最も短い「5年未満」は8.3%となっています。

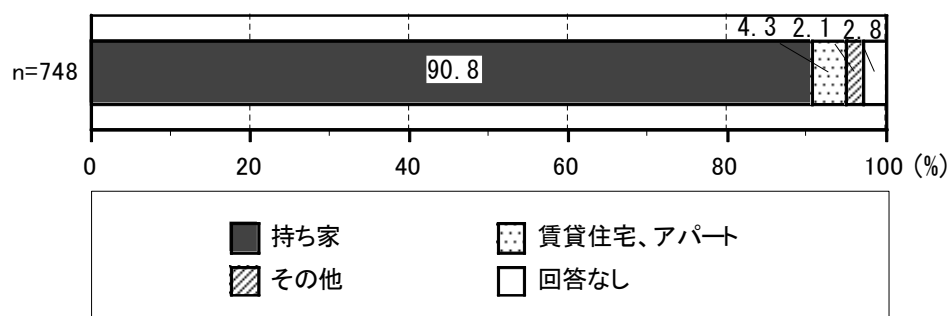
図表 2-1-6 引っ越して来てからの年数



(7) 居住形態

- 「持ち家」が90.8%を占めており、「賃貸住宅（アパート含む）」は4.3%にとどまっています。

図表 2-1-7 居住形態



(8) 居住地区

【全体】

○「中地区」が 32.8%と最も多く、次いで「伏見地区」(28.7%)、「御嵩地区」(21.3%)、「上之郷地区」(10.4%)となっています。

【性別】

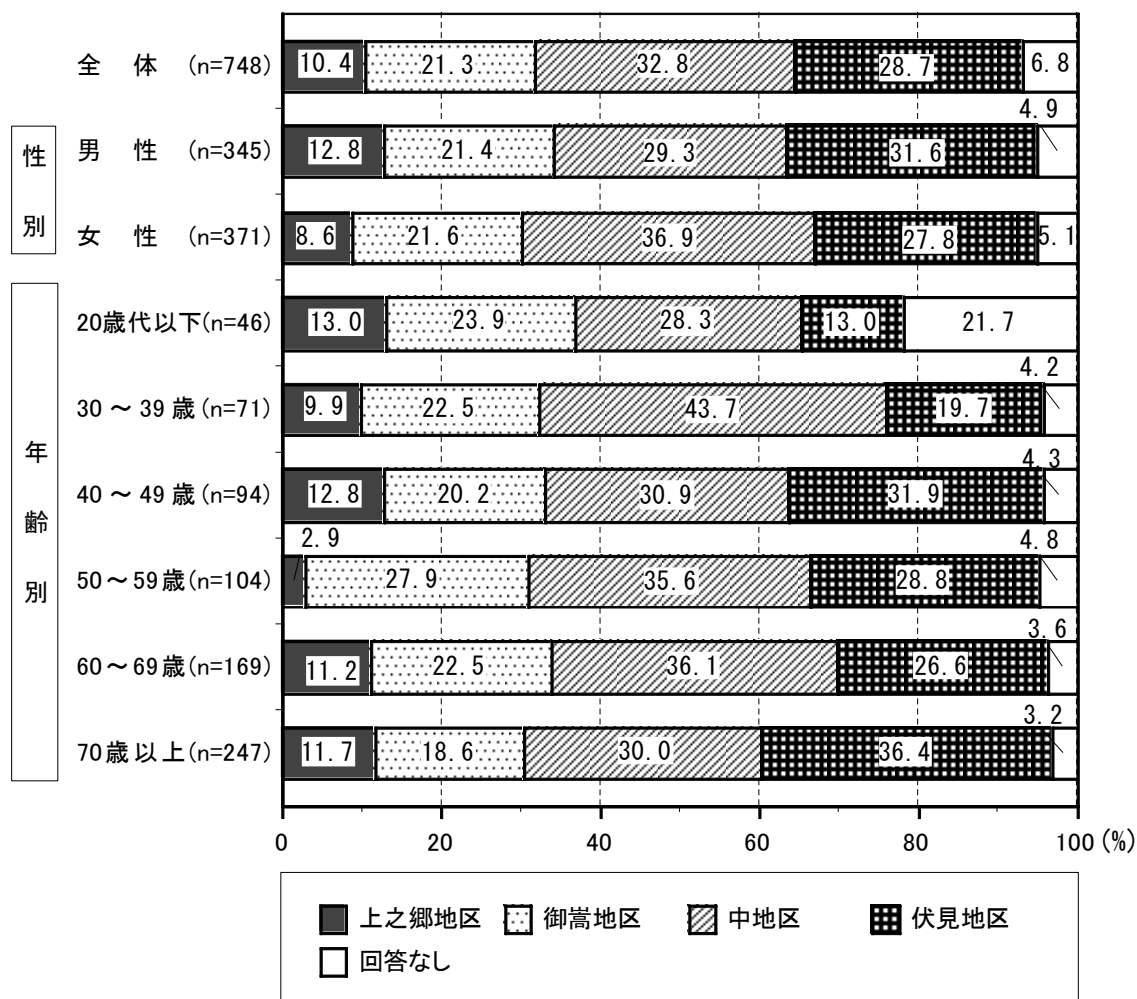
○女性で「中地区」が 36.9%と高く、「男性」では「伏見地区」が 31.6%でやや高くなっています。

【年齢別】

○30～39 歳で「中地区」が 43.7%と全体で見ると 10 ポイント以上高くなっています。

○40～49 歳と 70 歳以上では「伏見地区」(31%以上)、50～59 歳では「御嵩地区」(27.9%)が高くなっています。

図表 2-1-8 居住地区 (性別・年齢別)



(9) 居住地区別の性別・年齢

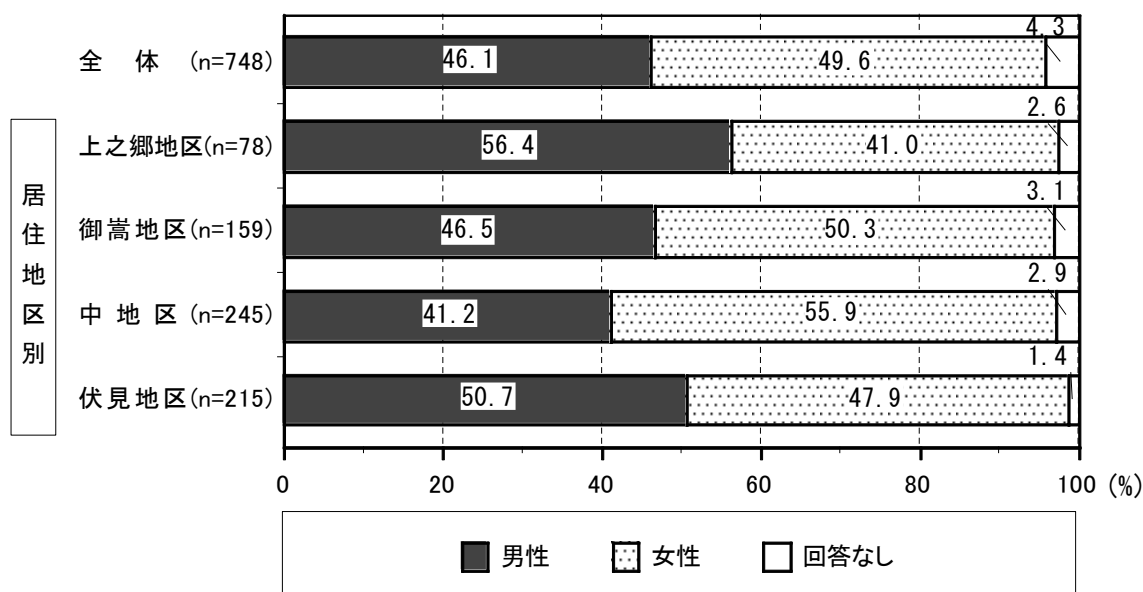
【性別別（居住地区）】

○上之郷地区と伏見地区では「男性」が多く、御嵩地区と中地区では「女性」が多くなっています。

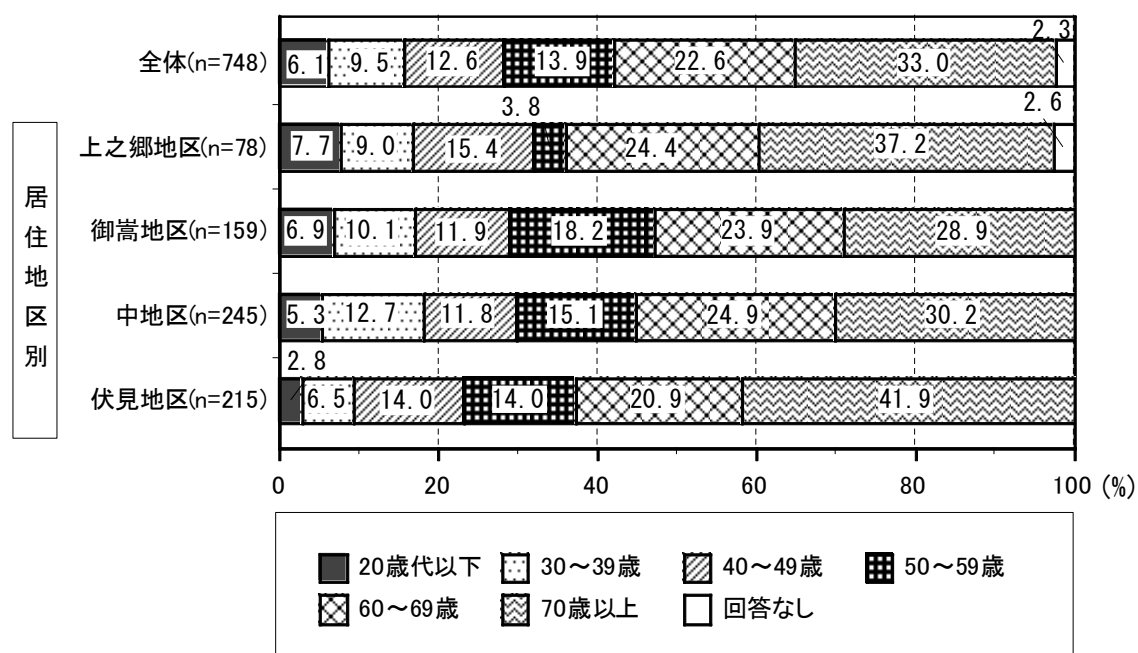
【年齢別（居住地区）】

○上之郷地区と伏見地区では「70 歳以上」が 40%前後と高く、御嵩地区では「50～59 歳」（18.2%）、中地区では「30～39 歳」（12.7%）が他地区よりも高くなっています。

図表 2-1-9 性別（居住地区別）



図表 2-1-10 年齢（居住地区別）



2 御嵩町のイメージについて

(1) 御嵩町の住みよさ

問1 あなたは、御嵩町は『住みやすい町』だと思いますか。1つ選んでください。

【全体】

○住みやすいと「思う」が 55.6%と半数を超えており、「思わない」は 19.7%、「わからない」は 23.4%となっています。

○前回の 2014 年度調査結果では、「思う」が 58.5%であり、今回は若干低くなっています。

【性別】

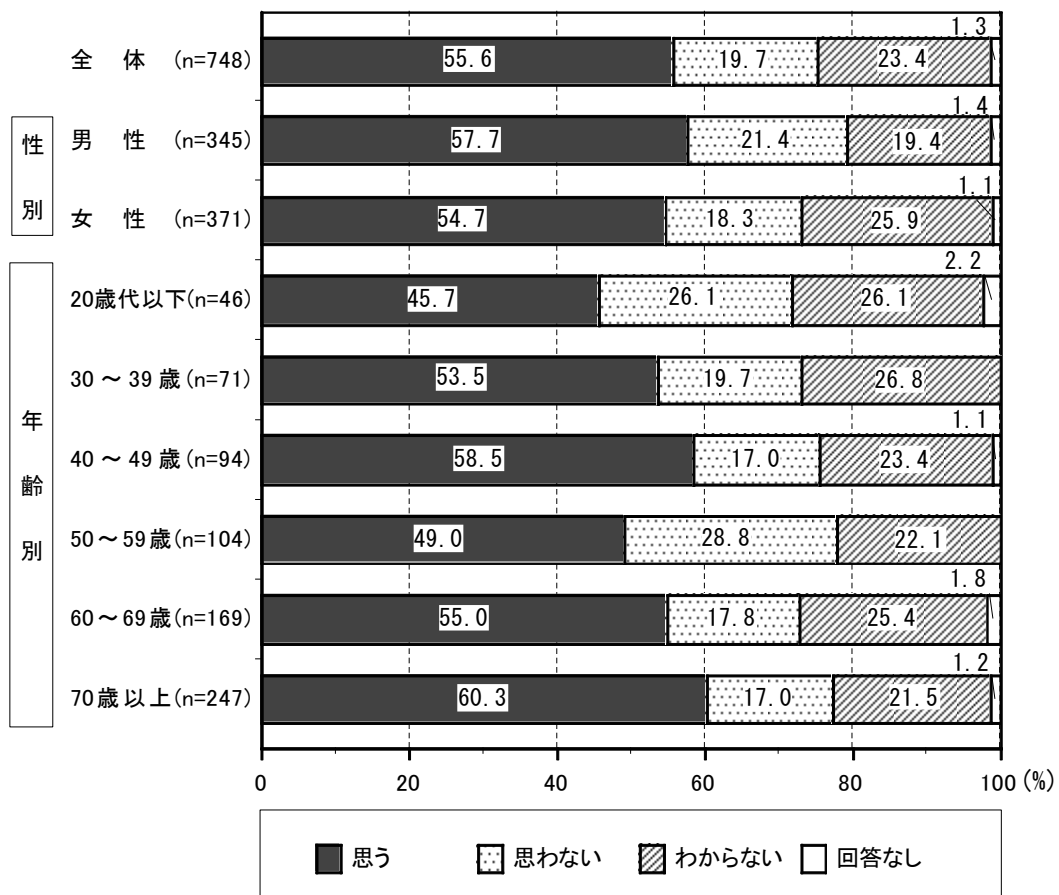
○男性で住みやすいと「思う」が 57.7%で、「女性」よりも若干高くなっています。

【年齢別】

○70 歳以上と 40～49 歳で住みやすいと「思う」が約 60%と高く、50～59 歳と 20 歳代以下で「思わない」が 26%以上と高くなっており、年齢に応じた一定の傾向は見られません。

○子育て世代である 30～39 歳で「わからない」が 26.8%と高くなっています。

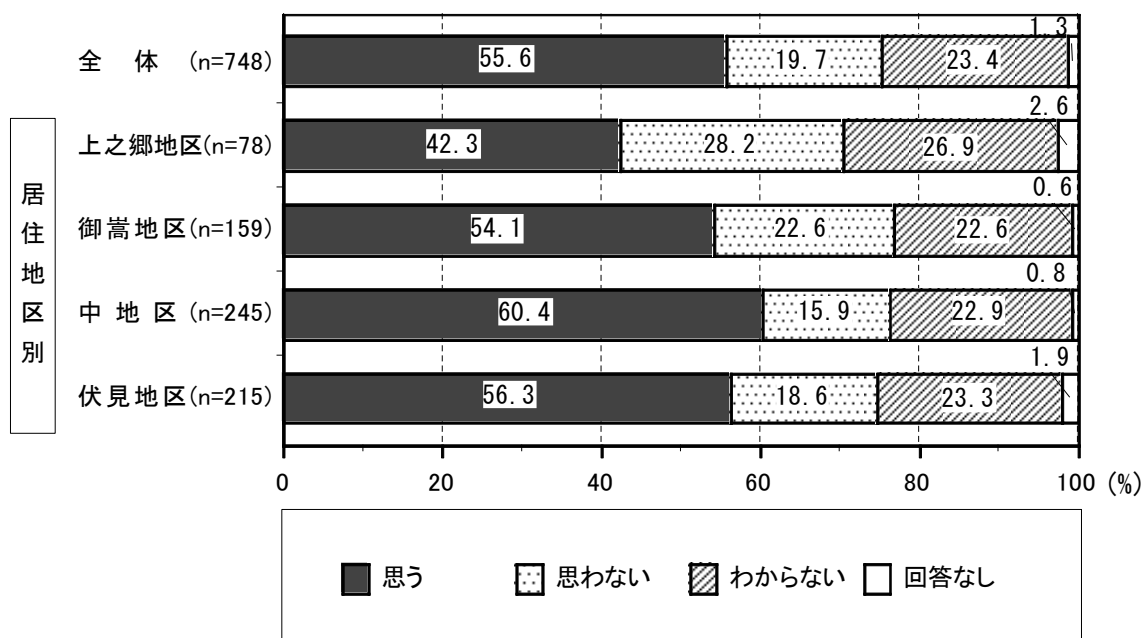
図表 2-2-1 御嵩町の住みよさ（性別・年齢別）



【居住地区別】

○中地区で「思う」が 60.4%と高く、上之郷地区で「思わない」が 28.2%と他地区よりも高くなっています。

図表 2-2-2 御嵩町の住みよさ（居住地区別）



(2) 御嵩町を自慢することができるか

問2 あなたは、御嵩町をほかの町の人やお友だちに自慢することができますか。1つ選んでください。

【全体】

○「自慢できる」が 25.7%、「自慢できない」が 32.4%でマイナス評価が高くなっていますが、「わからない」が 40.0%と多く、自慢することができる町民を増やす余地があります。

○2014 年度調査結果では、「自慢できる」が 18.9%であり、今回は7ポイント程度高くなっています。

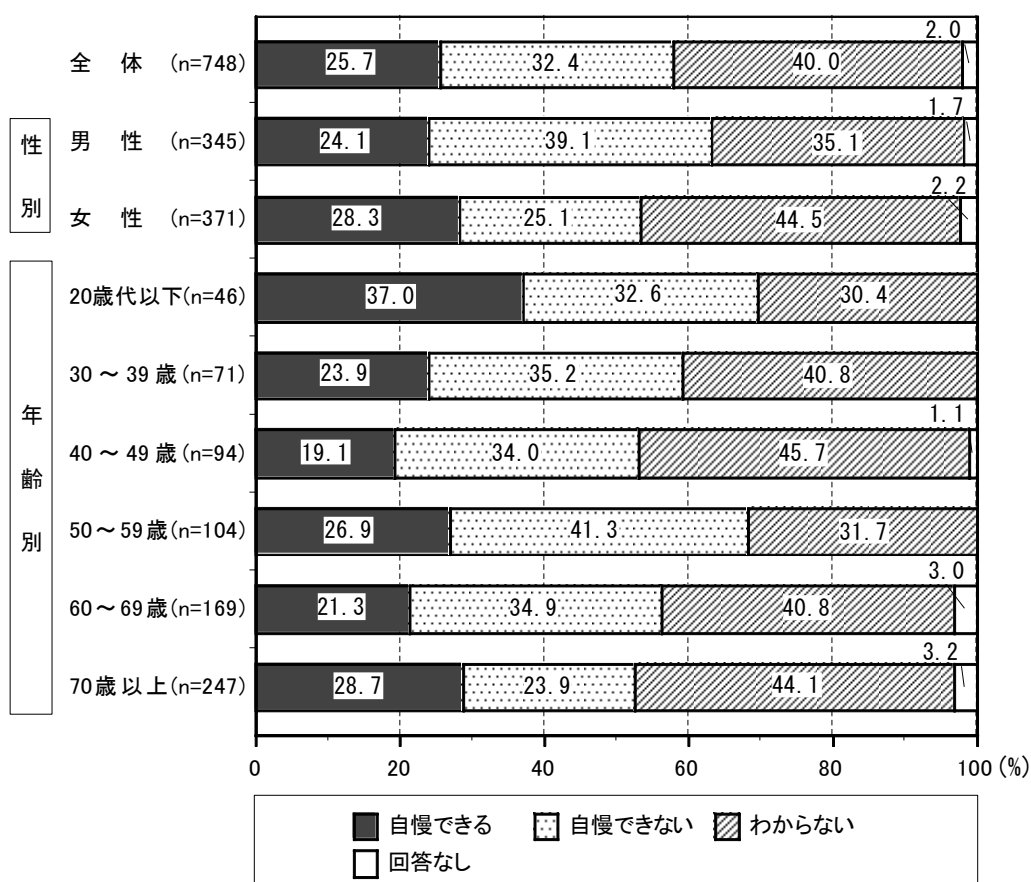
【性別】

○男性で「自慢できない」(39.1%)、女性で「わからない」(44.5%)が高く、特に女性に御嵩の良さを分かってもらう必要があると思われます。

【年齢別】

○20 歳以下と 70 歳以上で「自慢できる」(28%以上)、特に 50～59 歳「自慢できない」(41.3%)、40～49 歳と 70 歳以上で「わからない」(約 45%)が高くなっています。

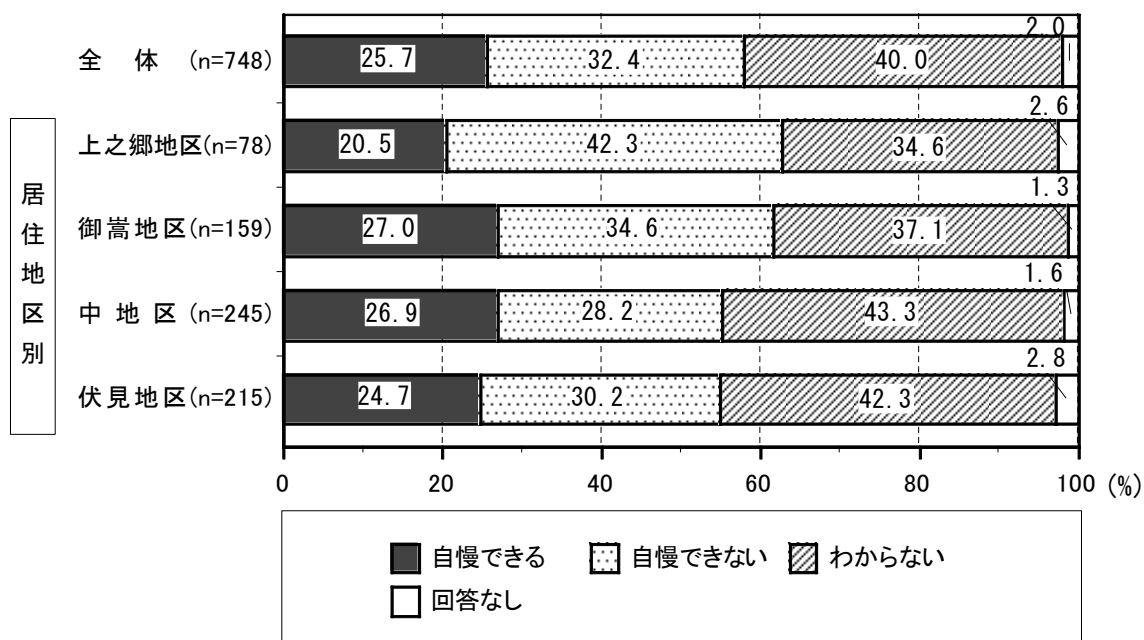
図表 2-2-3 御嵩町を自慢することができるか（性別・年齢別）



【居住地区別】

○上之郷地区で「自慢できない」が42.3%と、特に高くなっていることが目立ちます。

図表 2-2-4 御嵩町を自慢することができるか（居住地区別）



(3) 御嵩町の住みやすさについての項目別評価

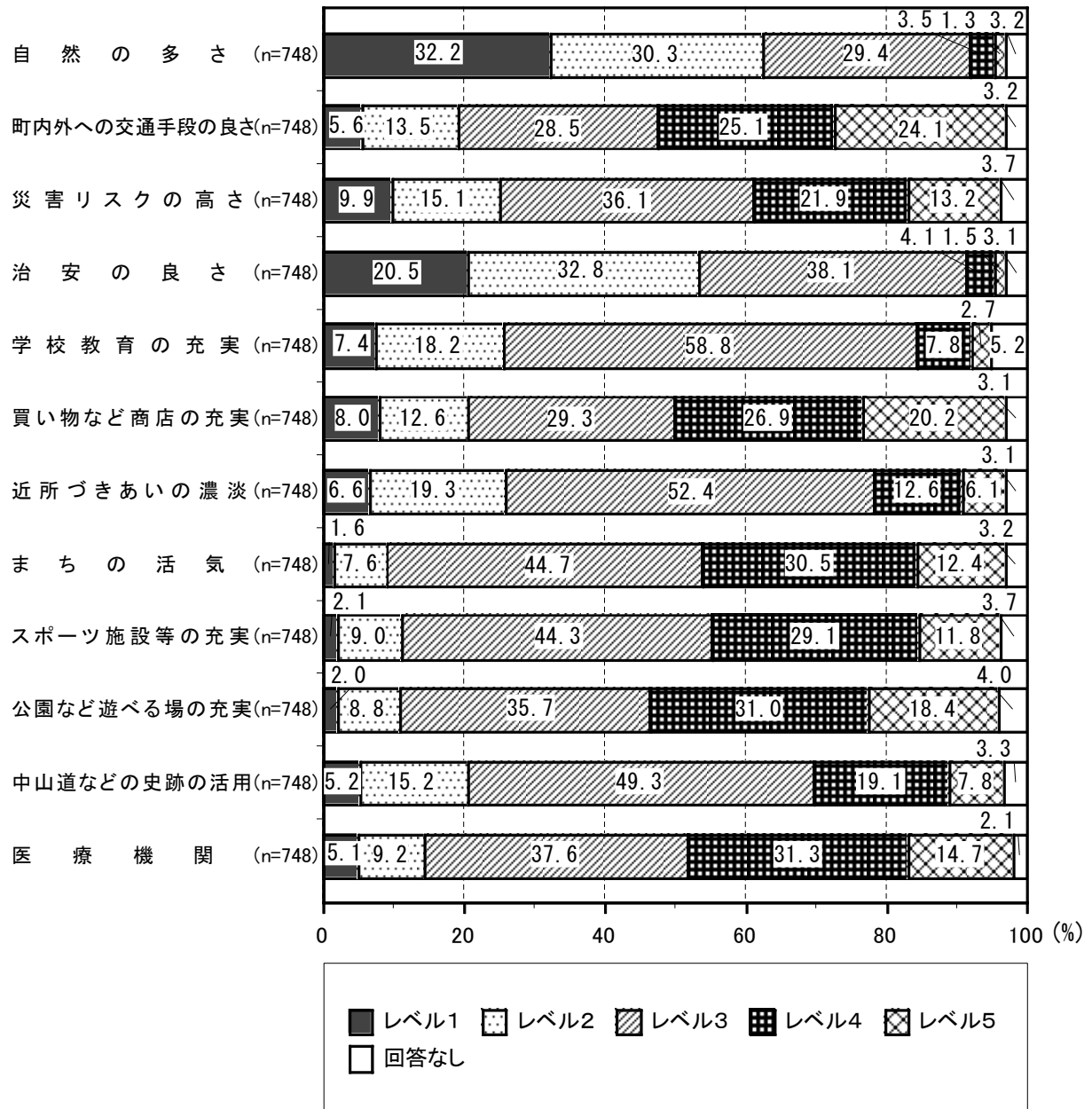
問3 御嵩町の住みやすさについてどのように感じますか。次の項目について、1～5のいずれかの番号を選んでください。

	項目	住みやすさ				
		住みやすい ←→ 住みにくい				
1	自然の多さ	1	2	3	4	5

※項目は 12 項目

- 項目別の住みやすさの評価について、評価が高い方の「1」、「2」の回答を合わせた割合を見ると、①自然の多さが約 63%、治安の良さが 53%で、特に評価が高くなっています。
- 次いで⑦近所づきあいの濃淡、⑤学校教育の充実、③災害リスクの高さがそれぞれ約 25%、⑥買い物など商店の充実⑪中山道などの史跡の活用、②町外、町内への交通手段の良さが約 20%となっています。
- 評価が低い項目は、低い方から⑧まちの活気、⑩公園など遊べる場の充実、⑨スポーツ施設等の充実、⑫医療機関というように、地域の活力や子ども、若者、高齢者の過ごしやすさにかかわる項目となっており、定住促進を進める上で課題となります。

図表 2-2-5 御嵩町の住みよさについての項目別評価



(4) 御嵩町での居住意向

問4 あなたは、これからも御嵩町に住み続けたいと思いますか。 1つ選んでください。

【全体】

○住み続けたいと「思う」が 55.2%、「思わない」が 7.6%で、定住の意向がある回答がない回答の 8 倍程度と多くなっています。「わからない」は 31.1%見られます。

○2014 年度調査結果では「思う」が 63.7%であり、今回は 9 ポイント程度低くなっています。

【性別】

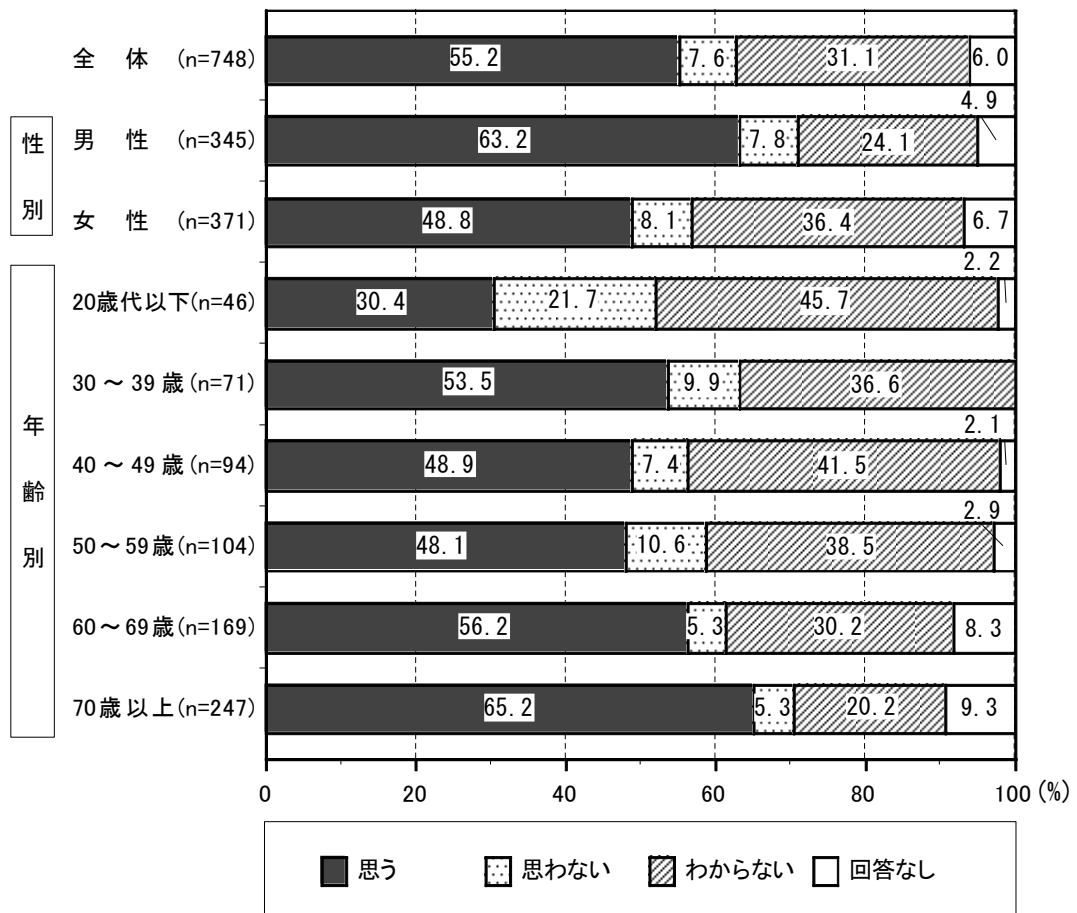
○男性で「思う」が 63.2%で女性より 15 ポイント程度高くなっており、女性では「わからない」が 36.4%と男性より高くなっています。

【年齢別】

○70 歳以上では「思う」が 65.2%と特に高くなっていますが、20 歳代以下では 30.4%にとどまっています。

○「思わない」は 20 歳代以下 (21.7%) と 50～59 歳 (10.6%) で高く、さらに「わからない」は 59 歳以下の層で高くなっており、中年以下の定住意識を高めることが課題です。

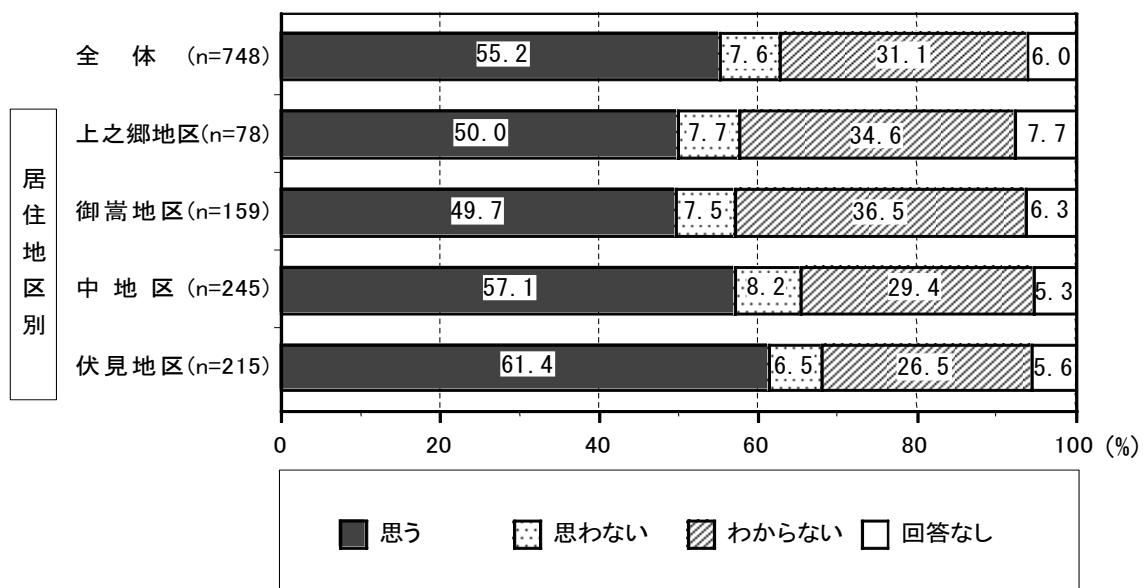
図表 2-2-6 御嵩町での居住意向（性別・年齢別）



【居住地区別】

○伏見地区で「思う」が61.4%と、特に高くなっていることが目立ちます。

図表 2-2-7 御嵩町での居住意向（居住地区別）



3 町の施策全般について

(1) 満足の回答割合

問5 (1)～(31)のそれぞれのまちづくりの施策について、どの程度満足していますか。また、今後の重要度はどのくらいですか。1～5のいずれかの番号を選んでください。

	A. これまでの満足度					B. 今後の重要度				
	満足	まあ満足	ふつう	やや不満	不満	特に重要	重要	ふつう	あまり重要ではない	重要ではない
(1) 自然環境の保全	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

○「満足」と「やや満足」という回答を足した割合を見ると、「ごみ減量、リサイクルへの取り組み」が37.2%、「自然環境の保全」が32.4%、「亜炭鉱廃坑への対策」が24.3%と、環境、防災面の項目が高くなっています。

○満足の割合が低い項目は、「農業者の育成」、「商業環境の整備」、「農業基盤の整備」、「観光の振興」という産業面、「住民が主体となる活動の支援」、「女性の社会参加の促進」という参加・活動面の項目や「効率的な行政運営」、「医療体制の充実」、「公園や緑地の整備」となっています。

【2014年度調査との比較】

○2014年度調査よりも満足度が5%以上高まった項目は、次のとおりであり、総合戦略における環境、防災、雇用対策等の取組みの成果や、取組む姿勢が評価されたものと思われます。

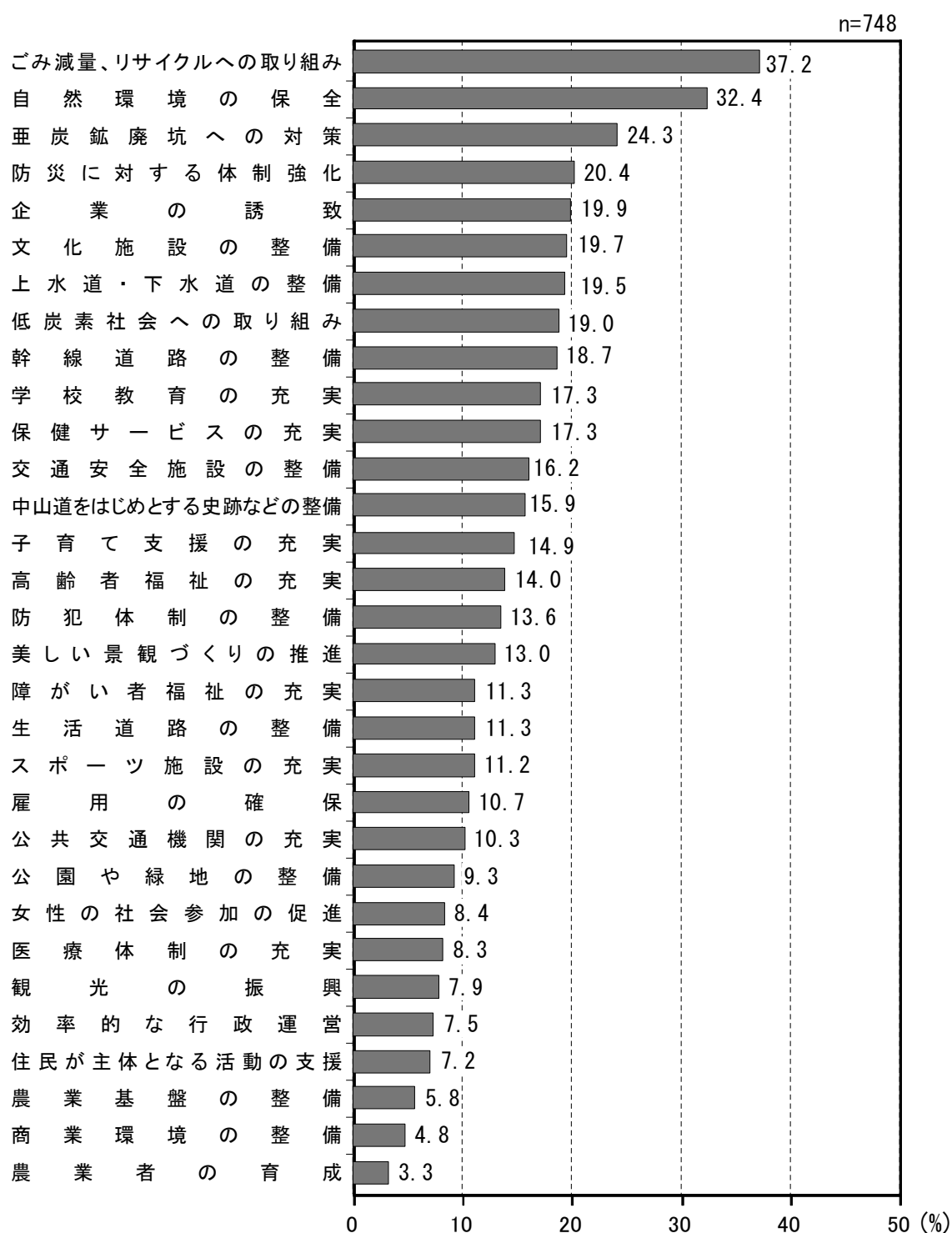
- ・自然環境の保全
- ・亜炭鉱廃坑への対策
- ・防災に対する体制強化
- ・企業の誘致
- ・低炭素社会への取り組み
- ・雇用の確保

○満足度が5%以上低くなった項目は、ごみ減量、リサイクルへの取り組み、上水道・下水道の整備など、2014年時点で既に進んでいた項目と考えられます。

○総合戦略の指標として使われている3項目は次のように、今回高くなっています。

- ・亜炭鉱廃坑への対策 (2014) 13.1%→(今回) 24.3%
- ・防災に対する体制強化 12.3%→20.4%
- ・学校教育の充実 14.5%→17.3%

図表 2-3-1 満足度（「満足」＋やや満足）



図表 2-3-2 満足度（2014 年度調査との比較）

(%)

		今回	2014年度	今回－2014
3	ごみ減量、リサイクルへの取り組み	37.2	42.9	△ 5.7
1	自然環境の保全	32.4	23.7	8.7
21	亜炭鉱廃坑への対策	24.3	13.1	11.2
6	防災に対する体制強化	20.4	12.3	8.1
18	企業の誘致	19.9	12.1	7.8
23	文化施設の整備	19.7	24.5	△ 4.8
28	上水道・下水道の整備	19.5	35.5	△ 16.0
2	低炭素社会への取り組み	19.0	9.8	9.2
26	幹線道路の整備	18.7	45.8	△ 27.1
4	学校教育の充実	17.3	14.5	2.8
13	保健サービスの充実	17.3	17.2	0.1
8	交通安全施設の整備	16.2	25.3	△ 9.1
22	中山道をはじめとする史跡などの整備	15.9	11.0	4.9
10	子育て支援の充実	14.9	15.4	△ 0.5
12	高齢者福祉の充実	14.0	13.6	0.4
7	防犯体制の整備	13.6	14.1	△ 0.5
24	美しい景観づくりの推進	13.0	14.2	△ 1.2
11	障がい者福祉の充実	11.3	12.2	△ 0.9
27	生活道路の整備	11.3	26.4	△ 15.1
9	スポーツ施設の充実	11.2	11.5	△ 0.3
19	雇用の確保	10.7	5.2	5.5
25	公共交通機関の充実	10.3	14.1	△ 3.8
29	公園や緑地の整備	9.3	13.2	△ 3.9
5	女性の社会参加の促進	8.4	4.7	3.7
20	医療体制の充実	8.3	11.3	△ 3.0
15	観光の振興	7.9	6.2	1.7
30	効率的な行政運営	7.5	6.3	1.2
31	住民が主体となる活動の支援	7.2	6.9	0.3
14	農業基盤の整備	5.8	4.3	1.5
17	商業環境の整備	4.8	3.6	1.2
16	農業者の育成	3.3	2.9	0.4

（注）前回 2014 年度調査において評価対象として示した項目が若干異なる。上水道・下水道の整備については前回分けていた項目であり、その平均を前回結果として示している。

(2) 満足度と重要度

○満足度が低く、重要度が高い今後の政策課題を考える上で参考になる項目は、下記のようになっています（満足の評点が低い順）。特に、高齢化が進むことへの対策にかかわる項目が多くなっています。

- ・ 商業環境の整備
- ・ 公共交通機関の充実
- ・ 医療体制の充実
- ・ 生活道路の整備
- ・ 効率的な行政運営
- ・ 雇用の確保
- ・ 交通安全施設の整備

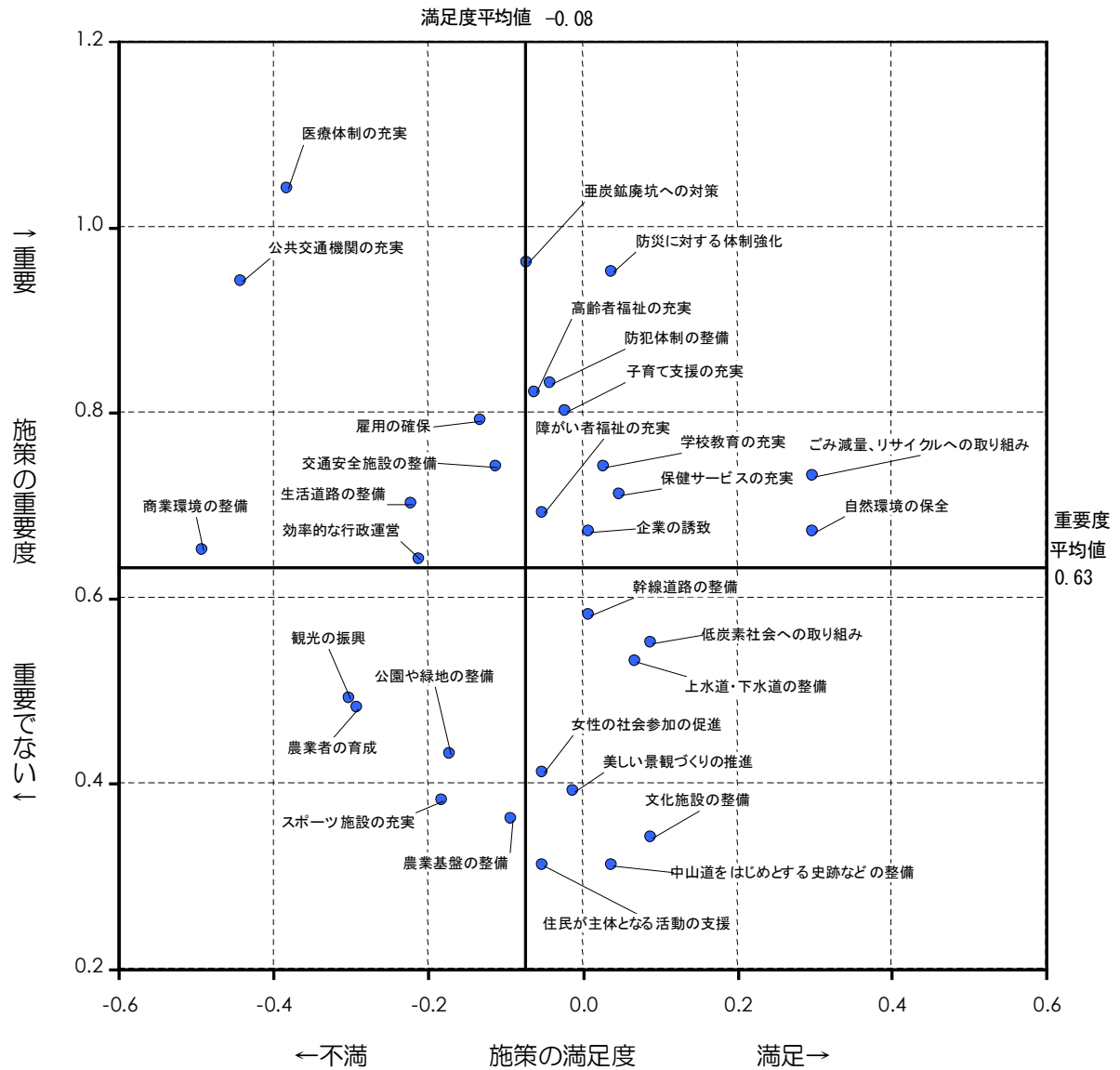
○満足度も重要度も高い項目には、「ごみ減量、地サイクルへの取組み」、「自然環境の保全」、「防災に対する体制強化」、「保健サービスの充実」など、安心した生活にかかわる項目が目立ち、引き続き今まで程度の施策を進めていくことが必要と考えられます。

評点の算出方法について

満足度の評点は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「やや不満」を－1点、「不満」を－2点として、それぞれ回答数に欠けて合計して、これらの回答総数で割った点数を示しています。

重要度についても、同様に回答にウエイトを付けて算出しています。

図表 2-3-3 重要度と満足度の評点



(3) 御嵩町が特に力を入れるべき施策

問6 問5の項目の中で、御嵩町が今後特に力を入れるべき項目はどのようなこととお考えですか。問5の(1)～(31)のうちで3つまで番号を選んで下の欄にご記入ください。

【全体】

- 今後特に力を入れるべきこととしては、「医療体制の充実」と「公共交通機関の充実」が約28%、次いで「亜炭鉱廃坑への対策」と「高齢者福祉の充実」が約20%、「防災に対する体制強化」が15.8%、「子育て支援の充実」が13.8%となっています。このように、医療・福祉、公共交通、防災に回答が集まっています。
- そのほかでは「企業の誘致」と「効率的な行政運営」、「雇用の確保」、「生活道路の整備」、「学校教育の充実」が約10%で並んでいます。

【性別】

- 男性で「企業誘致」が14.2%と女性よりもやや高くなっていますが、性別で大きな差はありません。

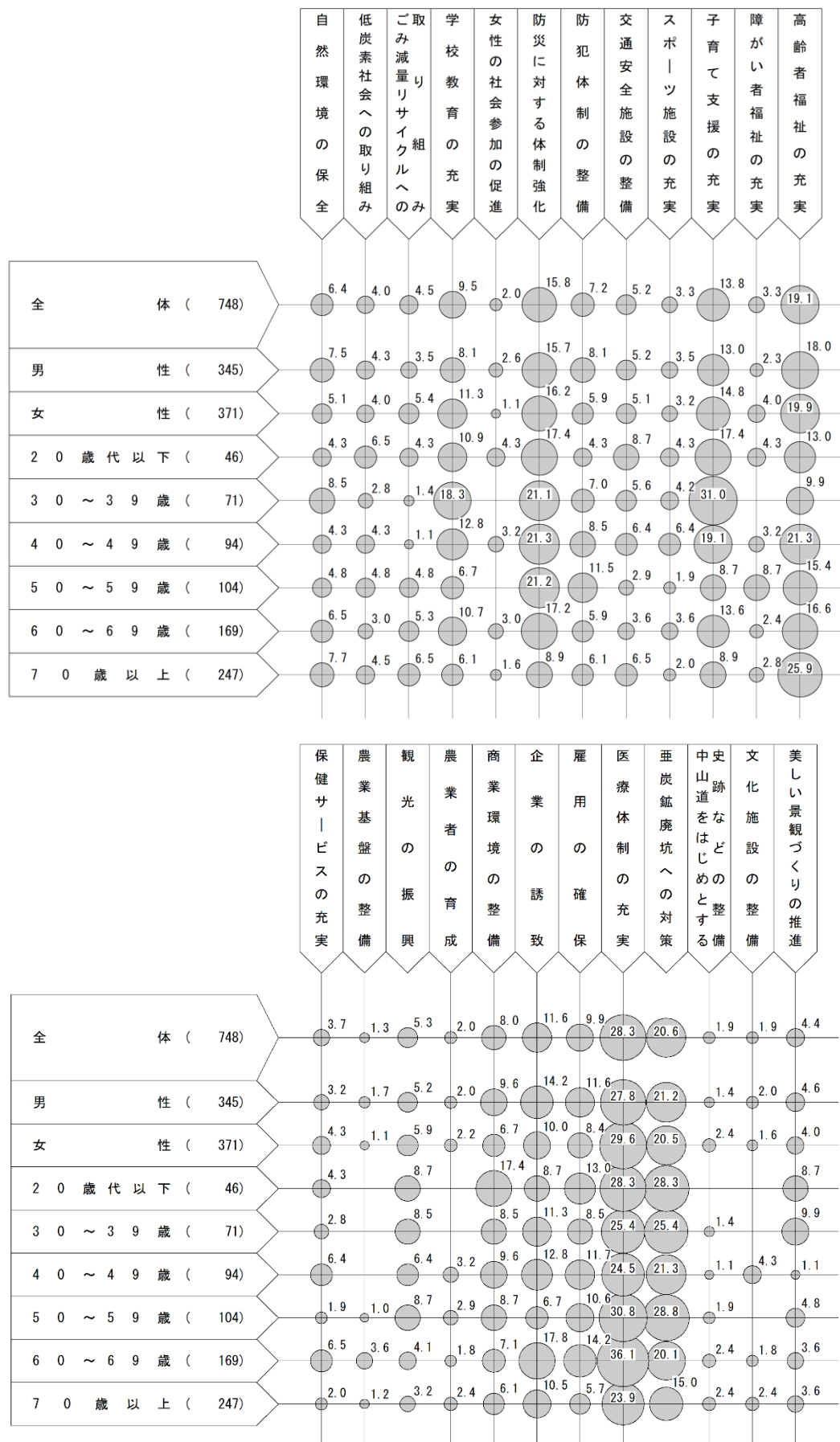
【年齢別】

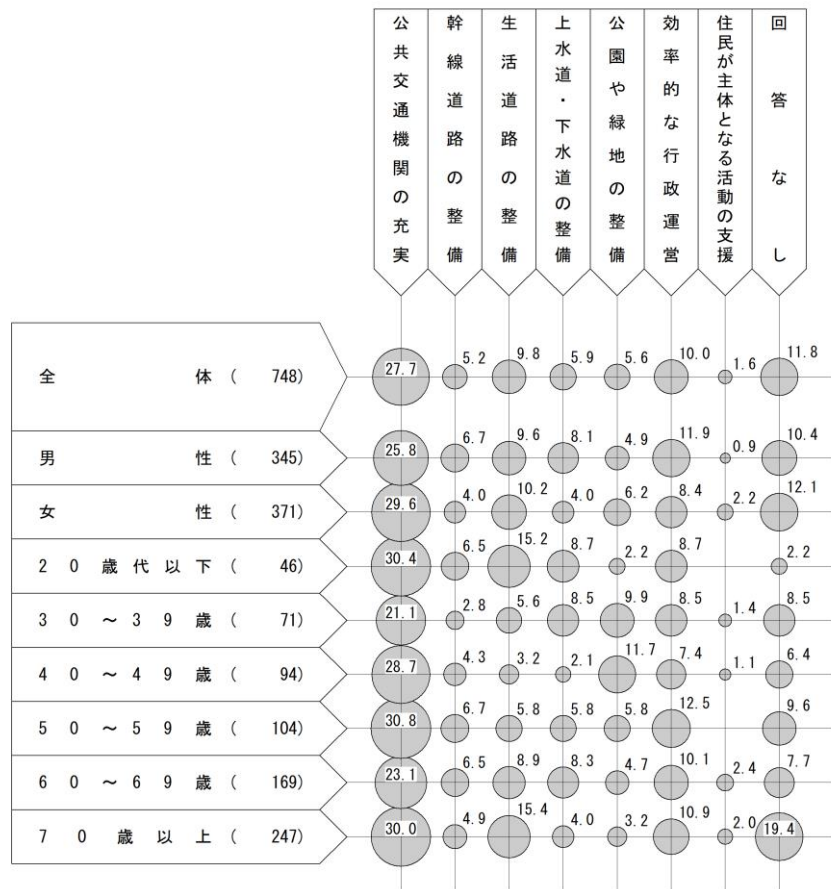
- 20歳代以下では「商業環境の整備」(17.4%)と「亜炭鉱廃坑への対策」(28.3%)、「生活道路の整備」(15.2%)が、他の年齢層よりも特に高く、また、50～59歳でも「亜炭鉱廃坑への対策」(28.8%)が高くなっています。
- 30～59歳で「防災対策の強化」(約21%)、30～49歳で「子育て支援の充実」(30～39歳で31.0%)、「公園や緑地の整備」(約10%)が、他の年齢層よりも高くなっています。さらに、30～39歳では「学校教育の充実」(18.3%)、「美しい景観づくりの推進」(9.9%)、50～59歳で「障がい者福祉の充実」(8.7%)も他の年齢層よりも高くなっています。
- 70歳以上では「高齢者福祉の充実」(25.9%)が、特に高くなっています。

【居住地区別】

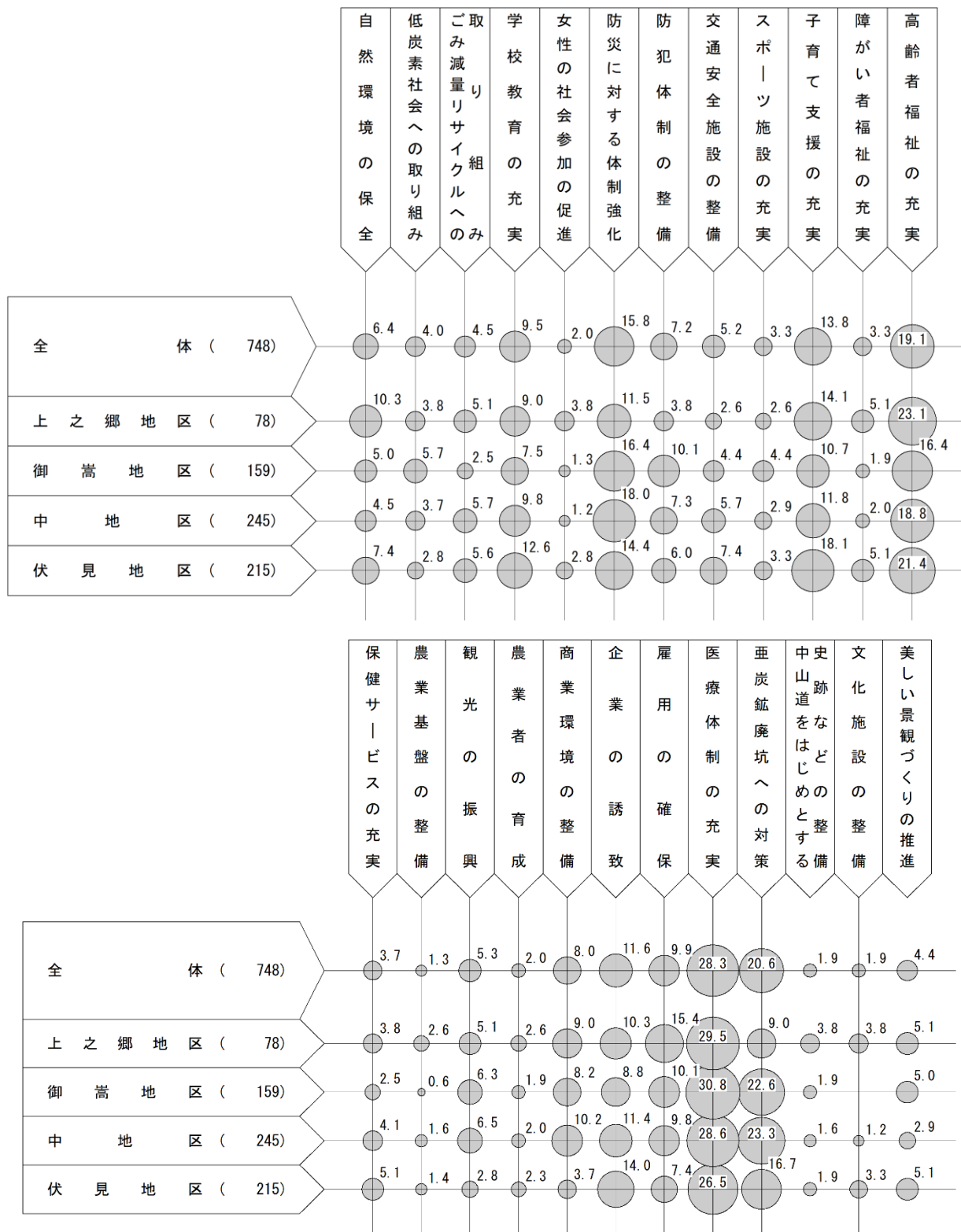
- 特に上之郷地区の回答に特徴があり、「自然環境の保全」(10.3%)、「高齢者福祉の充実」(23.1%)、「雇用の確保」(15.4%)、「生活道路の整備」(16.7%)、「上水道・下水道の整備」(15.4%)が、他の地区よりも高くなっています。
- 伏見地区では、「子育て支援の充実」(18.1%)が他の地区よりも高いのが目立っています。

図表 2-3-4 御嵩町が特に力を入れるべき施策（性別・年齢別）





図表 2-3-5 御嵩町が特に力を入れるべき施策（居住地区別）



4 まちづくりを進めてきた成果について

問7 御嵩町では人口の定住やまちの活性化に向けた取組みを進めてきましたが、次の各項目について、この数年の間で効果が上がってきたと感じていますか。1～5のいずれかの番号を選んでください。

設 問	はい			いいえ	わからない
(1) 環境を大切にするまちづくりで活性化してきた	1	2	3	4	5

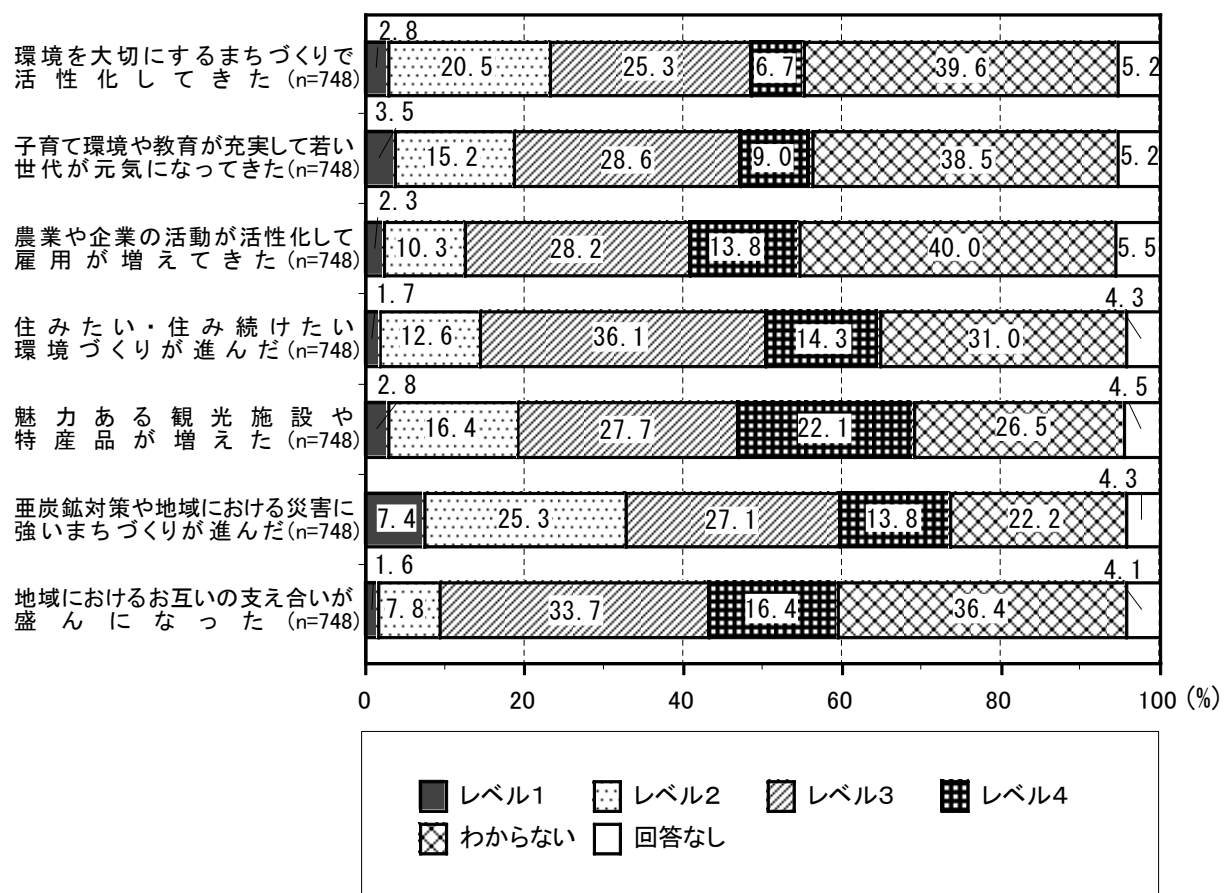
※項目は7項目

【参考】

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
人口（当年 4 月 1 日現在）	18,718 人	18,557 人	18,445 人
CO2 排出量	17.5t	18.5t	18.3t
工業団地における町内居住従業員率	19.0%	20.9%	22.2%
空き家バンク制度を活用した移住者数	3 人	0 人	6 人
自主運行バス利用者数	22,618 人	23,522 人	24,069 人
古民家を活用した交流拠点施設	0 か所	0 か所	1 か所
特産品「みたけのええもん」認定数	16 品目	18 品目	19 品目
防災リーダー数（町内在住者）	150 人	174 人	193 人

- 効果が上がった方の評価「1」、「2」を合わせた割合を見ると、⑥亜炭鉱対策や地域における災害に強いまちづくりが進んだが約33%と高くなっています。
- 次いで、①環境を大切にするまちづくりで活性化してきたが約23%、⑤魅力ある観光施設や特産品が増えたと、②子育て環境や教育が充実して若い世代が元気になってきたが20%弱です。
- ④住みたい・住み続けたい環境づくりが進んだ（約14%）、③農業や企業の活動が活性化して雇用が増えてきた（約13%）、⑦地域におけるお互いの支え合いが盛んになった（約9%）は、効果が上がったという評価は低くなっています。

図表 2-4-1 まちづくりを進めてきた成果



5 日ごろの生活や活動について

(1) 日常生活や地域活動への参加状況

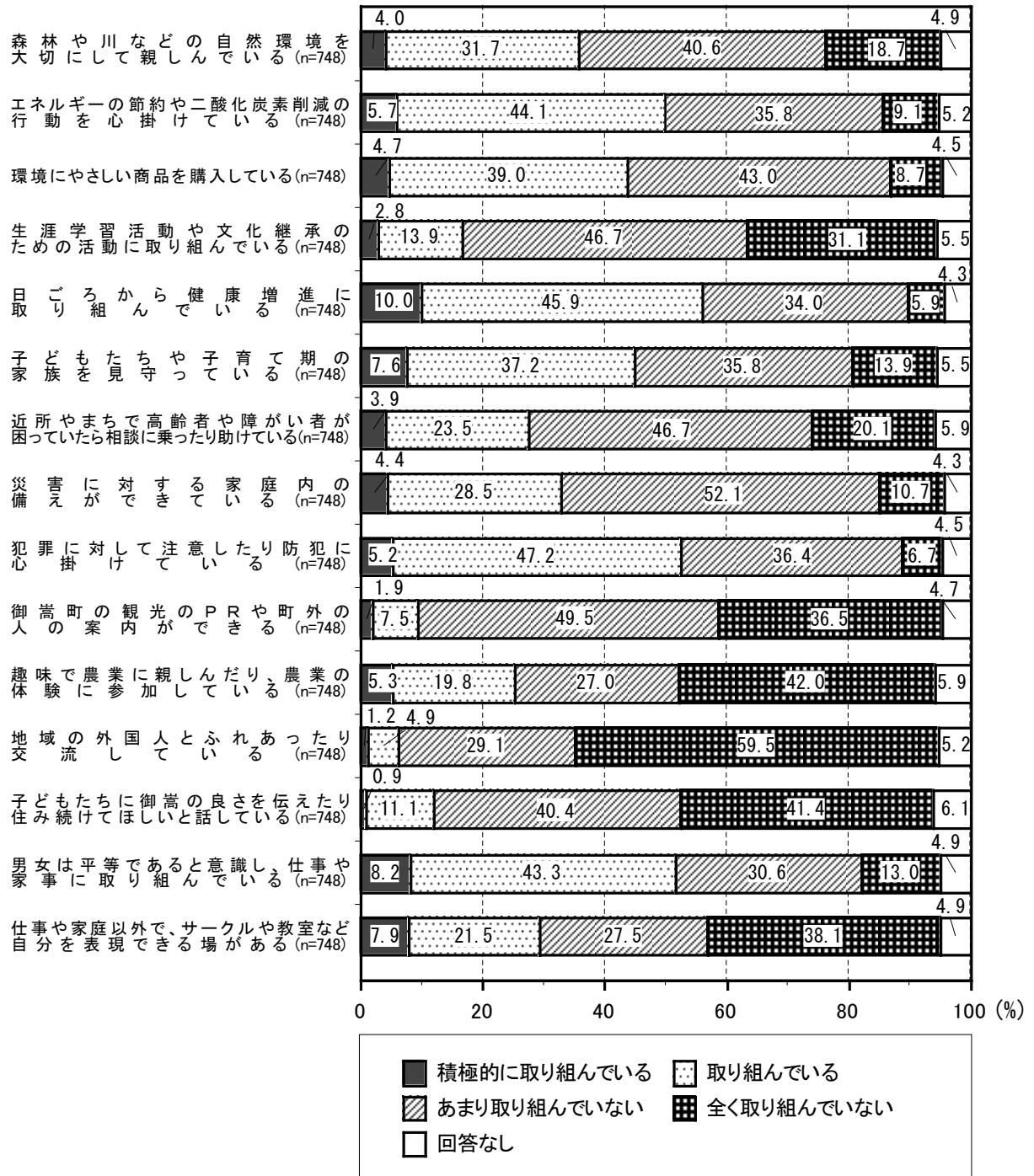
問8 あなたの日常生活や地域活動等への参加状況についてお答えください。(1)～(15)それぞれの項目について、あなたのお考えや行動に最も近いものについて1～4いずれかの番号を選んでください。

	積極的に 取り組んでいる	取り組んでいる	あまり 取り組んでいない	全く 取り組んでいない
(1) 森林や川などの自然環境を大切に して親しんでいる	1	2	3	4

○取り組んでいる（「積極的に取り組んでいる」＋「取り組んでいる」）の割合を見ると、(5)日ごろから健康増進に取り組んでいるが約 56%が最も高くなっています。次いで、(9)犯罪に対して注意したり防犯に心掛けていると(14)男女は平等であると意識し、仕事や家事に取り組んでいる、(2)エネルギーの節約や二酸化炭素削減の行動を心掛けているが半数程度見られます。

○さらに、(6)子どもたちや子育て期の家族を見守っていると、(3)環境にやさしい商品を購入しているが 45%程度、森林や川などの自然環境を大切に親しんでいる（36%）、災害に対する家庭内の備えができている（33%）が高くなっており、全体的に健康増進や男女共同参画、防犯、環境保全へ取り組んでいることが目立ちます。

図表 2-5-1 日常生活や地域活動への参加状況



(2) 参加している地域活動やボランティア活動

問9 あなたは、どのような地域の活動やボランティア活動に参加していますか。特に参加している・力を入れている活動を次の1～32のなかから5つまで選んでください。

【全体】

- 「自治会などの地域活動」が31.4%、「ごみの減量化、リサイクル活動」が26.9%と高くなっています。
- 次いで、「趣味・余暇のサークル活動」と「伝統文化の継承、保護」が10%強で、「健康づくり活動」と「スポーツのサークル活動」、「名鉄・公共交通の利用促進の活動」が10%弱となっており、地域活動、環境や生涯学習・文化関連のほか公共交通の利用促進のための取組みが行われていることが注目できます。
- 一方、「地域活動やボランティア活動には全く参加していない」が25.7%であり、これらの層の参加を促すことが課題と思われます。

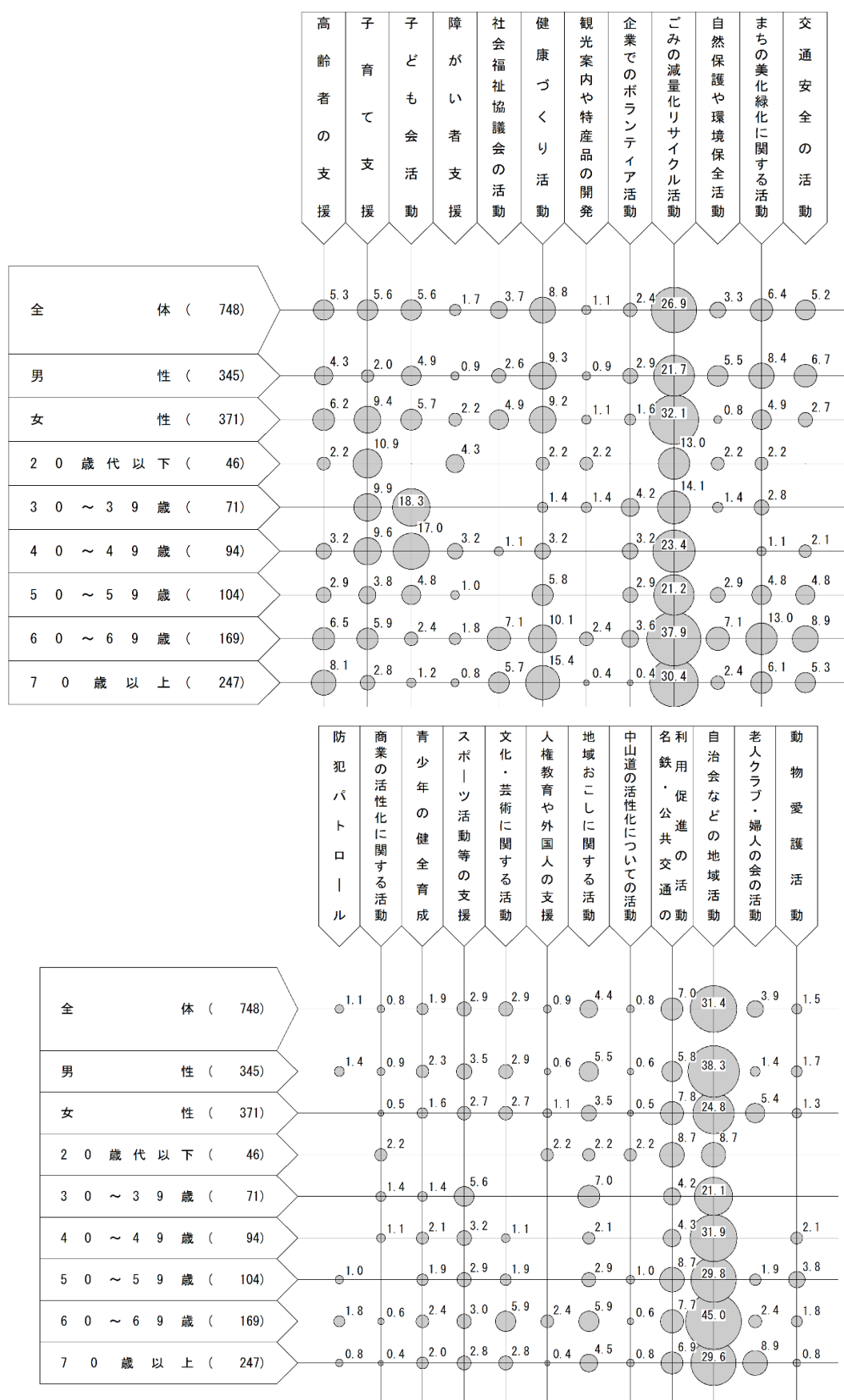
【性別】

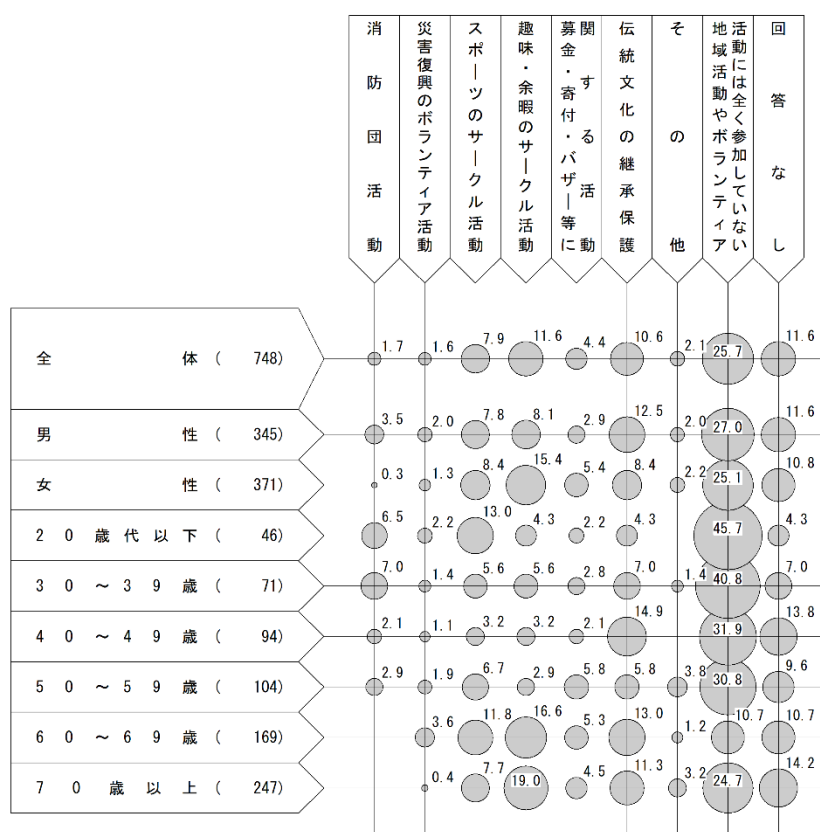
- 男性で「自治会などの地域活動」38.3%と、特に高くなっています。
- 女性では「ごみの減量化、リサイクル活動」（32.1%）、「趣味・余暇のサークル活動」（15.4%）、「子育て支援」（9.4%）が男性よりも高くなっています。

【年齢別】

- 49歳以下の若い層で「子育て支援」（約10%）、30～49歳で「子ども会活動」（17%以上）、20歳代以下で「スポーツのサークル活動」（13.0%）が、他の年齢層よりも高くなっています。
- 60歳以上の高齢層で「趣味・余暇のサークル活動」（16%以上）、60～69歳で「自治会などの地域活動」（45.0%）が特に高く、「まちの美化、緑化に関する活動」（13.0%）も他の年齢層より高く、高齢の層が自治会や地域活動の担い手となっています。このほか70歳以上では「健康づくり活動」（15.4%）が、他の年齢層よりも高くなっています。
- 59歳以下で「地域活動やボランティア活動には全く参加していない」が30%以上見られ、若くなるにしたがって高くなっています。

図表 2-5-2 参加している地域活動やボランティア活動（性別・年齢別）





6 まちづくりの進め方や方向について

(1) 子どもや若者にとっての住み続ける魅力の有無

問 10 御嵩町は子どもや若者にとって住み続ける魅力があると思いますか。1つ選んでください。

【全体】

○子どもや若者にとって住み続ける魅力があると「思う」は 20.5%にとどまり、「思わない」が 31.6%と「思う」の 1.5 倍となっています。「わからない」が 43.4%と多くなっています。

○2014 年度調査結果では「思う」が 18.4%であり、今回は若干高くなっています。

【性別】

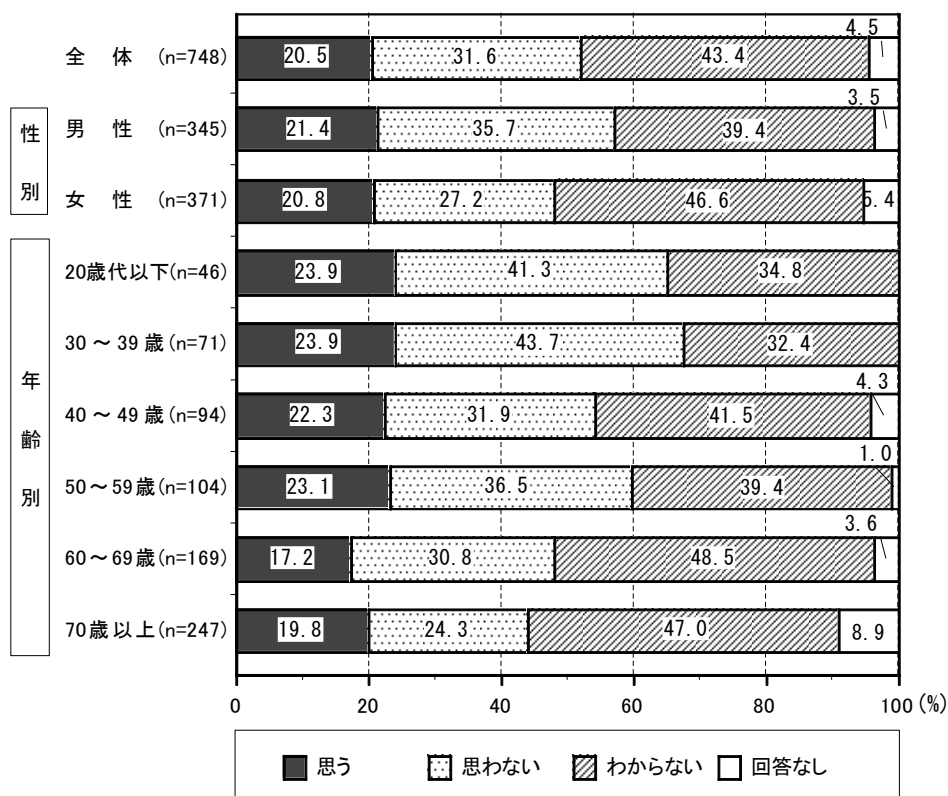
○男性で「思わない」が 35.7%と女性よりも高く、女性では「わからない」が 46.6%に達しています。

【年齢別】

○39 歳以下で「思う」(23.9%)、「思わない」(41.3%)ともに、他の年齢層よりも高く、50～59 歳でも「思わない」(36.5%)が高くなっています。

○女性や若い年齢層が魅力を感じることができるまちづくりの充実が求められています。

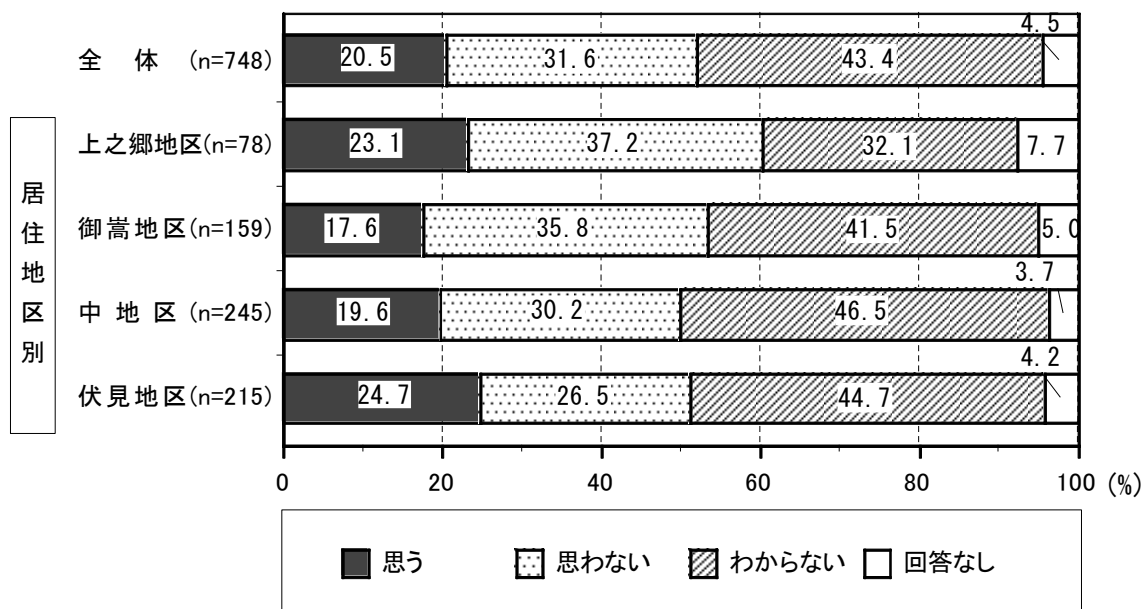
図表 2-6-1 子どもや若者にとっての住み続ける魅力の有無（性別・年齢別）



【居住地区別】

○伏見地区で「思う」（24.7％）が他の地区より高く、上之郷地区と御嵩地区で「思わない」（35％以上）が高くなっています。

図表 2-6-2 子どもや若者にとっての住み続ける魅力の有無（居住地区別）



(2) 「住んでみたい町」、「訪れてみたい町」というイメージの有無

問 11 御嵩町は、ほかの町の人から見て「住んでみたい町」、「訪れてみたい町」というイメージを持っていると思いますか。1つ選んでください。

【全体】

○ほかの町の人から見て住んでみたい、訪れてみたいと町のイメージがあると「思う」は9.4%にとどまり、「思わない」が48.1%と「思う」の5倍以上となっています。「わからない」が38.1%となっています。

○2014 年度調査結果では「思う」が6.2%であり、今回はやや高くなっています。

【性別】

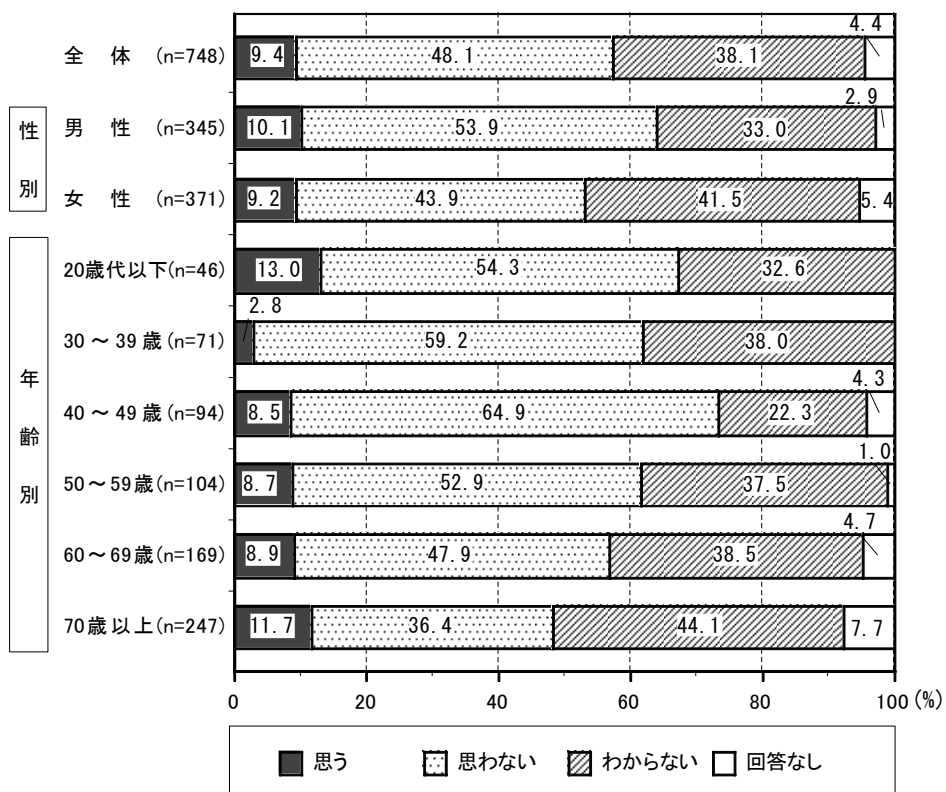
○男性で「思う」が53.9%と高く、女性では「わからない」が41.5%と男性よりも高くなっています。

【年齢別】

○20 歳以下で「思う」（13.0%）が他の年齢層よりも高なっています。20 歳代以下も含む 59 歳以下で、「思わない」（52%以上）が他の年齢層で高く、特に 40～49 歳では64.9%も見られます。

○本町は中年から若い年齢層が住み続けることができる魅力づくりとともに、対外的なイメージの改善や、町民が誇りを持つことが課題と言えます。

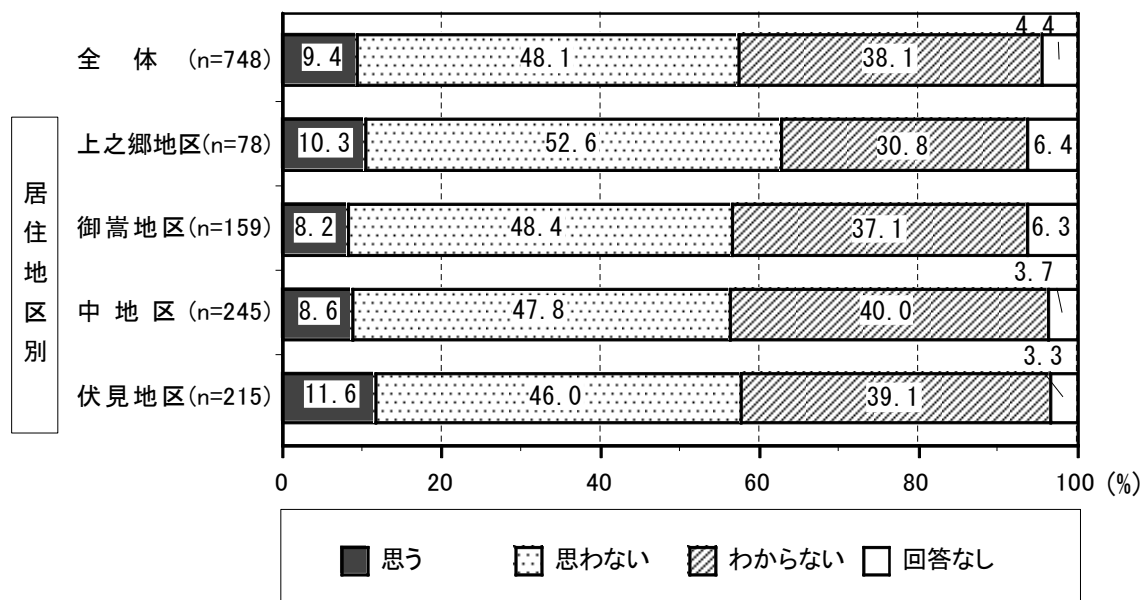
図表 2-6-3 「住んでみたい町」、「訪れてみたい町」というイメージの有無（性別・年齢別）



【居住地区別】

○「思う」が高いのが目立つ地区はなく、上之郷地区で「思わない」（52.6%）が高くなっています。同地区の自然が豊かな特性を生かしながら、住みやすさやその魅力づくり、活力などを高めることが課題と思われます。

図表 2-6-4 「住んでみたい町」、「訪れてみたい町」というイメージの有無（居住地区別）



(3) 若い人の定住や移住促進のための方策

問 12 人口の維持・増加は全国的な課題となっていますが、あなたは、御嵩町に若い人が住み続けることができたり、住む人を増やしたりするためには、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。3つまで選んでください。

【全体】

○「公共交通の維持・充実」と「雇用の場づくり」がそれぞれ約 45%、「買い物の便の向上」と「子育て支援・子育て環境の充実」、「福祉や医療制度の充実」が 30%強、「学校・教育の充実」が 20.2%となっています。このように生活の利便性と子育て、教育などが挙げられています。

【性別】

○女性で「公共交通の維持・充実」が 49.3%、「買い物の便の向上」が 37.5%と、男性よりも高くなっています。

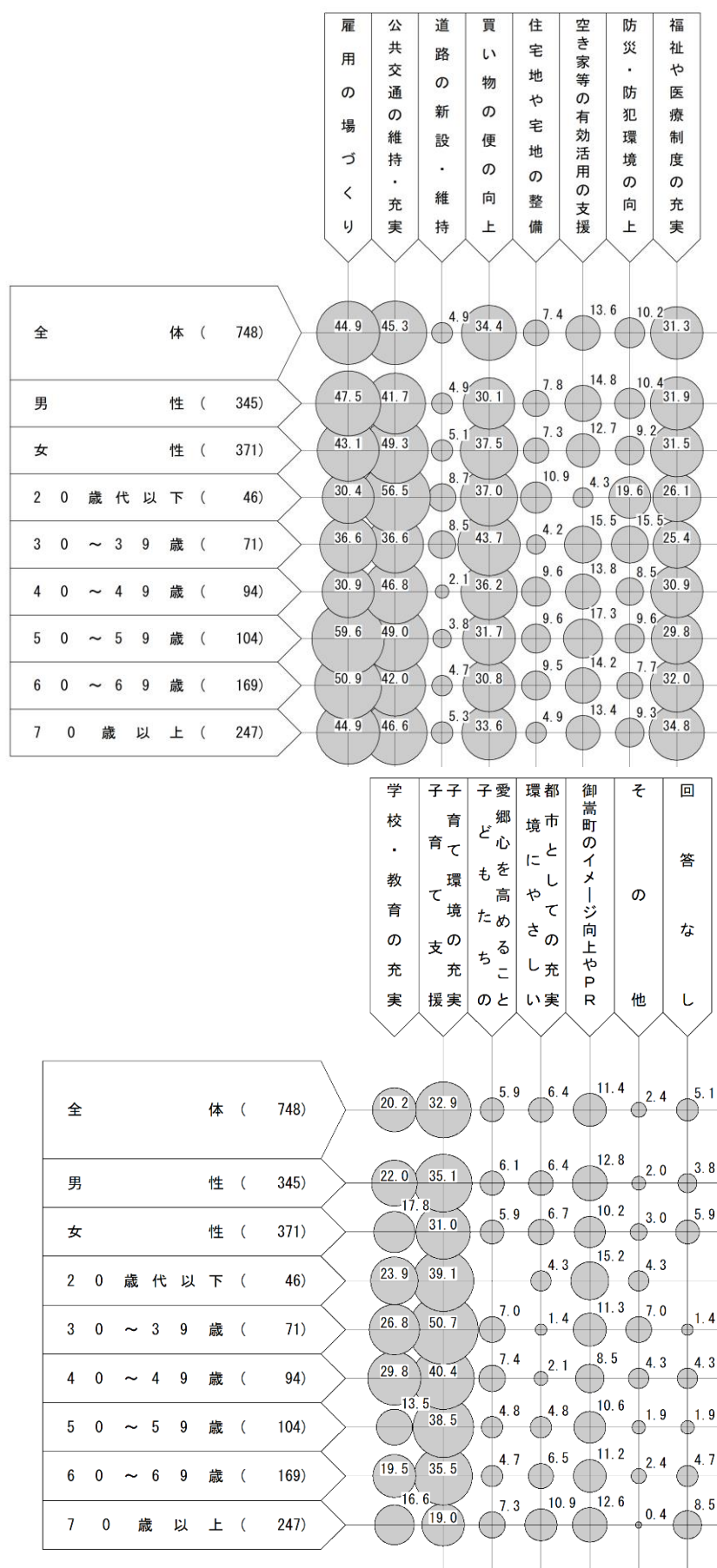
【年齢別】

○59 歳以下で「子育て支援・子育て環境の充実」（概ね 40%以上）、49 歳以下で「学校教育の充実」（23%以上）、39 歳以下で「防災・防犯環境の向上」（15%以上）などが、他の年齢層よりも高くなっています。

○20 歳代以下で「公共交通の充実」が 56.5%、30～39 歳で「買い物の便の向上」（43.7%）、50～59 歳で「雇用の場づくり」（59.6%）が特に高くなっています。

○70 歳以上で「環境にやさしい都市としての充実」（10.9%）が、他の年齢層よりも高くなっています。

図表 2-6-5 若い人の定住や移住促進のための方策（性別・年齢別）



(4) 高校生などが暮らしやすく夢が持てるようにする方策

問 13 高校生などが暮らしやすく、夢が持てるようになるには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを3つまで選んでください。

【全体】

- 「就職することができ生活が安定すること」が 60.2%と圧倒的に高く、次いで、「若者が親しむことができる施設やイベントがあること」が 32.0%となっています。
- 「若者が仕事や学校以外でも活躍できる場があること」と「進学したときに奨学金などの支援があること」が約 26%で、そのほかは「若者同士が交流したり出会う場があること」、「困ったときに相談に乗ってくれる人がいること」などに回答が分かれています。

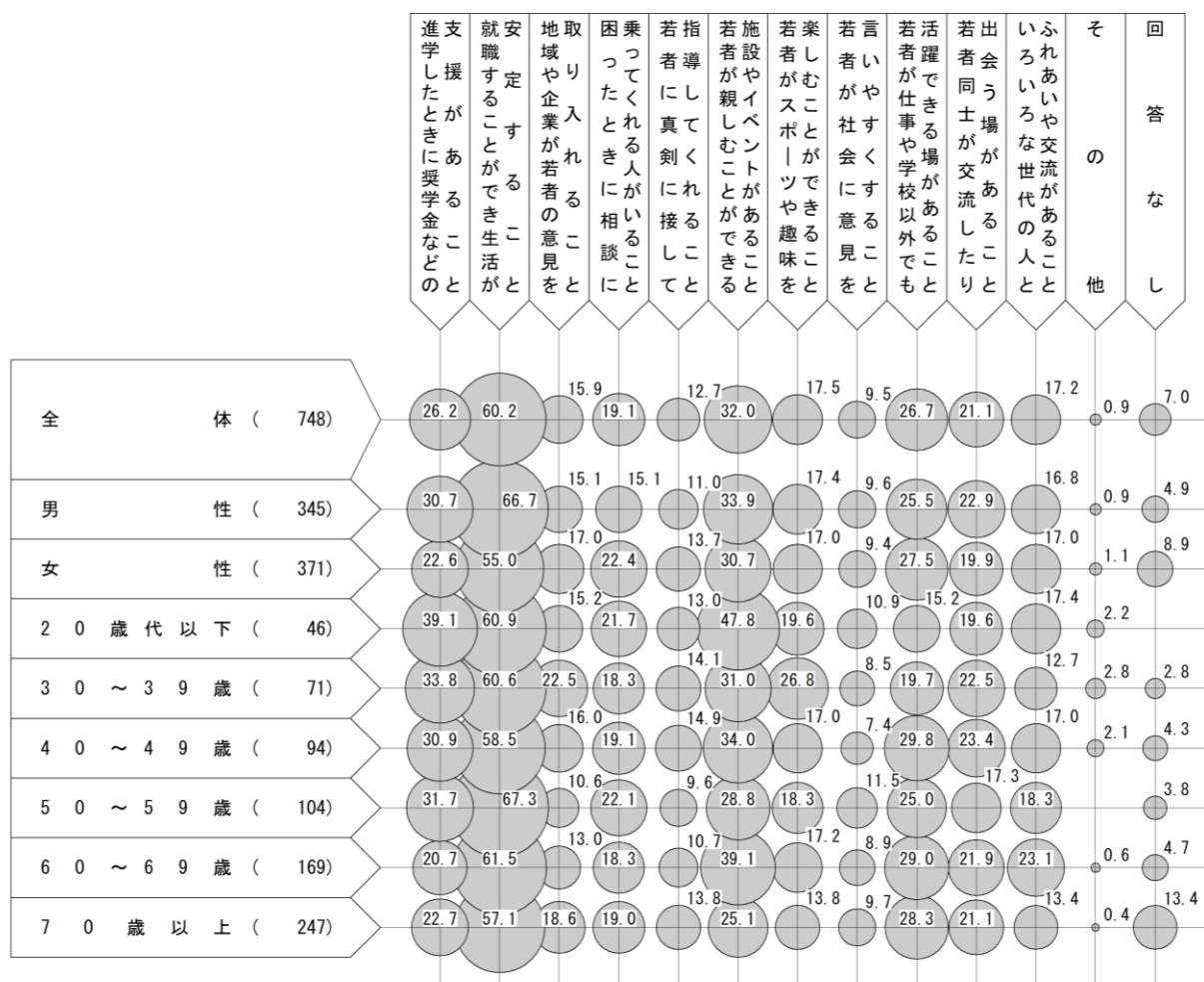
【性別】

- 男性では、「就職することができ生活が安定すること」（66.7%）と「進学したときに奨学金などの支援があること」（30.7%）が、女性よりも高くなっています。
- 女性では「困ったときに相談に乗ってくれる人がいること」（22.4%）が、男性よりも高くなっています。

【年齢別】

- 59 歳以下で「進学したときに奨学金などの支援があること」（30%以上）が、他の年齢層よりも高く、就学支援を求めています。
- このほか、50～59 歳で「就職することができ生活が安定すること」（67.3%）が特に高く、20 歳代以下では「若者が親しむことができる施設やイベントがあること」（47.8%）、30～39 歳で「若者がスポーツや趣味を楽しむことができること」（26.8%）、「地域や企業が若者の意見を取り入れること」（22.5%）が、他の年齢層よりも高くなっています。

図表 2-6-6 高校生などが暮らしやすく夢が持てるようにする方策（性別・年齢別）



(5) これからのまちづくりのキーワード

問 14 あなたは、これからの御嵩町のまちづくりで重要になるキーワードは何だと思いますか。あなたのお考えに近いものを3つまで選んでください。

【全体】

- 「少子高齢化対応」（46.3%）と「移動の利便性」（44.4%）が、並んで高くなっています。
- 次いで「災害対策、危機管理」（30.9%）、「子育て、子育ち」（27.5%）、「防犯、安全確保」（26.2%）が高くなっており、これらの5項目に回答が集まっています。

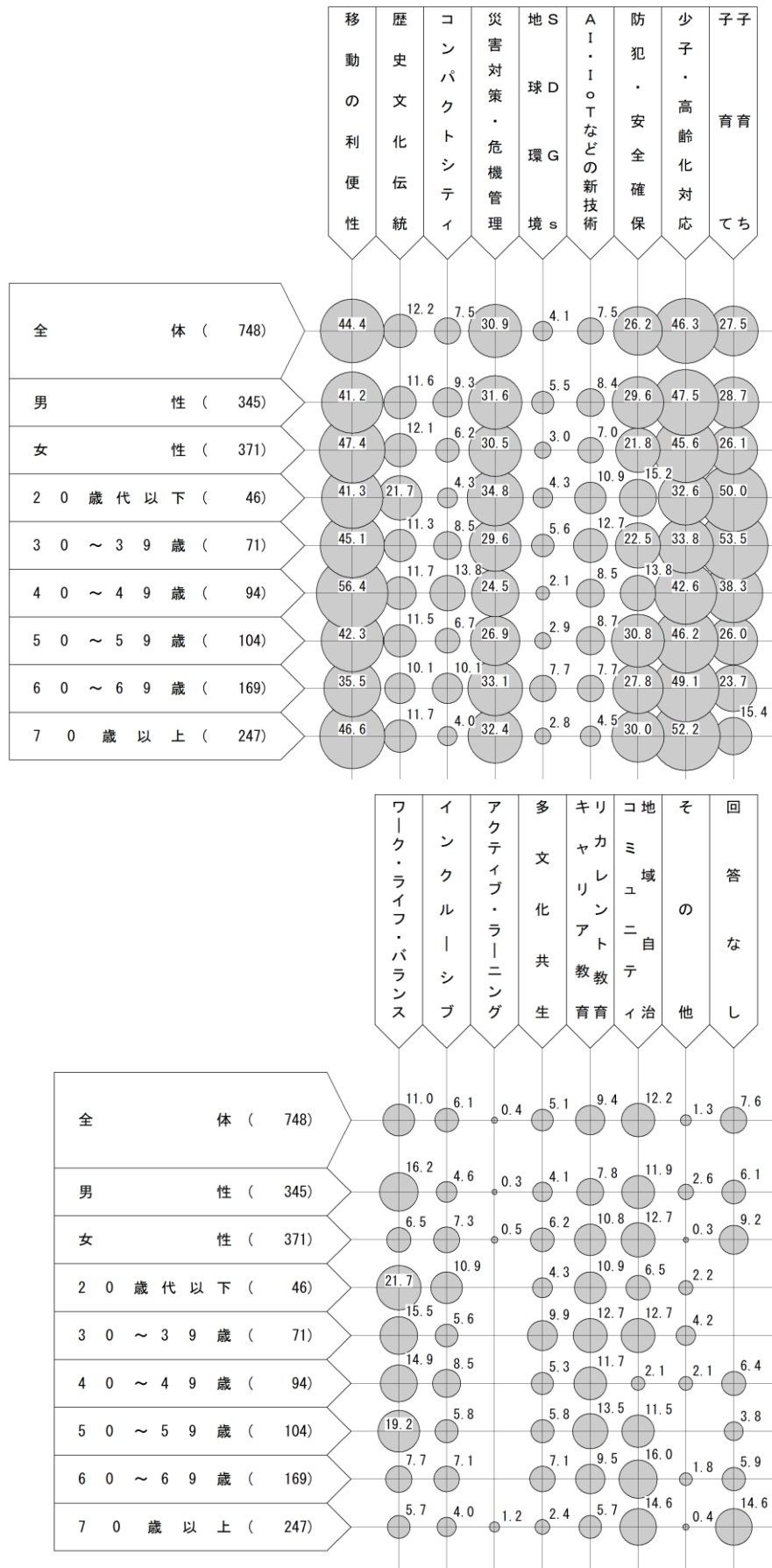
【性別】

- 男性では「防犯、安全対策」（29.6%）と「ワーク・ライフ・バランス」（16.2%）が、女性よりも高くなっています。
- 女性では「移動の利便性」（47.4%）が男性よりも高くなっています。

【年齢別】

- 49歳以下で「子育て、子育ち」が高く、39歳以下では50%以上を占めています。
- 20歳以下で「歴史文化、伝統」と「ワーク・ライフ・バランス」（21.7%）、「インクルーシブ」（10.9%）、30～39歳で「A I、I o Tなどの新技術」（12.7%）、「多文化共生」（9.9%）、40～49歳で「移動の利便性」（56.4%）、「コンパクトシティ」（13.8%）が他の年齢層よりも高く、若い年齢層は特色がある意見を持っています。
- 70歳以上で「少子高齢化対策」（52.2%）が特に高くなっています。

図表 2-6-7 これからのまちづくりのキーワード（性別・年齢別）



(6) 自由記入意見

問 15 御嵩町のまちづくりについて、ご意見ご提案などありましたら、どんなことでも結構ですのご記入ください。

○記入された意見を「自然・生活環境」、「健康福祉」、「教育・文化」、「産業・経済」、「都市基盤」、「行財政運営」の6つに分類し、各分類の中で細分化し、表にまとめました。多くのご意見ご提案をいただきましたが、ここでは本戦略に係る施策の提案を含むものを中心に一部抜粋しました。

自然・生活環境	
自然環境	・御嵩町は住み良い（自然があふれている）町。自然と共生するような特徴を出してほしい。 ・長い伝統や歴史を受け継いで自然に恵まれたこの素晴らしい地域を守ってほしいと願っている。
環境モデル都市	・校内に薪ストーブを取り入れて、林業体験、薪割り体験等を行い、灯油を使わずに温かい教室になってエコにもつながる体験をしてもらおうとか、そんな学校なら県外からでも来るように思う。自然豊かな土地への移住を考える人は薪ストーブも考える人は多く、町内でも薪ストーブ設置者に補助金を出すなどしたら林業活性化にもなるのでは。
ごみ減量・リサイクル	・ポイ捨てゴミのない町を目指して町民が協力して町の環境美化に取り組んで欲しいと思う。 ・御嵩町内をまわってまだきたないと思われる所あり。やはり郡上の町のようになりきれいと人は近づいてくる。 ・早朝6時頃、夜等の野焼きが多くて困っている。洗濯物ににおいがつく、家の中の空気の入替えが出来ない。自然が多く、空気がキレイなのに残念。
防災・防犯交通安全	・自治会全てに防災コンテナを設置してほしい。（特に駅には必ず設置してほしい）。 ・防犯カメラの設置を多数。 ・街灯を増やしてほしい、夜になると真暗で道もよく歩けない。国道沿いも真暗で自転車の転倒もよくある。 ・空き家があるが、環境と防犯のための対策、有効活用等を望む。 ・亜炭対策含めた防災の活動がしっかり進められ全国トップの「安全なまち」が実現できればそれこそがPRになり、人が集まる町になる条件だと思います。
健康福祉	
医療	・御嵩町内に総合病院を設立してほしい。 ・高齢者になると運転が出来なくなり、可児市、美濃加茂市の通院に大変困る。国民年金ではとても通院出来ない。 ・医療費削減に向けてよい取組が無いかいつも考えている。大府の「健康の森」のように子供から高齢者までわかりやすく健康づくりを学べる場があると

	よいと思った。
児童福祉	・子供の幼児が訪れられる様な児童館などボロボロ。子孫繁栄の為に子供が安心して遊べるところを検討してほしい。まちづくりというのはそもそも小学生・中学生などの現役の意見を大切に聞いてほしい。 ・これからの若者が御嵩町に住み続けたいと思うには、地域活性化も必要だが、子育てしながら仕事ができる環境が必要。それには保育施設を充実し、近くに働ける場所があること。 ・ぽっぽかんの利用について、町外は有料にすれば良いと思う。 ・子育て世代が得する制度が多い程若い方が増えると思う。以前より住んでいる方々は「住めば都」だと思うので、愛着があれば子育てを卒業した世代のＵターンの方もあると思う。
高齢福祉	・老人ホームが必要だと思う。 ・お年寄りに健康を兼ね散歩をしてもらう。屋外に出て観光客などに会えば挨拶、世間話、観光地の話など、地元の情報発信、少し足を延ばせば、伏見（東寺山古墳・願興寺桜・可児川堤桜など）、中・御嵩（播隆上人名号碑・顔戸城址・可児川桜・宝塚古墳・愚溪寺・みたけの森ささゆり・城址公園）、上之郷（平芝永林寺・すいれん・小泉神社・山車・鬼岩公園・可児川電気ダム跡・舩五山茶園）など最寄りの見どころを教えられると思う。
その他	・筋トレ（マシン使用）教室が中地区には無いので欲しい。健康に役立つ。
教育・文化	
学校教育	・いなかぐらしの良さを生かして町をつくり、こどもたちの声を聴き実行し大切に育てることで、御嵩と自分や周りの人々を愛せる大人へ！ ・小学校の建替えを！ ・子が産まれたとき、少人数の小中学校に通うことになることに少し不安があったが、今は親の顔がお互いわかっている環境もよさそうだと感じ始めている。でもやはり、少なすぎる（同学年が１０人以下）のもかわいそうに思える。そこで、昨年あたりから他校の学区の子も上之郷地区へ移動できる制度ができたというがどれだけ効果が上がっているのか・・・？授業が手厚いので勉強に遅れる子がいないとかは聞きますが、もっと例えば上之郷小中１２年通ったら英語が話せるようになって、中学校の修学旅行はイギリスへホームステイとか、もっと偏って、シュタイナー教育を一部取り入れてみるとか（求めている人は移住してでも来ると思う。）。 ・どの学校も少人数となってきた。学ぶ場、スポーツ、部活において少人数がネックになる。せめて、中学は町内ひとつにすると交流も深くなり、郷土愛、きずなが増してくると思う。少人数に苦勞しながら義務教育を過ごしている子が多すぎる。これでは将来この地に良いイメージが持てず、残りたい残したい気持ちも生まれない！！子供たちの出せない苦しい声を聴いてあげて欲しい。 ・若者に魅力ある「まち」をアピールするうえで、東濃高校の改革というか、ＩＴエンジニアを育てるような学科はできないだろうか。
生涯学習	・中公民館の建て替え改修案は計画ないか。他の市町村はきれいな建物が増え

	ていて、今後のきれいな町づくりの課題にしてほしい。 ・ホールが中公民館のホールではさみしい。もう少し広さのあるものを作ってもらえると良いと思う。 ・可児カルチャーセンターのチラシを見るたびに、御嵩町にもこのような施設があったらと思う。特に音楽コースが大変魅力的。高齢者の方で特技のある方がいたら、音楽コースを充実していただけたらなあと思ってしまう。 ・文化施設（ホール）が無い。大勢の人が集まれる場所が欲しい。 ・今でしか聞けない知識や昔話に花を咲かせてもらう場があると良い。2冊目のじいさまから聞いた話の発行は。
社会体育	・B & Gにプールがあるが子供が1日遊べて町外からも人が集まるようなプールを作ってほしい。 ・B & Gのプールが夏場しか使えずとても残念。通年使えるとありがたい。
史跡・文化	・御嵩町は歴史と文化のまちだから、もっと昔の中山道を意識して子供も大人も伝統を伝え、また受け継ぐことを望む。特に御嵩町じいさまから聞いた話などの読史は忘れがちな力を入れてほしい。 ・旧中山道の早急な整備、特に御嵩町内から伏見まで。
その他	・山村留学を行ってはどうか。
産業・経済	
農林業	・御嵩町に来れば儲かると思われるような町であってほしい。若者が農業をすると儲かる場所にしてほしい。農家のイメージ改革を！せっかく自然があるから田畑を使わないともったいない。 ・耕作放棄地が増えている。誰もが簡単に農地を借りられるシステムがあると良い。ネット上でフリーマーケットが流行しているという事は、「他人の物を使う抵抗がない」ことを示していて、ネットを使用しなくても欲しい方、譲りたい方がわかるような窓口があると良い。 ・御嵩町内は農業で野菜とか沢山作っている方がみえるので、町内で採れたて野菜を販売して欲しい。スーパーマーケットでなく、専門店（野菜・魚・肉）があった方が町内で買い物する人が増していくのではないのかと思う。
商工業	・雨の時でも遊べる広い施設が（ショッピングセンター以外）あると家族で過ごせる内容が充実していくと思う。 ・買い物の場所、レジャー施設がないと若者は集まらない。自分たちで行けないと、他から来てもらうことも考えると工夫がいる。 ・とにかく上之郷地区にスーパーかコンビニを！！ ・自動車や自転車にも乗れなくなった。歩いて行ける所で買い物が出来るのが楽しくとても嬉しいこと。せめて、移動スーパーを行って下さる店が来て頂ける事を望んでいる。 ・ちょっとした商店街があると楽しい。フルで働いている人も多い為、お惣菜等を取り扱う商店街があるといい。よくTVでやる食べ歩き等楽しそう。
企業誘致・雇用	・農業や企業の活動が活性化して雇用を増やして生活しやすい町づくりをしてほしい。 ・御嵩町には車での移動手段としては高速道路のIC・国道もあり、あとは立

	寄ってもらう為には、大型商業施設誘致また働く場所の確保の為の企業誘致が必要。 ・現在はインターネット技術でどこでも仕事ができるシステムができています。そのような企業を誘致し子育て支援を充実しワーク・ライフ・バランスの良い地域にできる可能性がある地域だと思う。 ・社会人になって以降ますます若者離れを感じる。近くに少しでも家から出て買い物に行こう時間をつぶしに遊びに行けるような場所があれば町中住民も買い物に行きますし町外からもその場を求めて町に訪れる住みつく人も増えるのではないかな。 ・高速道路が近く物流の流れが良いと思うので格安で大手企業に土地を貸してあげたら良いのでは。雇用が増える。 ・まだまだ町内の団地等空きが多い。企業を増やし町内に家を建てて欲しい。大きい会社の誘致。 ・バイパスの一角に企業・工場誘致をするか、できなければ他所からの住民の移住を促進させるため、いろんな診療科目の医院を集めて総合病院ならぬ「病院村」はできないだろうか。
観光	・子供から老人迄誰もが気軽に楽しめる場所があまりにも少なく感じる。大層なことは必要ないと思うが、歩ける場所（里山付近とか）ちょっとした健康器具（手作りでも良）が設置してあるとか、自然が財産と思うとそんな場所いっぱい存在している。ちょっと出掛けてみようがいっぱいあると楽しい。 ・今は若者がtwitterといったSNSで写真をあげていることが多いので、御嵩でも、若者がみんなに見てほしいと思えるような場所、名産品、食べ物、文化などが必要のように感じる。アイデア・企画コンテストを聞いて、若者から意見をもらうのもいいのではないかなと思う。 ・町の活性化、いきいきとした町づくり若者のとりこみの一貫として空き家対策として食でも手作り品でも販売をしてその若者達が生活していける様に町が援助。犬山市や大須のような、短期間で大きな違いをうみだしたところを見本にしてほしい。 ・全国的に見てそれ程観光の目玉としてPRしても仕方がない事をPRし続けるのは費用対効果の観点からみるともったいない。観光客が呼べる程のものかとしっかり議論して欲しい。 ・御嵩の地に花の名所（桜とか花桃等）を造って県内外から花見客が訪れる様な場所が出来るといいと思う。 ・ネイチャーツアーをすとか、森で子供たちが遊べるようにするなど、森を壊さずに出来る観光をぜひ取り入れてもらいたい。 ・広見線と21号バイパスを絡ませる「まちづくり」が必要である。21号バイパスには東海環状自動車道の可児・御嵩インターがあり、花フェスタの観光客が訪れる。近隣の多治見には、土岐アウトレットがあり、2、3年後にはイオンモールもできる。三河地方からこれら施設に多くの観光客が訪れるため、これら観光客をターゲットとして21号バイパス沿いに「グルメロード21」と称した大きな飲食店街ができないだろうか。 ・新丸山ダム工事が続いているが、御嵩町側からの観光スポットはできない

	か。
地域振興	・「みたけのええもん」と、スタバ、タピオカ店とのコラボ。 ・人気のカフェレストランオーナーなどを講師に招き教室を行う。 ・町の運営側がどうするかよりも、自立し面白いアイデアを持った人が町の中に増えることでその輪が広がり内側から活性化すると思う。 ・空き家をリノベーションして賃貸等してほしい。 ・郡上や美濃のように古民家や古い町並みに若い世代が住んだり、お店が出来るような補助や取り組みを期待。 ・広見線沿いに可児市Kルートの延長として遊歩道を整備し、可児駅から遊歩道を歩いて御嵩駅まで来たのなら、帰りは広見線で帰るとかできないか。 ・「まちづくり」の中心を上恵土地区として、そのエネルギーを利用して東の方へ発展させるという手もある。
都市基盤	
亜炭鉱廃坑対策	・御嵩町は亜炭鉱のイメージでマイナスが大きい。亜炭鉱対策の進行状況をインターネットなどで日々公開してほしい。 ・ほっとみたけ2019年7月号には現在の充てん工事進行状況が詳しく記載されてよく分かった。今後も定期的なお知らせを望む。 ・バイパス沿いは魅力ある場所だが、「亜炭鉱跡地問題」がネックになって、今までもモール進出計画が挫折した。やはり、充填工事などの対策ができて、安心安全宣言がなければ、企業工場も住宅も集まってこない。
公共交通	・名鉄広見線新可児～御嵩間の開業100周年に向けたイベントを名鉄と可児市と御嵩町で大々的にイベントをして頂きたい。 ・ますます高齢化が進む。もっと充実した移動手段を拡充してほしい。現在の一部地域のバス運行はいかななものか。 ・名鉄広見線を絶対に無くさない。電車がなくなると絶対御嵩町は哀通する。車を使わなくても安心して生活できるようなまちづくりを。 ・名古屋などの都市に出るには可児まで一旦出る必要があるが、そもそも可児まで行く移動手段の選択が少ないと思う。また、ICカード専用の改札を導入すべき。 ・広見線を残す活動をしているにもかかわらず、各駅にスロープがいまだ設置されておらず、車いす使用者やご高齢者の方の不便さを理解して活動にとりくんでいただきたと思う。健常者だけが公共の場を使用しない。障がい者も高齢者も利用する。 ・明知線や他のローカル線のようなイベント列車の企画を。光秀にからんで。 ・御嵩口駅にも駐車場を作してほしい。
道路整備	・東海環状道可児御嵩IC付近の4車線化をNEXCO中日本と国（国土交通省）に要望してほしい。片側1車線での合流が危なく感じる。 ・国道21号の4車線化。 ・御嵩町内の町道等の草木の撤去及び、町道の舗装工事を要望しても予算に限りがあると言う、なかなか良い返事がもらえない、それどころか各自治会にボランティアでお願いしたい等と言う、なかなかうまい話である。無駄な景品をばらまくイベントを即刻中止すべきで、少しでも町道の舗装工事などにその予

	算を役立ててほしい。 ・町内の小さな川に掛かっている橋に転落防止と思われるガードレールにより本当の緊急時に救急車はその橋を渡れず遠回りをして救急場所に行かなければならなかったりする。命に係わる重大なことであり、これからでも地元によく話を聞いて協議して撤去なり高さを変更するなどして、早急に救急車が通れるように配慮してほしい。 ・自治会から町へ道路（町道）の整備要求を7～8年前から提出しているが、なかなか整備されない。5～6年にはなんらかの修理、整備されていくべきだと思う。
宅地整備	・住宅地を増やすこと。若者の農業離れの用地を買収し、宅地開発し町外の住民を増やすとよいと思う。 ・リフォームについての助成金。 ・もう少し、マンションやアパートの整備をし、家賃設定をしても良いのでは。内観も古いと感じてしまう物件が多い。
治山・治水	・土砂崩れ対策を行って欲しい。
公園・緑地	・公園が各地区に少ないため、道路で遊ぶお子さんが多いように思う。ぜひ、各地区に公園、子供が安心安全に遊べる場所を作って頂きたいと思う。 ・各地に公園を整備するのではなく、南山B & G公園より規模が大きい多目的公園を1つ整備していただきたい。御嵩といえばこの公園といったようなイメージが良く、若年から老人まで足が運べる公園を作ってほしい。緑あり、水あそび場あり、軽食（喫茶店）あり、散歩コースあり、芝生あり、遊具ありの公園。 ・人工的な公園を造るより、自然森を残した何もない里山がいいと思う。 ・B Gの公園遊具が安全かどうか見直して欲しい。綱木グラウンドの公園の遊具を直して欲しい。サビだらけで安全に遊べない。
その他	・少子高齢化対策としてのコンパクトシティ化等。 ・コンパクトシティに全力を注いでほしい。
行財政運営	
住民参加・コミュニティ	・まちづくりを主体的に取り組む団体（NPO・まちづくり会社）を育成すべきと考えます。行政的視点以外のアイデアや取り組みが期待できる。 ・町内にあるサークル活動に参加していますが低会費でやれるのはたいへんありがたい（コーラス・ヨガ）。これからも続けてほしい。 ・自治会活動については、必要最小限なものに限って行うようにして頂きたい。町の方で自治会活動のガイドラインのようなものを作って頂きたい。 ・各ボランティア団体の活動状況が分かったり、連携を取ったりできる、N P Oの様な存在があるといい。
国際化・多文化共生	・最近バローなどでもベトナム人の人が多いと感じている。自転車であちこち通っている姿もよく見かける。これからもどんどんこういう外国の方が増えていくと思う。日本語があまりわからない状態のまま住み続けているので、外国の人がせめて日常会話に困らないくらいの力をつけられるような場所を提供、ボランティアでも教えて下さる方がいるといいと思っている。

	・外国人がとて多くなっていると思う。外国人も日本人も関わりをもつ機会がなく、少しお互いを怖く感じているのではと思うことがある。交流できる場はないか。 ・御嵩町にも外国人の若者が働きに来ているが、企業や本人等に日本での、御嵩町での日常生活の習慣を説明しトラブルの防止をよくPRして頂きたい。
情報化	・高齢者が多いからといって高齢者向けの政策ばかりするのではなく、若者に住んでもらうには子育てや教育のほか、田舎であってもIOTなどハイテクな暮らしが出来る事に力を入れるべきだと思う。 ・AI、IOT、5G等技術革新の先取り。
行政運営	・町営住宅の一部を若者夫婦が住めるような建物に建て替え入居PR、一定期間公的支援をする。 ・御嵩町単独で全てを完結することを考えないで、周辺行政とも積極的に交流、協力していく方が良い。 ・コンパクトな町なので、みなさん親しみやすく、職員の方もなじみやすくで良いと思う。でも異動が早いので、慣れた頃に他の部署に移ってしまうので、結果が出ないのではと思う。町民へのサービスも最近悪くなってきたと思う。 ・町営住宅が古いので、板良以外の場所で作ってほしい。地元の業者で町営住宅をつくり、少し補助しながら若い方に住んでいただき、永住希望の方には土地を少しでも安く購入していただき住んでいただけるようにしてはどうか。
新庁舎整備	・御嵩町新庁舎（役場）の建物としてのイメージは？なるべく中山道の宿場町としての雰囲気が漂うものにし、一部木造化して和風建築にして「中山道御嶽宿」としてのにぎわいのあるものとして頂きたい。 ・庁舎の建設より老朽した学校施設の充実を優先すべき。
情報発信	・今大学生で家がある御嵩町にはただ帰ってくる場所であるだけで、ほとんど日中は町外にいるため御嵩町のことを何も知らない、情報を手に入れようともしていないと感じた。興味が全くないわけではないので、興味のわくような事業などがあることを知ることが出来れば若い人を御嵩町のことを知ることが出来るのかなと思う。 ・町のPRやイベントなど、もう少し広範囲に知らせて町の外から人が来るようにしていくのを強化していくといいと思う。役場の仕事（まちづくりでの活動や行った政策）をもっとアピールしてもいいと思う。 ・御嵩町の歴史文化を地域外の人に知ってもらおうようPRし、歩いて巡ることの出来る観光スポットを整備されたい。